

平成24年度

事業実績書

(病虫害防除関係)

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課
(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)

平成24年度新たに発生が確認された病害虫

詳細は52ページ 特殊報第1号を参照

【チャトゲコナジラミ】 *Aleurocanthus camelliae* Kanmiya & Kasai



【写真1】 成虫



【写真2】 幼虫

写真提供:

京都府農林水産技術センター茶業研究所

目 次

巻頭 平成24年度新たに発生が確認された病害虫

I 組織と業務

1 名称及び所在地	-----	1
2 管轄区域	-----	1
3 職員及び業務	-----	1
4 業務分掌表	-----	1

II 事業実績

1 農作物有害動植物発生予察事業		
1) 調査の種類及び方法		
(1) 指定病害虫	-----	3
(2) 指定外病害虫	-----	3
(3) 巡回調査ほ場数	-----	4
2) 主要農作物の作柄概況（平成24年産）		
(1) 早期水稲	-----	5
(2) 普通期水稲	-----	5
(3) カンショ	-----	5
(4) 大豆	-----	5
(5) ジャガイモ	-----	5
(6) かんきつ（露地栽培）	-----	5
(7) 茶	-----	6
(8) 冬春きゅうり	-----	6
(9) 冬春ピーマン	-----	6
(10) 冬春トマト	-----	6
(11) 冬春いちご	-----	6
(12) 加工用だいこん	-----	6
3) 水稲、かんきつ病害の初発日ならびにウンカ類の初飛来日		
(1) 水稲、かんきつ病害の初発日		
ア 水稲	-----	7
イ かんきつ	-----	7
(2) 予察灯におけるウンカ類の初飛来日	-----	7
4) 予察灯（白色60W）における水稲害虫の誘殺状況		
(1) 延岡	-----	8
(2) 佐土原	-----	9
(3) 国富	-----	10
(4) 都城	-----	11
5) コブノメイガの発生消長	-----	12

6)	フェロモントラップによる誘殺状況		
	(1) チャハマキの誘殺状況	-----	1 3
	(2) チャノコカクモンハマキの誘殺状況	-----	1 5
	(3) チャノホソガの誘殺状況	-----	1 7
	(4) ハスモンヨトウの誘殺状況	-----	1 9
	(5) タバコガ・オオタバコガの誘殺状況	-----	2 1
7)	果樹カメムシの誘殺状況		
	(1) 予察灯における誘殺状況	-----	2 3
	(2) 合成集合フェロモンによる誘殺状況	-----	2 7
8)	農作物有害動植物の発生及び防除状況		
	(1) 発生経過、発生要因及び防除の概要	-----	3 1
	(2) 発生面積及び防除面積等	-----	3 7
9)	情報（警報、注意報、特殊報、防除情報）		
	(1) 発表情報一覧	-----	4 4
	(2) 情報の内容	-----	4 5
2	病害虫発生予察情報高度化事業		
	ニカメイガの発生消長の変化と普通期水稲における粒剤の箱施薬による防除効果の検討	-----	7 4
3	特殊病害虫侵入警戒調査事業		
	1) ミバエ類侵入警戒調査	-----	7 6
	2) アリモドキゾウムシ侵入警戒調査	-----	7 7
	3) イモゾウムシ侵入警戒調査	-----	7 9
	4) ミカンキジラミ侵入警戒調査	-----	7 9
	5) ウメ輪紋ウイルス発生調査	-----	7 9
4	発生予察の手法検討委託事業	-----	8 1
5	その他の調査、検定等		
	1) BLASTAMによる葉いもちの発生好適条件の判定と現地の発生状況	-----	8 9
	2) 斑点米カメムシ類の発生状況調査	-----	9 1
	3) ヒノキ毬果口針鞘数による果樹カメムシ類離脱予測	-----	9 2
III	その他		
1	病害虫防除員の設置状況	-----	9 3
2	巡回調査ほ場の分布図	-----	9 4
3	気象表	-----	9 5

I 組織と業務

1 名称及び所在地

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課

(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)

宮崎県宮崎市佐土原町下那珂5805番地

※平成23年4月に総合農業試験場病虫害防除・肥料検査課として統合されたが、病虫害防除・肥料検査センターとしての名称は存続する。

2 管轄区域

県内全域 (9市14町3村)

3 職員及び業務

職 員	業 務
課長(所長) 今 村 幸 久	1 病虫害の発生予察及び情報の提供に関する事
主 幹 生 頼 由喜男	2 病虫害の適正防除指導に関する事
主 査 壹 岐 透	3 病虫害の診断及び検定に関する事
” 中 村 正 和	4 重要病虫害の侵入警戒調査に関する事
主任技師 邊 見 博 子	5 農薬指導取締に関する事
技 師 斎 藤 伸 弘	6 農薬安全使用指導に関する事
非常勤職員 福 川 利 玄	7 その他植物防疫に関する事
野 中 耕 次 亮	8 肥料の分析及び取締に関する事
加 藤 洋 亮	
(兼務職員)	
土壤環境部	
副部長 有 簾 隆 男	
専門技師 渡 司 照 久	
主任技師 小 窪 正 人	
技 師 甲 斐 憲 郎	

4 業務分掌表 (病虫害防除関係のみ記載)

主担当	副担当	分 掌 事 務
今 村	生 頼	1 センターの総括に関する事
生 頼	壹 岐	1 植物防疫関係事業の総括に関する事 2 病虫害発生予察並びに情報作成総括に関する事 3 農薬取締に関する事 4 各種協議会の総括に関する事

主担当	副担当	分 掌 事 務
壹 岐	中 村	<ol style="list-style-type: none"> 1 野菜(きゅうり、トマトなど)、花きの病害虫発生予察に関する事 2 「宮崎方式 ICM」 定着促進事業に関する事 3 発生予察の手法検討委託事業に関する事 4 情報ネットワーク保守・管理に関する事 5 病害虫診断対策に関する事 6 農薬取締に関する事
中 村	邊 見	<ol style="list-style-type: none"> 1 野菜(トマト、イチゴなど)、の病害虫発生予察に関する事と普通作物等の病害虫発生予察に関する事 2 「宮崎方式 ICM」 定着促進事業に関する事 3 特殊病害虫侵入警戒調査対策事業に関する事 4 病害虫診断対策に関する事 5 農薬取締に関する事
邊 見	斎 藤	<ol style="list-style-type: none"> 1 果樹、茶の病害虫発生予察に関する事 2 「宮崎方式 ICM」 定着促進事業に関する事 3 重要病害虫緊急防除事業に関する事 4 病害虫薬剤抵抗性対策に関する事 5 病害虫診断対策に関する事 6 農薬取締に関する事
斎 藤	中 村	<ol style="list-style-type: none"> 1 普通作物等の病害虫発生予察に関する事 2 「宮崎方式 ICM」 定着促進事業に関する事 3 病害虫診断対策に関する事 4 農薬取締に関する事 5 薬品等の保管管理に関する事

Ⅱ 事 業 実 績

1 農作物有害動植物発生予察事業

病虫害発生予察事業は、病虫害の防除を適時で経済的なものにするため、その発生分布・繁殖・気象・農作物の生育状況等を調査し、病虫害による損害の発生を予察し、これに基づく発生予察情報を関係者に提供するものである。

農作物有害動植物発生予察事業実施要綱及び同実施要領に準拠し、予察ほ場の定点調査及び巡回調査を行って病虫害予察方法の確立に努め、発生予報・警報・注意報・特殊報・防除情報を発表して病虫害防除対策の資料にした。

1) 調査の種類及び方法

(1) 指定病虫害

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名
普通作物	イネ	いもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、コブノメイガ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、ニカメイガ、斑点米カメムシ類、ヒメトビウンカ
	サツマイモ	ハスモンヨトウ
	ジャガイモ	疫病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ
	ダイズ	吸実性カメムシ類、ハスモンヨトウ
果樹等作物	カンキツ	かいよう病、黒点病、そうか病、カメムシ類、ミカンハダニ
	チャ	炭疽病、カンザワハダニ、ハマキムシ類
野菜	キュウリ	うどんこ病、灰色かび病、べと病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ
	ピーマン	うどんこ病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ
	トマト	疫病、灰色かび病、アブラムシ類
	ダイコン	アブラムシ類、コナガ
	イチゴ	灰色かび病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ

(2) 指定外病虫害

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名
普通作物	イネ	萎縮病、稲こうじ病、黄萎病、黄化萎縮病、ごま葉枯病、縞葉枯病、白葉枯病、内穎褐変病、苗立枯病、ばか苗病、もみ枯細菌病、アワヨトウ、イチモンジセセリ、イネゾウムシ、イネヒメハモグリバエ、イネヨトウ、シンガレセンチュウ、スクミリンゴガイ、フタオビコヤガ
	サツマイモ	立枯病、つる割病、紫紋羽病、アブラムシ類、イモキバガ、エビガラズズメ、ドウガネブイブイ、ナカジロシタバ
	ジャガイモ	葉巻病、ニジュウヤホシテントウ、ヨトウガ
	ダイズ	さび病、紫斑病、立枯性病害、葉焼病、腐敗豆、べと病、モザイク病、ウコンノメイガ、クキモグリバエ、シロイチモジマダラメイガ、ダイズサヤタマバエ、ハダニ類、フタスジヒメハムシ、マメコガネ、マメシンクイガ、マメヒメサヤムシガ、ミツモンキンウワバ

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名
果樹等作物	カンキツ	青かび病、黄斑病、日やけ炭疽病、にせ黄斑病、灰色かび病、アブラムシ類、吸蛾類、クサギカメムシ、コアオハナムグリ、チャノキイロアザミウマ、ツノロウムシ、ヒメヒラタケシキスイ、ミカンハモグリガ、ヤノネカイガラムシ
	チャ	網もち病、白星病、もち病、輪斑病、クワシロカイガラムシ、チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ、ツマグロアオカスミカメ
野菜	キュウリ	疫病、褐斑病、キュウリ退緑黄化病、キュウリ黄化えそ病、菌核病、炭疽病、つる枯病、つる割病、斑点細菌病、モザイク病、アザミウマ類、ウリノメイガ、ウリハムシ、コナジラミ類、チャノホコリダニ、ハモグリバエ類
	ピーマン	青枯病、疫病、黄化えそ病、菌核病、軟腐病、灰色かび病、白斑病、斑点細菌病、斑点病、モザイク病、アザミウマ類、黒枯病、コナジラミ類、タバコガ、チャノホコリダニ、ハダニ類
	トマト	青枯病、萎凋病、うどんこ病、菌核病、斑点病、葉かび病、モザイク病、輪紋病、コナジラミ類、トマト黄化葉巻病 (TYLCV)、ハモグリバエ類、すすかび病
	ダイコン	萎黄病、白さび病、炭疽病、軟腐病、べと病、モザイク病、キスジノミハムシ、ダイコンサルハムシ
	イチゴ	萎黄病、うどんこ病、菌核病、じゃのめ病、炭疽病、輪斑病、ハダニ類、コナジラミ類、アザミウマ類

(3) 巡回調査ほ場数

地域 対象作物名	中部	南那珂	北諸県	西諸県	児湯	東白杵	西白杵	計
早期水稲	12	6			10	4		32
普通期水稲	4		10	8		10	8	40
ダイズ	2		6					8
サツマイモ		4	4		4			12
ジャガイモ	4		4		2			10
カンキツ	8	4			2	4		18
チャ	2	1	4	2	4		4	17
冬春キュウリ	13	2	2			3		20
冬春ピーマン	4	3			6			13
冬春トマト	3				6	2		11
ダイコン	6					2		8
冬春イチゴ	2		3	4	4			13
計	60	20	33	14	38	25	12	202

2) 主要農作物の作柄概況（平成24年産）

(1) 早期水稻

葉いもちの初発生が5月14日と平年より早かった。6月上旬以降、本病の発生に好適な条件が続いたため、一部で葉いもちの発生が確認されたが、発生面積率及び発生程度はいずれも平年並の発生であった。穂いもちは出穂後の曇雨天により発生面積率はやや多、発生程度は平年並の発生となった（防除情報第5号（H24.6.22））。

紋枯病は6月下旬までは発生未確認であったが、7月中旬の発生面積はやや多、発生程度はやや少の発生であった。

スクミリンゴガイは越冬量はやや少であったが、5月中旬の発生面積はやや多、発生程度は多の発生であった。

斑点米カメムシ類は、6月上旬のイネ科雑草での生息密度はやや多、7月のほ場での発生面積は平年並、発生程度はやや多の発生であった（防除情報第3号（H24.6.12））。

(2) 普通期水稻

葉いもちの初発生が7月30日と平年より遅く、7月中旬の発生は認められなかったが、8月上旬以降、本病の発生に好適な条件が続いたため、8月中旬の発生面積率はやや多、発生程度は平年並の発生であった。穂いもちの9月中旬は発生面積率、発生程度いずれもやや多の発生であったが、10月中旬は発生面積率、発生程度いずれも平年並の発生であった。

紋枯病は発生量が少なく、平年並～少の発生で推移した。

セジロウンカは初飛来が6月8日と遅かったが、7月上旬に多飛来が確認され、その後、増殖に好適な条件が続いたことから、8月のほ場での発生面積率、発生程度いずれも多の発生となった。このため、坪枯れが7月下旬～8月中旬にかけて飼料用稲で散見されたが、主食用では確認されなかった。

トビイロウンカは初飛来が6月27日と平年より早く、7月上中旬にかけて主要飛来が確認された。その後増殖に好適な条件が続いたことから、8月中旬以降は発生面積率、発生程度いずれも多～やや多の発生で推移し、9月中旬以降に坪枯れの被害が散見された。

（H24.8.16病虫害予察注意報、H24.8.28病虫害予察警報）。

コブノメイガは初飛来が6月30日と平年よりも遅く、飛来量も少なかったことから、平年並～やや少の発生で推移した。

斑点米カメムシ類は9月中旬は発生面積、発生程度いずれもやや多の発生であったが、10月中旬は発生面積、発生程度いずれも平年並の発生であった。

(3) カンショ

イモキバガ、ハスモンヨトウ、ナカジロシタバの発生は平年並であった。

(4) 大豆

べと病はやや多の発生、葉焼病は確認されなかった。

ハスモンヨトウと吸汁性カメムシは概ね平年並の発生で推移した。

(5) ジャガイモ

疫病、アブラムシ類の発生は平年並であった。

(6) かんきつ（露地栽培）

そうか病及びかいよう病の葉での初発生は平年並みであったが、黒点病はやや遅い発生となった。果実での発生量はいずれも平年並みであった。

ミカンハダニの発生量は越冬成虫は平年並であったが、9月に一部の園で多発し、やや

多の発生となった。

果樹カメムシ類はフェロモントラップでの誘殺数は4月から9月までは平年より少ない数で推移したが、県央で10月初旬に平年より多い誘殺数が見られた。カンキツ園への飛来ピークは9月上旬で、一部の園で果実への被害が確認された。

(7) 茶

炭疽病は前年からの越冬病斑が多く、年間を通じて多発した。もち病は山間部での発生が多かったが、例年発生の見られない平地のチャ園でも発生が確認された。

チャノコカクモンハマキの発生は一年を通して平年並であったが、チャハマキはやや少ない発生、チャノホソガはやや多い発生となった。カンザワハダニは越冬成虫はやや少ない発生であったが、4～5月に増加し、年間を通じて平年並の発生となった。クワシロカイガラムシは第一世代の発生が多かったが、第2、第3世代の発生は平年並であった。

(8) 冬春きゅうり（栽培期間：平成23年9月～24年6月）

べと病は当初発生が少なかったものの、栽培が進むにつれ徐々に発生し、春先には一部ほ場で多発したが、概ね平年に比べてやや少の発生であった。灰色かび病は平年並、褐斑病とうどんこ病はやや少の発生であった。黄化えそ病は、12月以降一部のほ場で発生が継続的に確認された。

ミナミキイロアザミウマは徐々に発生面積が拡大し、それに伴い100葉当たり虫数も増え、平年に比べてやや多の発生であった。ハスモンヨトウは定植後間もない時期に見られたものの、その後は確認されなくなり、全体として平年並の発生であった。

(9) 冬春ピーマン（栽培期間：平成23年9月～24年6月）

モザイク病の発生は栽培期間を通して見られなかった。斑点病は栽培当初から発生が確認され、徐々に面積が拡大し、一部ほ場で多発するなどやや多の発生であった。うどんこ病は散発的に発生が確認されたが、平年に比べてやや少の発生であった。灰色かび病は栽培期間を通して発生はみられなかった。

ミナミキイロアザミウマは、栽培当初から発生が確認されたが、11月をピークに発生が少なくなり、おおむねやや少の発生であった。ヒラズハナアザミウマは栽培期間を通して平年並の発生であった。

(10) 冬春トマト（栽培期間：平成23年9月～24年6月）

灰色かび病は11月から発生が確認され、徐々に葉や果実で発生が拡大し、平年に比べてやや多の発生であった。

タバココナジラミ類は栽培当初から発生が確認され、その後も継続して平年並に発生した。黄化葉巻病は栽培初期に発生が多かったが、その後減少し、散発的な発生となった。

(11) 冬春いちご（栽培期間：平成23年9月～24年5月）

うどんこ病は定植時に苗からの持ち込みによる発生が多く確認され、12月には果実被害も確認されたが、その後減少し、作期全体ではやや少の発生であった。灰色かび病は1月以降県内全域で急激に発生が多くなり、やや多の発生であった。炭疽病は栽培期間を通して多～やや多の発生であった。

ハダニ類は栽培当初はやや多の発生であったが、その後は平年並の発生で推移した。ハスモンヨトウはやや少の発生であった。

(12) 加工用だいこん（栽培期間：平成23年9月～23年12月）

秋冬だいこんでは萎黄病は平年並、軟腐病とべと病はやや多の発生であった。

コナガとダイコンサルハムシは多の発生、キスジノミハムシとアブラムシはやや多の発生であった。

3) 水稲、かんきつ病害の初発日ならびにウンカ類の初飛来日

(1)水稲、かんきつ病害の初発日

ア. 水稲

種 別	早期水稲			普通期水稲		
	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
葉いもち	5. 14	5. 16	5. 27	7. 30	7. 4	7. 12
穂いもち	7. 10	7. 13	7. 10	9. 10	9. 10	9. 11
紋枯病	7. 10	6. 23	7. 12	8. 13	7. 28	7. 26
白葉枯病	—	—	—	—	—	—

イ. かんきつ

種 別	春 葉			果 実		
	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
そうか病	5. 2	5. 7	5. 10	5. 17	6. 10	7. 8
黒点病	5. 2	5. 23	6. 10	6. 18	7. 6	7. 11
かいよう病	5. 10	5. 7	5. 18	6. 28	6. 29	6. 10

(2)予察灯におけるウンカ類の初飛来日

項 目	地区名 年次	延 岡			佐土原			国 富			都 城		
		本年	平年	前年									
セジロウンカ		6. 8	6. 17	6. 7	6. 27	6. 4	6. 17	6. 25	6. 24	6. 12	6. 10	6. 7	6. 7
トビイロウンカ		7. 12	7. 23	7. 7	7. 12	7. 16	8. 18	7. 8	7. 21	7. 22	6. 27	7. 14	10. 2
ヒメトビウンカ		6. 23	7. 4	6. 18	6. 6	7. 16	9. 6	7. 23	6. 27	6. 7	7. 3	6. 21	5. 10
ツマグロヨコバイ		5. 28	5. 23	5. 20	5. 15	5. 17	5. 27	5. 16	5. 17	5. 11	6. 28	5. 15	6. 4
コブノメイガ		6. 22	7. 22	7. 21	—	7. 8	—	7. 8	8. 4	8. 22	7. 4	7. 9	5. 11

4) 予察灯（白色60W）における水稻害虫の誘殺状況

(1) 延岡

月	半旬	ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
		本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	2.2	0	1.0	0	0.0	0	0.5
	6	15	36.5	0	0.2	0	0.0	0	0.0
	計	15	40.1	0	1.2	0	0.0	0	0.5
6	1	12	13.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	23	64.6	10	0.1	0	0.0	0	0.0
	3	18	24.0	2	1.5	0	0.0	0	0.1
	4	16	25.4	0	9.3	0	2.2	0	0.7
	5	0	4.2	4	16.0	0	0.3	1	0.4
	6	0	2.1	1	7.2	0	0.2	0	0.2
	計	69	133.6	17	34.1	0	2.7	1	1.4
7	1	1	1.1	3	37.3	0	0.9	0	0.2
	2	1	2.5	34	19.5	0	0.1	0	0.4
	3	0	8.0	113	15.8	3	1.3	2	0.5
	4	1	35.0	22	15.3	0	0.2	0	0.6
	5	2	46.5	0	29.2	0	0.9	0	0.2
	6	9	66.7	5	5.7	0	0.0	0	1.1
	計	14	159.8	177	122.8	3	3.4	2	3.0
8	1	6	18.2	1	4.3	0	0.7	0	0.6
	2	3	23.8	4	7.9	0	0.5	0	0.6
	3	11	33.2	5	69.8	0	1.5	0	1.0
	4	10	47.9	3	56.1	0	0.8	0	2.6
	5	1	36.2	-	44.5	-	2.3	1	0.8
	6	5	20.1	9	73.8	2	15.2	0	1.6
	計	36	179.4	22	256.4	2	21.0	1	7.2
9	1	6	20.2	8	15.3	4	2.4	1	1.9
	2	4	24.4	3	5.9	11	31.6	0	1.5
	3	2	13.4	0	5.9	6	14.7	0	1.7
	4	0	14.8	0	17.1	7	4.4	0	1.1
	5	0	10.8	0	1.9	0	8.0	0	0.3
	6	1	8.6	2	4.0	10	14.0	0	2.3
	計	13	92.2	13	50.1	38	75.1	1	8.8
10	1	0	2.3	0	1.8	0	38.4	0	3.0
	2	0	3.2	3	0.4	0	36.5	0	0.7
	3	0	2.3	1	1.4	0	19.2	0	0.7
	4	0	0.2	0	0.4	0	3.7	0	0.1
	5	0	0.0	0	0.4	0	2.1	0	0.2
	6	0	0.0	0	0.0	0	5.6	1	0.0
	計	0	8.0	4	4.4	0	105.5	1	4.7

(2) 佐土原

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.2	0	0.0	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	3	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	2.2	0	1.5	0	0.0	0	0.0
	6	1	40.6	0	2.0	0	0.0	0	0.2
	計		4	43.5	0	3.5	0	0.0	0
6	1	2	7.5	0	0.2	0	0.0	0	0.0
	2	6	49.2	0	0.6	0	0.0	0	0.2
	3	0	26.2	0	1.4	0	0.0	0	0.2
	4	19	26.2	0	7.3	0	0.0	0	0.4
	5	1	59.9	0	14.2	0	0.3	0	0.1
	6	2	45.2	8	9.9	0	0.2	0	0.1
	計		30	214.2	8	33.4	0	0.5	0
7	1	0	36.6	0	50.7	0	0.9	0	0.4
	2	3	105.8	33	21.3	0	0.4	0	0.2
	3	7	93.3	2	5.6	2	0.2	0	0.4
	4	2	227.6	0	4.0	0	0.2	0	0.3
	5	7	321.8	0	25.0	0	0.9	0	1.0
	6	4	635.6	1	13.8	0	2.3	0	1.4
	計		23	1420.7	36	120.4	2	4.9	0
8	1	1	608.0	0	3.6	0	0.2	0	0.3
	2	2	199.7	1	1.7	0	0.0	0	0.4
	3	2	203.1	0	68.0	0	0.3	0	0.7
	4	0	258.4	0	22.0	0	0.2	0	0.6
	5	0	153.4	0	56.5	0	1.1	0	0.4
	6	2	203.4	2	10.1	0	2.0	0	0.7
	計		7	1524.3	3	161.9	0	3.8	0
9	1	0	171.2	4	7.2	0	1.3	0	0.1
	2	0	67.8	1	5.2	0	9.4	1	0.2
	3	0	50.8	3	11.8	0	2.1	0	0.0
	4	0	34.5	0	2.7	0	2.4	0	0.0
	5	0	20.5	0	3.4	0	1.9	0	0.7
	6	0	5.3	1	2.5	1	1.7	2	0.2
	計		0	350.1	9	32.8	1	18.8	3
10	1	0	13.7	0	3.1	0	47.7	0	0.2
	2	0	13.6	0	1.7	0	75.5	0	0.2
	3	0	11.8	0	1.9	0	70.8	0	0.0
	4	0	5.5	0	0.6	0	10.8	0	0.0
	5	0	1.8	0	0.6	0	8.2	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.9	0	0.0
	計		0	46.4	0	7.9	0	213.9	0

(3) 国富

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半月	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.3	0	0.0	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	1	4.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	7	9.3	0	0.4	0	0.0	0	0.2
	6	73	42.3	0	0.5	0	0.0	0	0.1
	計		81	57.5	0	0.9	0	0.0	0
6	1	30	48.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	313	78.1	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	3	29	23.4	0	0.1	0	0.0	0	0.0
	4	16	18.6	0	6.0	0	0.5	0	0.0
	5	13	17.5	1	30.0	0	0.1	0	0.4
	6	3	4.1	0	5.9	0	0.3	0	0.4
	計		404	189.8	1	42.0	0	0.9	0
7	1	0	6.5	6	89.7	0	2.2	0	0.4
	2	2	9.7	37	88.4	3	0.2	0	0.3
	3	-	14.6	-	16.7	-	0.2	-	0.6
	4	13	27.1	1	3.8	0	0.1	0	0.0
	5	35	63.3	0	6.8	0	0.2	2	0.3
	6	58	123.7	6	5.7	0	0.1	0	0.4
	計		108	244.8	3	211.2	3	3.0	2
8	1	9	217.2	0	1.9	0	0.2	0	3.8
	2	10	236.8	2	9.7	1	0.0	1	0.7
	3	24	275.0	2	12.4	0	0.9	0	0.6
	4	7	219.4	0	28.0	0	1.2	0	1.0
	5	4	136.7	0	19.5	0	8.2	0	7.0
	6	9	53.7	3	13.1	3	11.0	0	2.8
	計		63	1138.8	7	84.6	4	21.5	1
9	1	4	58.2	1	4.4	2	3.0	0	2.2
	2	0	66.4	0	3.1	3	6.3	0	1.0
	3	2	33.0	4	6.4	22	7.6	0	0.6
	4	0	30.3	0	2.1	0	2.0	0	1.7
	5	0	25.3	0	2.9	1	2.8	0	0.4
	6	0	23.0	0	1.0	0	4.0	0	1.4
	計		6	231.4	5	20.8	28	27.6	0
10	1	0	14.6	0	0.8	0	4.9	0	1.1
	2	0	5.6	0	0.4	0	1.2	0	0.8
	3	0	2.8	0	1.4	1	21.3	0	5.9
	4	0	0.6	0	0.1	0	2.1	0	0.0
	5	0	0.1	0	0.4	1	0.3	0	0.1
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0
	計		0	20.4	0	2.8	2	30.1	0

(4) 都城

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半月	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.3	0	0.0	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.1	0	0.1	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.3	0	0.0	0	0.1	0	0.0
	6	13	6.8	0	0.8	0	0.0	0	0.0
	計		13	7.5	0	0.9	0	0.1	0
6	1	2	6.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	84	8.7	5	0.6	0	0.0	0	0.0
	3	13	9.7	0	10.3	0	0.3	0	0.1
	4	41	6.1	0	29.7	0	0.3	0	0.6
	5	9	7.4	6	222.0	0	8.5	0	0.5
	6	34	6.5	34	117.3	3	1.1	6	0.7
	計		183	44.5	45	379.9	3	10.2	6
7	1	3	4.8	4524	305.5	25	7.9	1	1.3
	2	1	20.9	74	633.2	1	3.3	0	1.3
	3	1	29.0	176	40.1	2	1.2	0	0.9
	4	44	75.6	12	24.3	0	0.6	0	0.6
	5	218	146.6	2	27.2	0	1.1	0	0.7
	6	103	177.4	25	37.8	0	2.7	0	1.5
	計		370	454.3	4813	1068.1	28	16.8	1
8	1	129	110.1	63	74.9	1	1.8	1	1.1
	2	77	170.9	8	7.2	2	0.2	0	0.4
	3	56	192.8	2	7.9	15	0.3	2	0.5
	4	55	107.2	3	53.7	4	0.6	2	0.8
	5	163	72.1	7	76.8	0	6.9	0	0.5
	6	47	45.4	38	16.4	6	22.6	1	0.5
	計		527	662.1	121	222.5	28	32.1	6
9	1	120	33.3	25	5.9	57	4.6	2	1.0
	2	107	33.0	0	4.7	14	47.5	0	2.1
	3	27	30.3	3	2.6	5	28.8	0	0.9
	4	2	20.4	0	7.6	1	3.7	0	6.3
	5	4	18.2	0	1.6	3	10.0	0	1.1
	6	0	23.5	1	3.0	4	29.8	0	0.4
	計		260	158.7	29	25.4	84	124.4	2
10	1	0	13.0	3	1.9	7	592.5	0	1.1
	2	1	5.6	21	0.4	2	236.2	0	0.6
	3	0	5.6	3	0.9	0	62.7	0	1.2
	4	0	1.0	5	0.9	0	5.3	0	0.1
	5	0	0.1	2	0.2	2	2.2	0	0.0
	6	0	0.3	0	0.1	15	9.8	0	0.0
	計		1	25.6	34	4.4	26	908.7	0

5) コブノメイガの発生消長

(光源：20W補虫用蛍光灯)

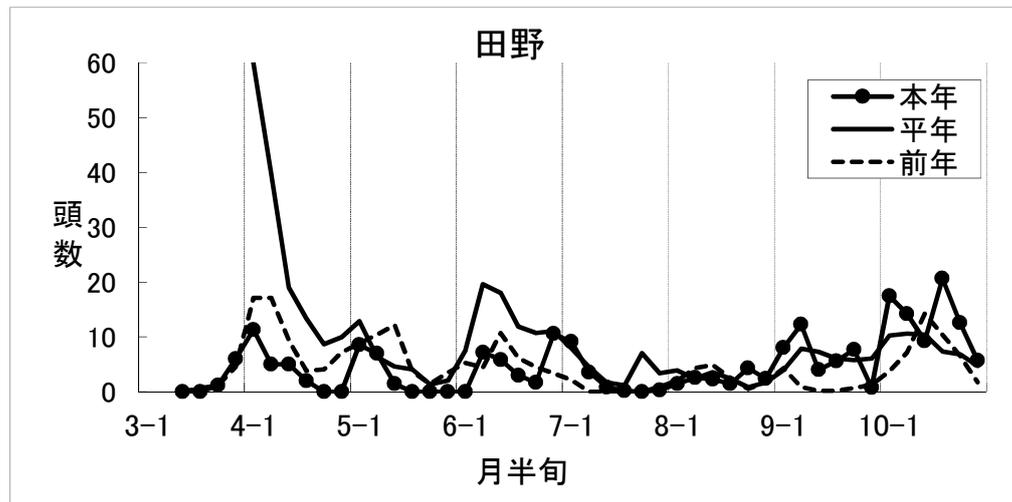
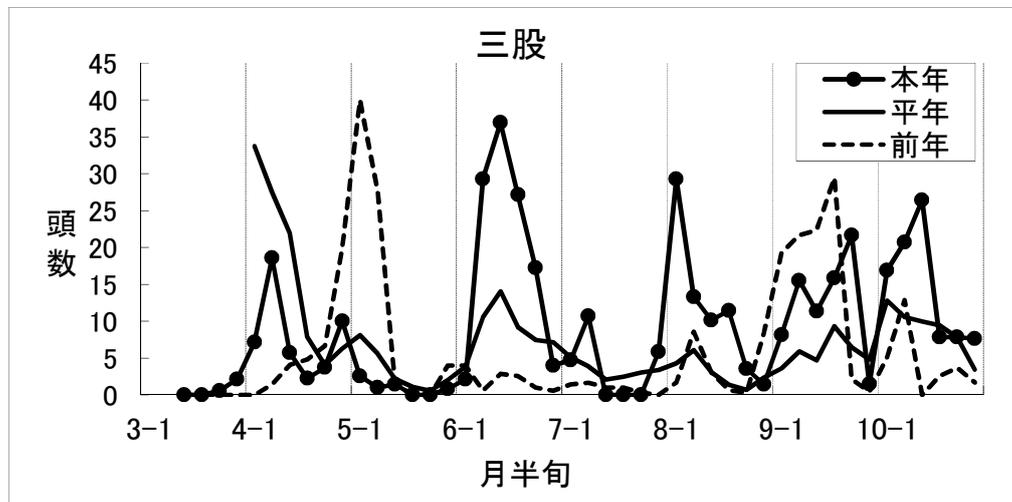
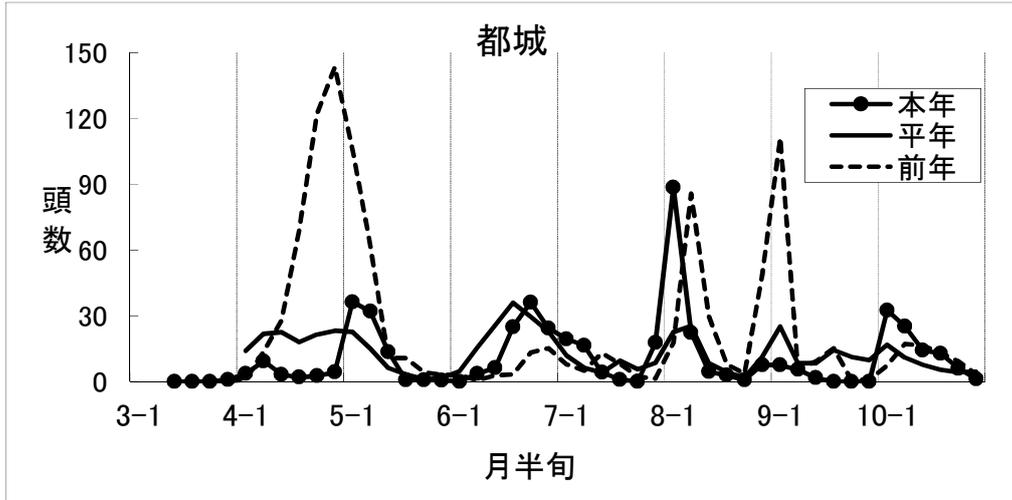
	6 月			7 月			8 月		
	都城	えびの	佐土原	都城	えびの	佐土原	都城	えびの	佐土原
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	3	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	3	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	0	0	1
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	0	0	0	0	0	0	0	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	0	0	0	0	0	0	0	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21	0	0	0	0	0	0	/	/	0
22	0	0	0	0	0	0	/	/	1
23	0	0	0	0	0	0	/	/	0
24	0	0	0	0	0	0	/	/	0
25	0	0	0	0	0	0	/	/	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	0	0	1
26	0	0	0	0	0	0	/	/	0
27	0	0	0	0	0	0	/	/	0
28	0	0	0	0	0	0	/	/	0
29	0	0	0	0	0	1	/	/	0
30	0	1	0	0	0	0	/	/	0
31	/	/	/	0	0	0	/	/	0
半旬計	0	1	0	0	0	1	0	0	0
月計	0	1	0	0	0	1	3	0	2

6) フェロモントラップによる誘殺状況

(1) チャハマキの誘殺状況

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2									
	3	0		0	0		0	0		0
	4	0		0	0		0	0		1
	5	0		0	1		0	1		1
	6	1		0	2		0	6		5
4	1	4	14	1	7	34	0	11	60	17
	2	9	22	14	19	27	1	5	40	17
	3	3	22	28	6	22	4	5	19	9
	4	2	18	69	2	8	5	2	13	4
	5	3	21	122	4	4	7	0	9	4
	6	4	23	144	10	6	20	0	10	7
5	1	36	23	106	3	8	40	9	13	9
	2	32	15	62	1	6	28	7	6	10
	3	14	6	11	1	2	1	1	5	12
	4	1	3	11	0	1	0	0	4	4
	5	1	1	4	0	1	0	0	1	1
	6	1	2	3	1	2	4	0	2	4
6	1	0	5	3	2	4	4	0	8	5
	2	4	16	1	29	11	1	7	20	4
	3	6	26	3	37	14	3	6	18	11
	4	25	36	3	27	9	3	3	12	6
	5	36	30	13	17	7	1	2	11	5
	6	24	23	15	4	7	1	11	11	3
7	1	19	12	8	5	5	1	9	8	2
	2	16	6	5	11	4	2	4	4	0
	3	4	4	13	0	2	1	1	2	0
	4	1	10	8	0	2	1	0	1	0
	5	0	6	2	0	3	0	0	7	0
	6	18	9	1	6	3	0	0	3	1
8	1	89	23	18	29	4	2	1	4	2
	2	22	25	86	13	6	9	3	2	4
	3	5	8	30	10	3	3	2	4	5
	4	3	4	8	11	1	1	1	2	3
	5	1	2	4	4	1	0	4	1	1
	6	8	11	49	1	2	8	2	2	2
9	1	8	25	111	8	4	19	8	4	4
	2	5	8	6	16	6	22	12	8	1
	3	2	8	9	11	5	22	4	7	0
	4	0	14	15	16	9	29	6	6	0
	5	0	11	1	22	6	2	8	6	1
	6	0	10	1	2	5	0	1	6	1
10	1	33	17	7	17	13	5	18	10	4
	2	25	11	17	21	11	13	14	11	7
	3	14	8	16	26	10	0	9	10	14
	4	13	5	13	8	9	3	21	7	10
	5	6	4	9	8	8	4	13	7	7
	6	1	4	3	8	3	2	6	5	2

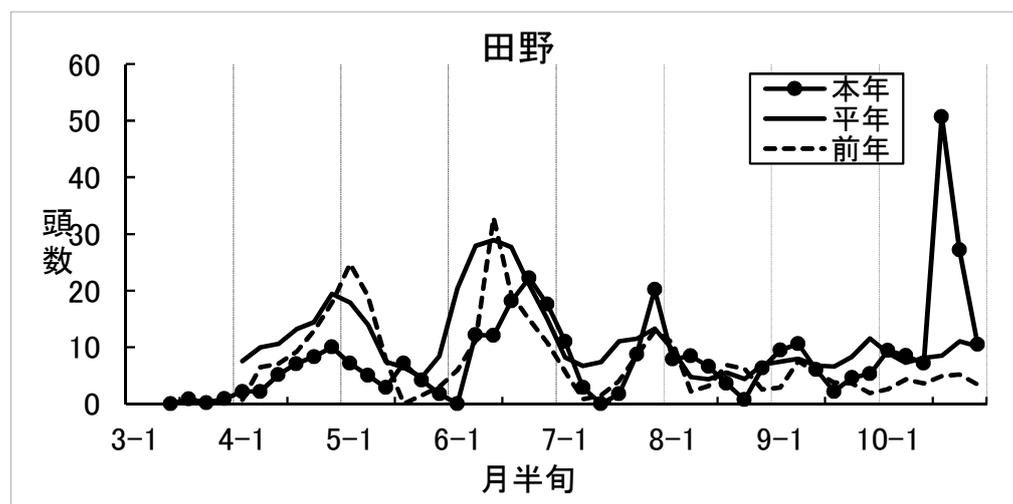
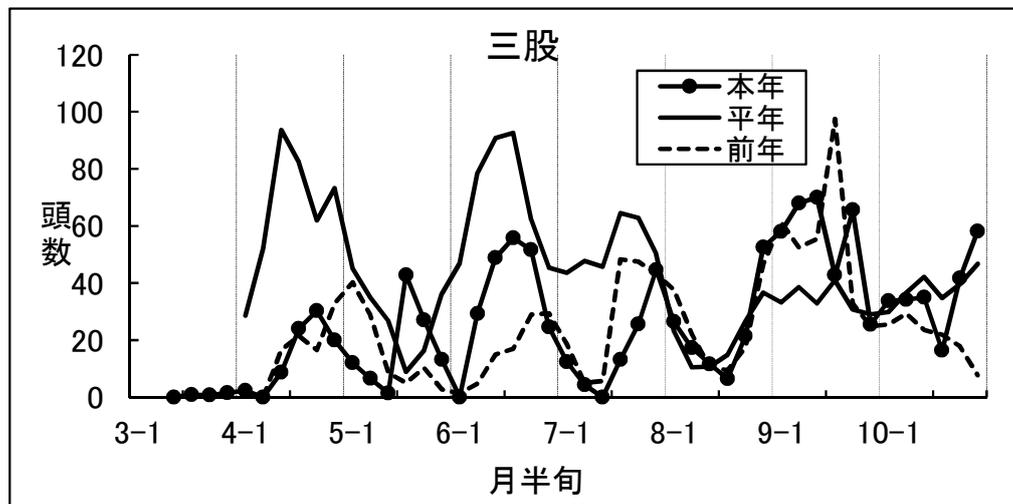
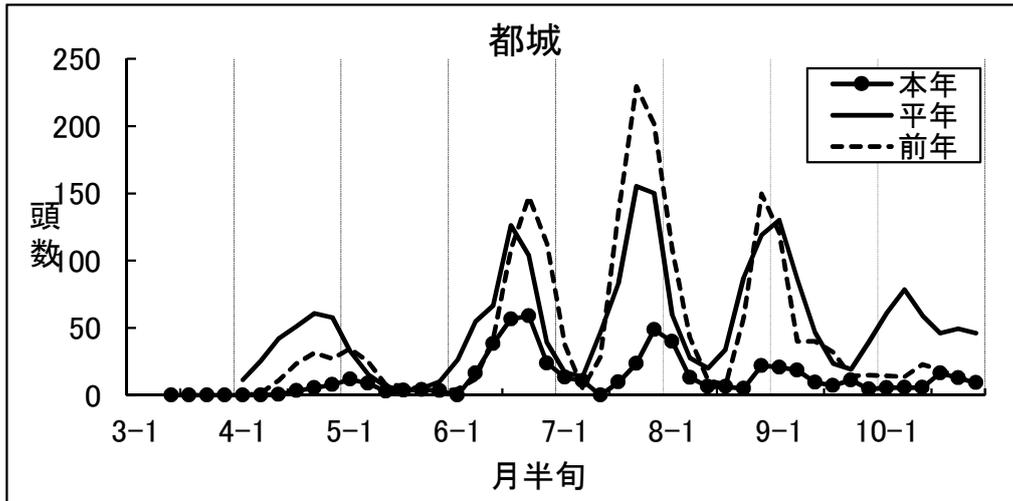
平成24年フェロモントラップ誘殺数(チャハマキ)



(2) チャノコカクモンハマキの誘殺状況

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2									
	3	0		0	0		1	0		0
	4	0		0	1		0	1		0
	5	0		0	1		1	0		0
	6	0		0	2		0	1		0
4	1	0	12	0	2	29	1	2	8	1
	2	0	26	1	0	52	0	2	10	6
	3	1	42	11	9	94	17	5	11	7
	4	3	51	24	24	82	22	7	13	9
	5	6	61	31	30	62	17	8	14	13
	6	8	58	27	20	73	33	10	19	18
5	1	12	33	35	12	45	40	7	18	25
	2	9	15	25	7	35	29	5	14	19
	3	3	7	8	1	27	9	3	7	8
	4	4	4	7	43	9	5	7	6	0
	5	4	5	4	27	16	10	4	5	2
	6	3	10	3	13	36	3	2	8	3
6	1	0	26	5	0	47	1	0	20	6
	2	16	54	12	29	79	5	12	28	11
	3	38	67	42	49	91	15	12	29	33
	4	57	126	108	56	93	17	18	28	19
	5	59	104	148	52	62	29	22	21	15
	6	24	39	113	25	45	29	18	15	11
7	1	13	17	38	12	44	19	11	8	6
	2	11	14	5	4	48	5	3	7	1
	3	0	47	28	0	46	6	0	7	2
	4	10	83	136	13	65	48	2	11	4
	5	24	155	230	26	63	48	9	11	9
	6	49	150	201	45	50	43	20	13	13
8	1	40	60	109	26	23	38	8	10	11
	2	13	28	43	17	10	22	8	5	2
	3	6	20	11	12	11	10	7	4	3
	4	6	34	8	6	15	10	4	6	7
	5	5	87	57	21	27	18	1	4	6
	6	22	119	150	53	37	47	6	7	2
9	1	21	130	121	58	33	61	9	7	3
	2	19	86	40	68	39	53	11	8	8
	3	10	47	40	70	33	56	6	7	6
	4	7	24	32	43	41	98	2	7	4
	5	11	19	14	66	31	33	5	8	4
	6	5	39	15	26	29	25	5	12	2
10	1	6	61	14	34	30	25	9	9	3
	2	6	78	14	34	37	29	8	7	4
	3	6	59	23	35	42	24	7	8	4
	4	16	46	19	16	35	22	51	8	5
	5	13	49	14	42	40	18	27	11	5
	6	9	46	9	58	47	8	10	10	3

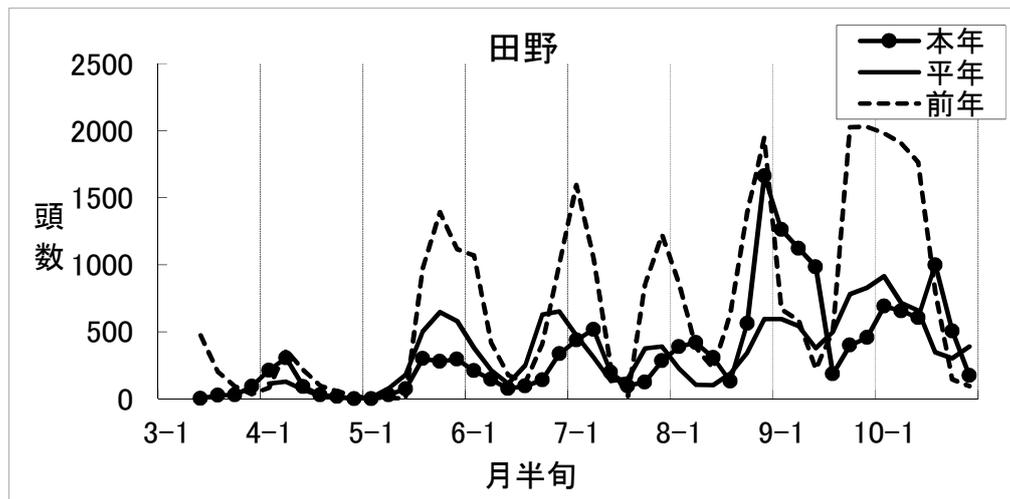
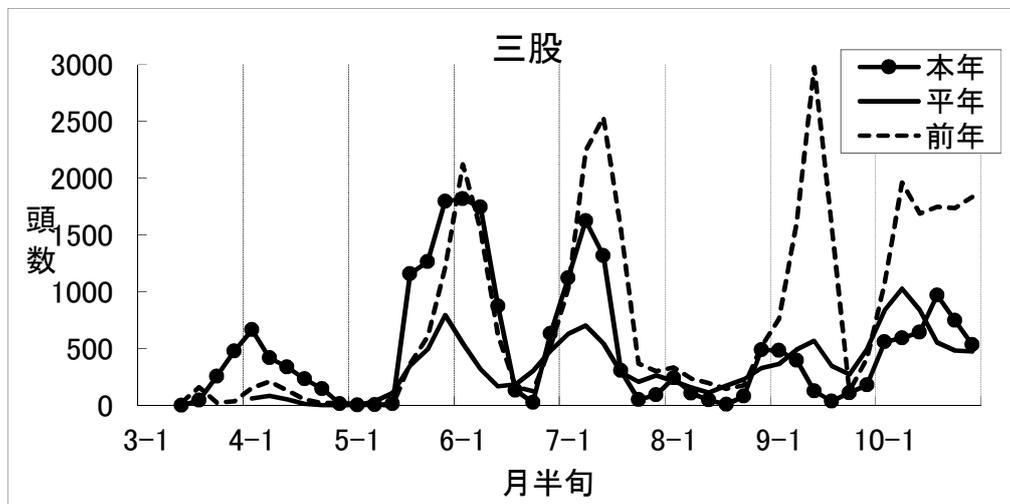
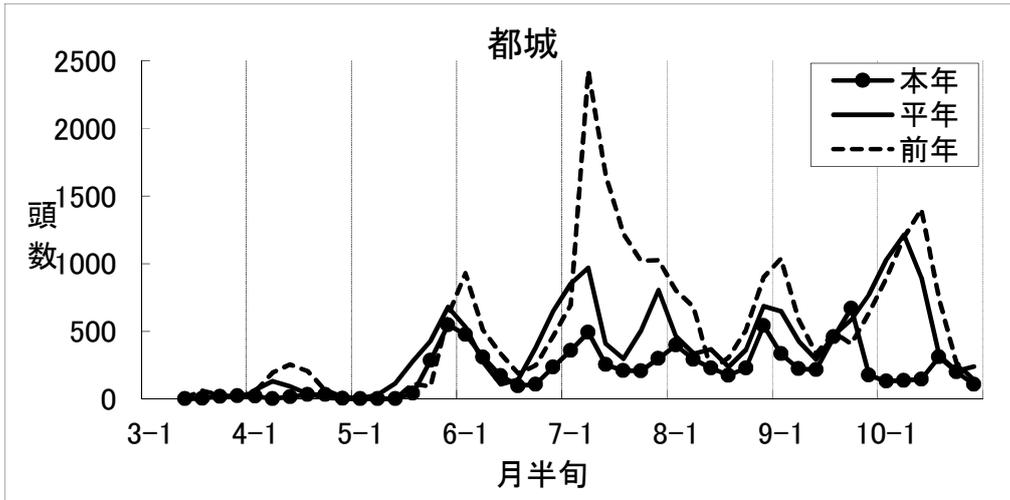
平成24年フェロモントラップ誘殺数(チャノコカクモンハマキ)



(3) チャノホソガの誘殺状況

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2									
	3	0		11	2		25	2		472
	4	4		60	46		160	26		204
	5	19		24	257		25	27		95
	6	23		11	477		36	92		34
4	1	20	66	53	667	61	155	212	112	83
	2	2	132	196	419	85	212	304	127	360
	3	16	94	253	337	55	132	91	68	215
	4	31	37	206	235	14	55	28	22	97
	5	32	10	65	147	5	21	17	10	56
	6	4	3	17	14	3	22	0	3	17
5	1	2	2	7	3	4	14	0	10	9
	2	1	33	3	6	39	7	29	77	5
	3	0	115	0	15	111	1	72	179	2
	4	41	281	112	1,157	349	365	299	502	972
	5	283	427	91	1,264	495	609	278	648	1,392
	6	546	679	616	1,796	796	1,211	294	579	1,116
6	1	476	530	930	1,818	547	2,120	208	378	1,069
	2	308	272	507	1,743	321	1,542	145	212	418
	3	171	108	336	875	170	621	75	114	176
	4	96	143	188	134	186	163	95	248	121
	5	107	376	247	26	304	128	139	627	408
	6	235	652	464	634	483	521	335	652	1,004
7	1	357	851	694	1,121	630	1,032	437	472	1,596
	2	493	970	2,425	1,624	703	2,241	517	310	1,056
	3	253	408	1,655	1,317	545	2,534	198	132	237
	4	209	296	1,223	306	294	1,552	96	150	18
	5	206	503	1,022	51	208	369	124	375	852
	6	299	805	1,027	95	264	301	283	391	1,224
8	1	397	462	803	241	215	335	389	226	859
	2	291	335	679	109	159	238	418	104	380
	3	229	368	215	49	112	198	307	102	228
	4	174	239	306	9	175	147	130	187	630
	5	229	363	510	81	230	177	563	345	1,394
	6	541	685	902	490	331	516	1,662	594	1,948
9	1	333	649	1,038	484	366	764	1,263	595	669
	2	222	428	584	396	493	1,618	1,122	542	582
	3	216	293	336	126	569	2,975	984	378	221
	4	458	472	490	37	346	1,561	185	499	512
	5	670	584	408	109	272	126	399	780	2,028
	6	176	772	635	180	497	414	458	828	2,030
10	1	131	1,030	893	559	837	1,076	690	915	1,982
	2	137	1,213	1,196	592	1,027	1,961	656	717	1,908
	3	146	898	1,402	643	841	1,687	604	658	1,764
	4	309	323	744	969	554	1,748	999	347	803
	5	200	206	267	748	484	1,737	505	303	145
	6	107	240	140	534	475	1,834	173	390	93

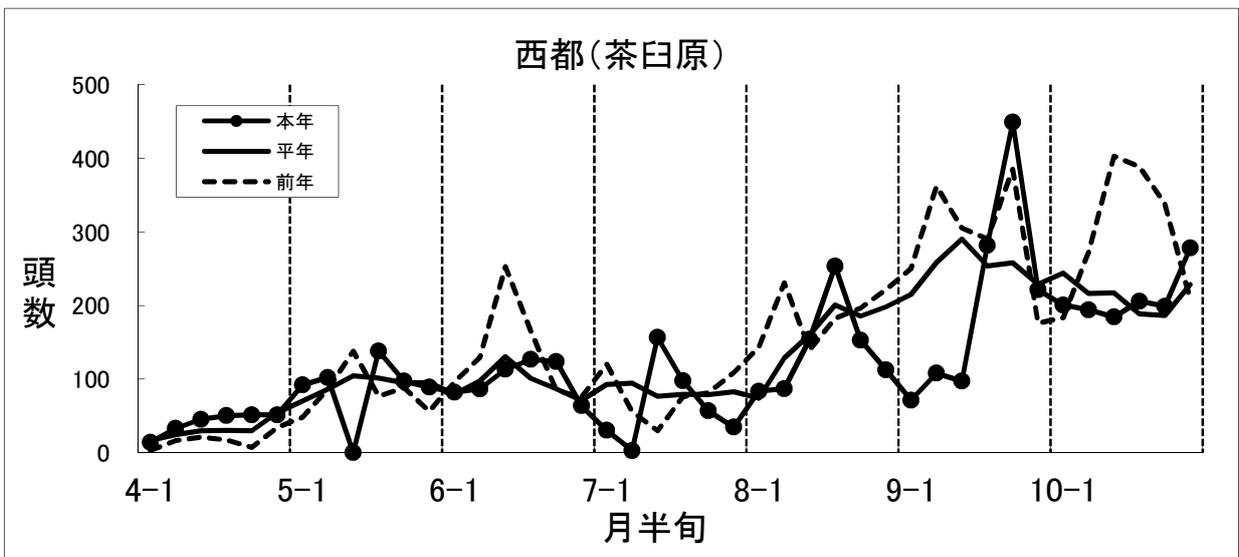
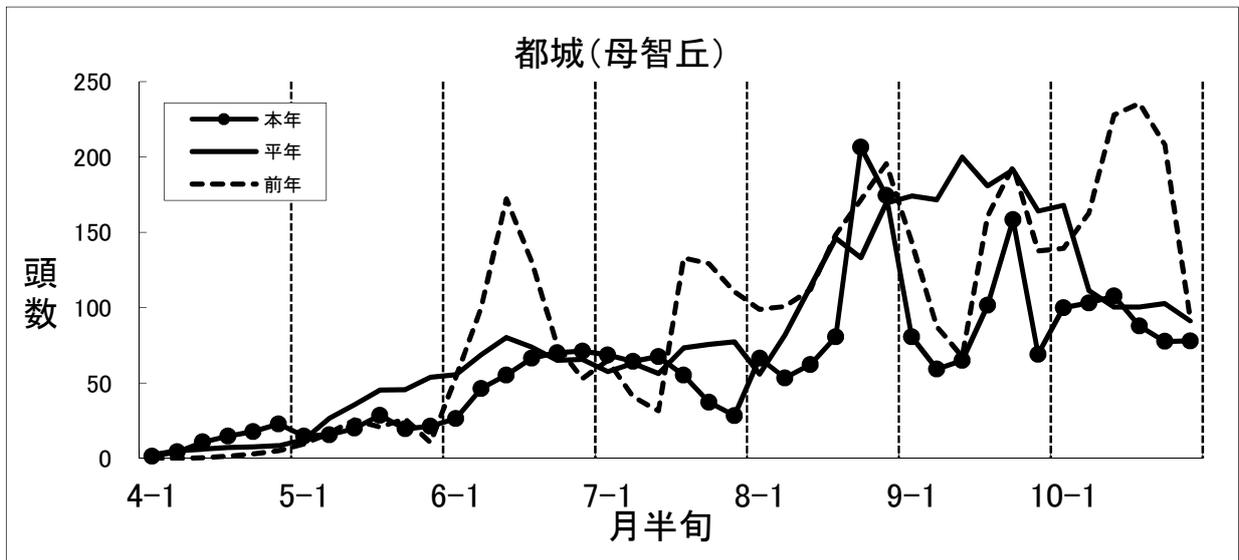
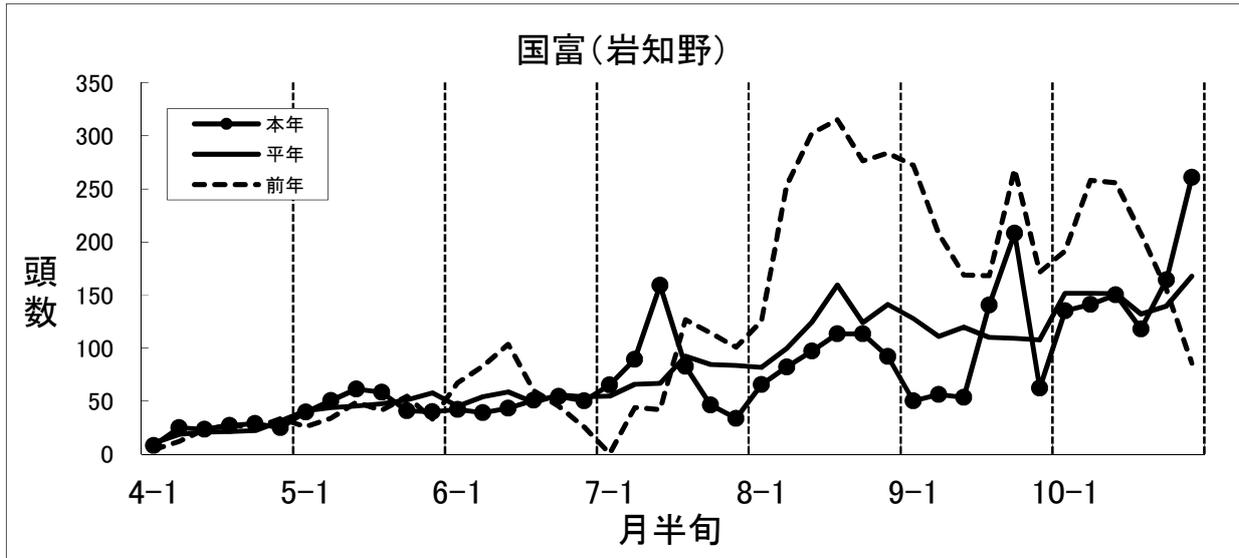
平成24年フェロモントラップ誘殺数(チャノホソガ)



(4) ハスモンヨトウ (雄成虫) の誘殺状況

月	半旬	国富 (岩知野)			都城 (母智丘)			西都 (茶臼原)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	8	10.7	4	1	2.4	0	14	16.7	3
	2	25	18.9	12	4	5.1	0	33	24.4	16
	3	24	20.8	23	11	6.2	1	45	29.8	21
	4	27	21.4	28	15	7.2	2	50	30.1	17
	5	29	22.4	25	18	7.5	3	51	29.9	7
	6	25	31.5	34	23	8.5	5	51	54.2	34
5	1	40	41.1	26	15	12.5	10	92	70.1	48
	2	51	44.0	34	16	26.4	17	102	86.0	86
	3	61	45.5	49	20	35.5	26	0	104.3	138
	4	59	47.7	41	29	45.3	21	138	101.6	76
	5	41	51.4	55	20	45.5	26	97	94.9	88
	6	40	57.8	33	21	53.9	11	89	95.4	56
6	1	42	45.2	67	26	55.6	54	82	79.9	96
	2	39	54.1	83	46	68.7	100	86	97.3	129
	3	43	58.7	104	55	80.3	172	113	130.4	253
	4	51	48.9	60	66	73.8	130	127	101.0	165
	5	54	56.0	45	70	65.1	75	124	86.7	85
	6	50	54.2	26	71	65.7	53	64	71.1	76
7	1	65	54.8	1	69	57.7	65	30	92.8	120
	2	89	65.9	44	64	63.1	41	3	94.3	56
	3	159	66.8	42	68	56.3	32	157	76.8	30
	4	83	92.4	127	55	73.3	133	98	79.3	76
	5	46	84.8	114	37	75.7	129	57	79.0	81
	6	34	83.7	101	28	77.2	111	35	82.7	109
8	1	66	81.9	125	66	55.8	99	84	74.2	143
	2	82	99.6	253	53	82.0	101	87	128.8	231
	3	97	124.7	303	62	113.9	112	154	160.3	140
	4	114	159.4	315	81	146.2	149	254	200.8	183
	5	114	123.9	276	206	133.3	172	153	185.4	196
	6	92	141.0	284	175	169.5	195	112	198.2	221
9	1	50	127.9	272	81	174.1	144	71	214.9	250
	2	56	111.0	208	59	171.6	88	108	258.3	362
	3	54	119.8	169	65	200.0	68	97	290.3	305
	4	141	110.1	168	102	180.8	161	282	253.7	291
	5	208	109.3	269	158	191.5	194	449	257.8	385
	6	62	107.8	171	69	164.0	138	221	228.9	176
10	1	135	151.7	191	100	167.9	139	201	244.2	183
	2	141	151.7	258	103	111.4	163	194	216.4	273
	3	150	151.4	256	108	100.5	228	184	217.1	403
	4	118	132.1	208	88	100.3	236	206	188.5	389
	5	164	139.5	155	78	102.6	208	199	186.5	338
	6	261	167.6	86	78	91.3	93	278	228.6	208

平成24年度フェロモントラップ誘殺数(ハスモンヨトウ)

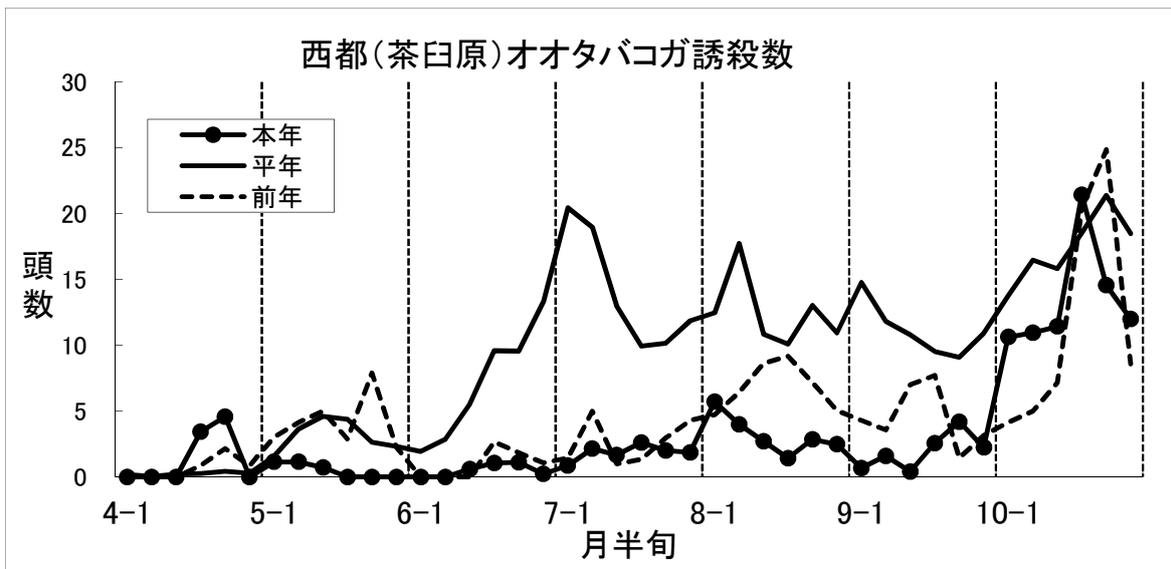
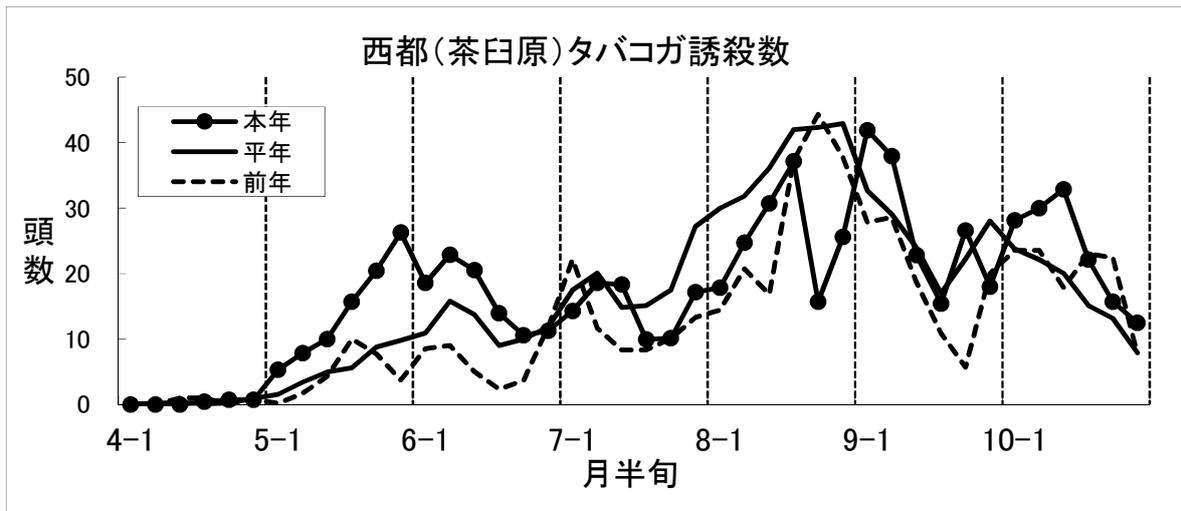


(5) タバコガ・オオタバコガ (雄成虫) の誘殺状況

月	半旬	タバコガ			オオタバコガ		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	0.1	0	0	0.2	0
	2	0	0.2	0	0	0.0	0
	3	0	0.3	1	0	0.2	0
	4	0	0.1	1	3	0.3	1
	5	1	0.2	0	5	0.4	2
	6	1	0.9	1	0	0.3	1
5	1	5	1.5	0	1	1.6	3
	2	8	3.4	2	1	3.6	4
	3	10	4.9	4	1	4.6	5
	4	16	5.6	10	0	4.4	3
	5	20	8.8	8	0	2.6	8
	6	26	9.8	4	0	2.3	2
6	1	19	10.9	9	0	1.9	0
	2	23	15.8	9	0	2.9	0
	3	21	13.8	5	1	5.5	0
	4	14	9.0	2	1	9.6	3
	5	11	10.0	4	1	9.6	2
	6	11	11.9	12	0	13.3	1
7	1	14	17.5	22	1	20.4	1
	2	19	20.1	12	2	19.0	5
	3	18	14.8	8	2	13.0	1
	4	10	15.1	8	3	9.9	1
	5	10	17.5	10	2	10.2	3
	6	17	27.2	13	2	11.8	4
8	1	18	30.0	14	6	12.5	5
	2	25	31.9	21	4	17.7	6
	3	31	36.1	17	3	10.8	9
	4	37	42.0	37	1	10.1	9
	5	16	42.3	44	3	13.0	7
	6	26	42.9	38	2	10.9	5
9	1	42	32.7	28	1	14.8	4
	2	38	29.1	29	2	11.8	4
	3	23	24.0	19	0	10.8	7
	4	15	17.0	11	3	9.5	8
	5	27	22.2	6	4	9.1	1
	6	18	28.0	20	2	10.9	3
10	1	28	23.7	24	11	13.8	4
	2	30	22.1	24	11	16.5	5
	3	33	20.0	18	11	15.8	7
	4	22	15.1	23	21	18.5	20
	5	16	13.2	22	15	21.4	25
	6	12	7.9	8	12	18.5	9

※ フェロモントラップ設置地点：西都市茶臼原

平成24年度フェロモントラップ誘殺数(タバコガ・オオタバコガ)



7)果樹カメムシの誘殺状況

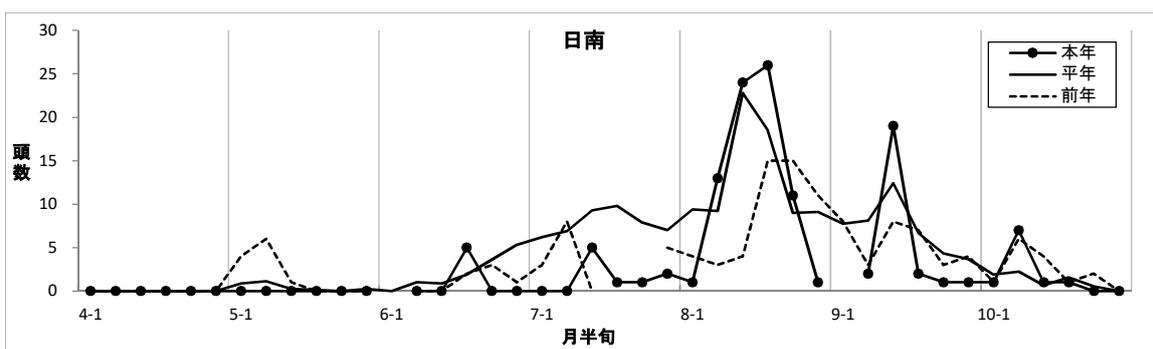
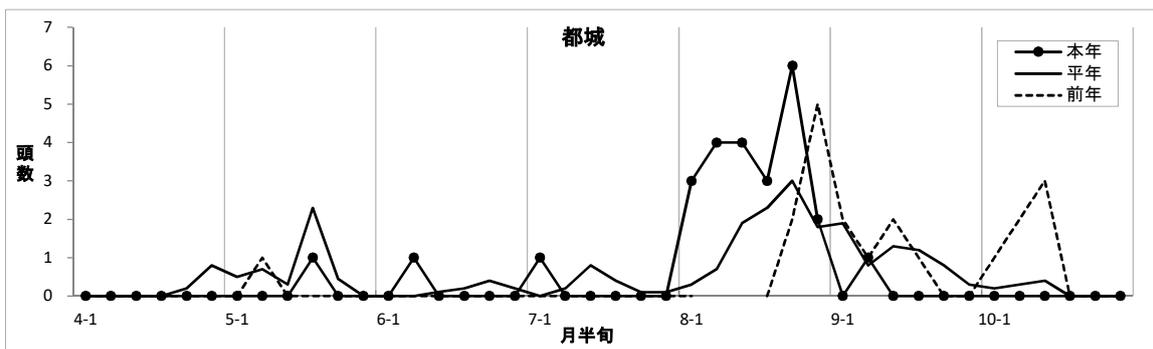
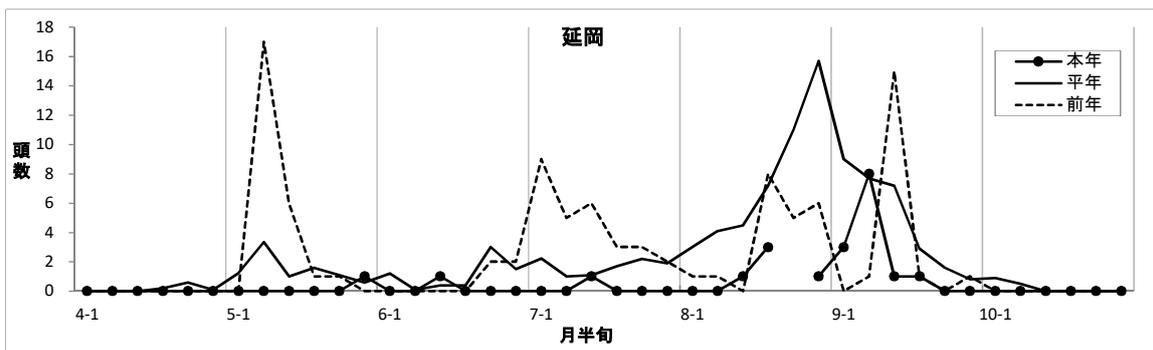
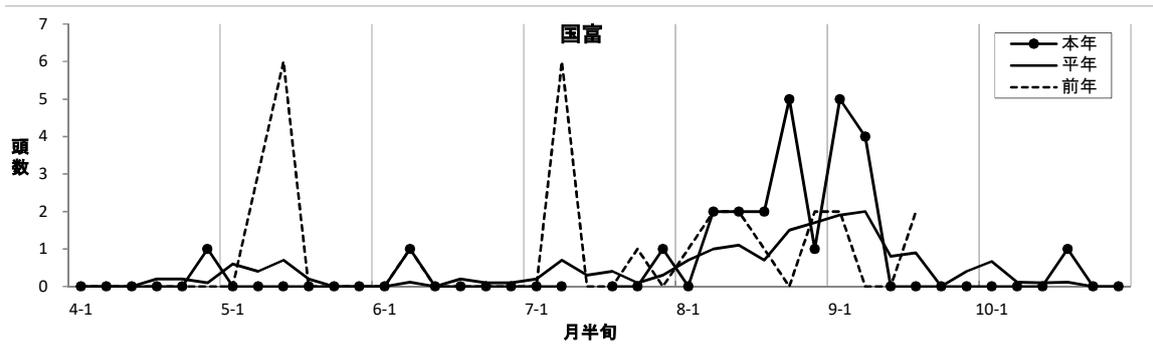
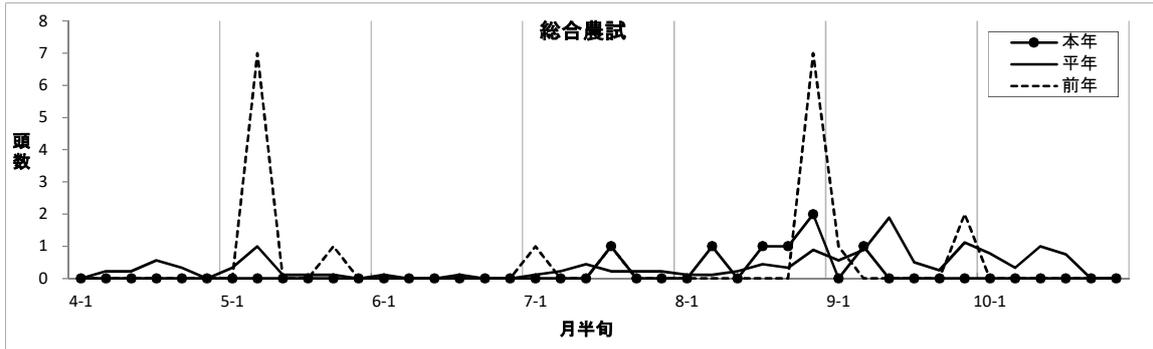
(1)予察灯における果樹カメムシの誘殺状況

①チャバネアオカメムシの誘殺状況

月	半旬	総合農試			国富			延岡			都城			日南		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0
	2	0	0.2	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0
	3	0	0.2	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0
	4	0	0.6	0	0	0.2	0	0	0.2	0	0	0.0	0	0	0.0	0
	5	0	0.3	0	0	0.2	0	0	0.6	0	0	0.2	0	0	0.0	0
	6	0	0.0	0	1	0.1	0	0	0.1	0	0	0.8	0	0	0.0	0
5	1	0	0.3	0	0	0.6	0	0	1.2	0	0	0.5	0	0	0.9	4
	2	0	1.0	7	0	0.4	3	0	3.3	17	0	0.7	1	0	1.1	6
	3	0	0.1	0	0	0.7	6	0	1.0	6	0	0.3	0	0	0.3	1
	4	0	0.1	0	0	0.2	0	0	1.6	1	1	2.3	0	0	0.1	0
	5	0	0.1	1	0	0.0	0	0	1.1	1	0	0.4	0	0	0.0	0
	6	0	0.0	0	0	0.0	0	1	0.6	0	0	0.0	0	0	0.3	0
6	1	0	0.1	0	0	0.0	0	0	1.2	0	0	0.0	0	0	0.0	-
	2	0	0.0	0	1	0.1	1	0	0.1	0	1	0.0	0	0	1.0	0
	3	0	0.0	0	0	0.0	0	1	0.4	0	0	0.1	0	0	0.9	0
	4	0	0.1	0	0	0.2	0	0	0.4	0	0	0.2	0	5	1.9	2
	5	0	0.0	0	0	0.1	0	0	3.0	2	0	0.4	0	0	3.6	3
	6	0	0.0	0	0	0.1	0	0	1.5	2	0	0.2	0	0	5.3	1
7	1	0	0.1	1	0	0.2	0	0	2.2	9	1	0.0	0	0	6.2	3
	2	0	0.2	0	0	0.7	6	0	1.0	5	0	0.2	0	0	6.9	8
	3	0	0.4	0	-	0.3	0	1	1.1	6	0	0.8	0	5	9.3	0
	4	1	0.2	1	0	0.4	0	0	1.7	3	0	0.4	0	1	9.8	-
	5	0	0.2	0	0	0.1	1	0	2.2	3	0	0.1	0	1	7.9	-
	6	0	0.2	0	1	0.3	0	0	1.9	2	0	0.1	0	2	7.0	5
8	1	0	0.1	0	0	0.7	1	0	3.0	1	3	0.3	0	1	9.4	4
	2	1	0.1	0	2	1.0	2	0	4.1	1	4	0.7	-	13	9.2	3
	3	0	0.2	0	2	1.1	2	1	4.5	0	4	1.9	-	24	22.8	4
	4	1	0.4	0	2	0.7	1	3	7.2	8	3	2.3	0	26	18.5	15
	5	1	0.3	0	5	1.5	0	-	11.0	5	6	3.0	2	11	9.0	15
	6	2	0.9	7	1	1.7	2	1	15.7	6	2	1.8	5	1	9.1	11
9	1	0	0.6	1	5	1.9	2	3	9.0	0	0	1.9	2	-	7.8	8
	2	1	0.9	0	4	2.0	0	8	7.7	1	1	0.8	1	2	8.1	3
	3	0	1.9	0	0	0.8	0	1	7.2	15	0	1.3	2	19	12.4	8
	4	0	0.5	0	0	0.9	2	1	2.9	1	0	1.2	1	2	6.7	7
	5	0	0.3	0	0	0.0	-	0	1.6	0	0	0.8	0	1	4.3	3
	6	0	1.1	2	0	0.4	-	0	0.8	1	0	0.3	0	1	3.7	4
10	1	0	0.8	0	0	0.7	-	0	0.9	0	0	0.2	1	1	1.9	1
	2	0	0.3	0	0	0.1	-	0	0.5	0	0	0.3	2	7	2.2	6
	3	0	1.0	0	0	0.1	-	0	0.0	0	0	0.4	3	1	0.7	4
	4	0	0.8	0	1	0.1	-	0	0.0	0	0	0.0	0	1	1.6	1
	5	0	0.0	0	0	0.0	-	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.6	2
	6	0	0.0	0	0	0.0	-	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0
合計		7	15	20	25	19	29	21	103	96	26	25	20	125	190	132

※「-」は欠測

平成24年予祭灯における誘殺数(チャバネアオカメムシ)

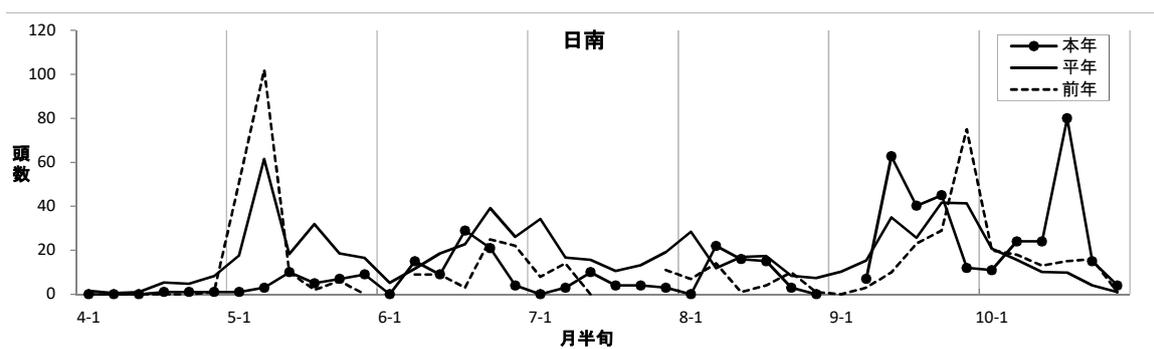
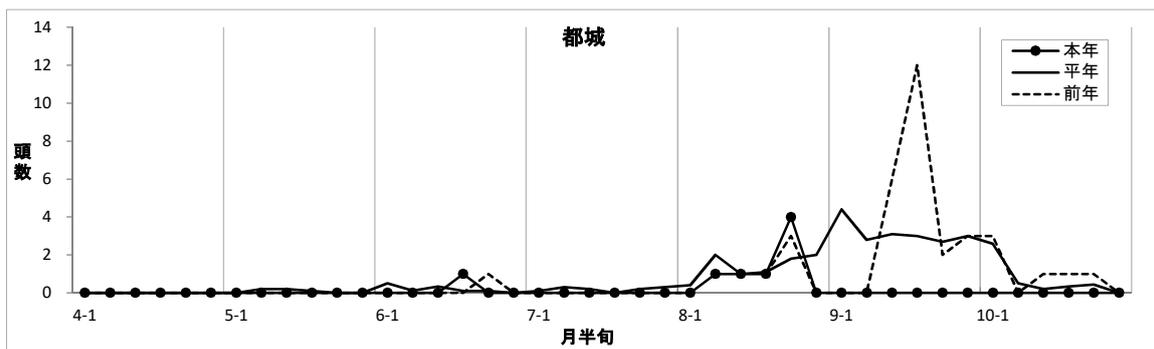
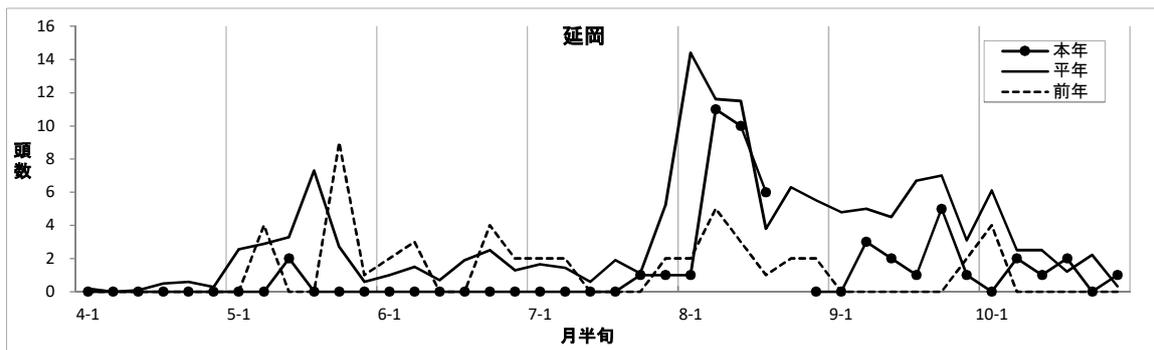
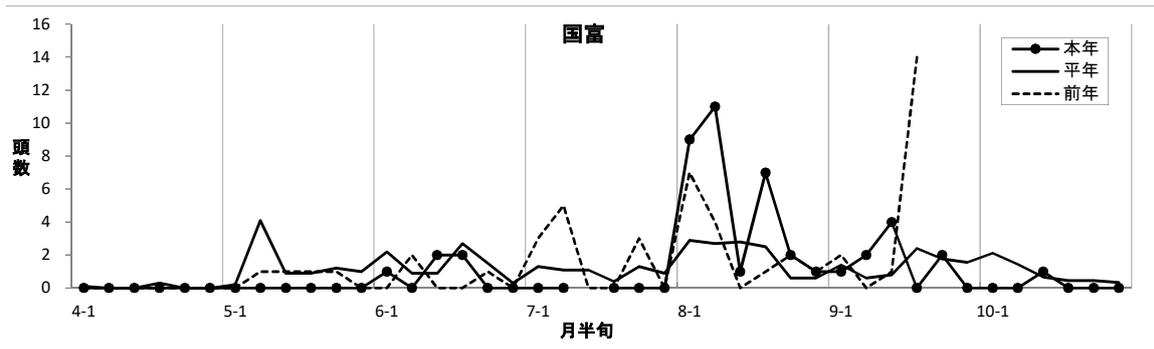
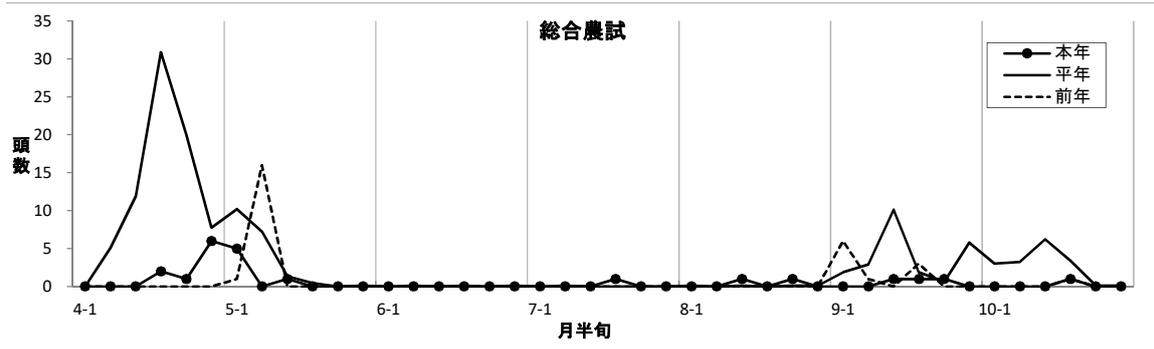


②ツヤアオカメムシの誘殺状況

月	半旬	総合農試			国富			延岡			都城			日南		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	0.0	0	0	0.1	0	0	0.2	0	0	0.0	0	0	1.6	0
	2	0	5.1	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.6	0
	3	0	11.9	0	0	0.0	0	0	0.1	0	0	0.0	0	0	1.0	0
	4	2	30.9	0	0	0.3	0	0	0.5	0	0	0.0	0	1	5.4	0
	5	1	20.0	0	0	0.0	0	0	0.6	0	0	0.0	0	1	4.8	0
	6	6	7.8	0	0	0.0	0	0	0.3	0	0	0.0	0	1	8.2	1
5	1	5	10.2	1	0	0.2	0	0	2.6	0	0	0.0	0	1	17.7	51
	2	0	7.2	16	0	4.1	1	0	2.9	4	0	0.2	0	3	61.6	102
	3	1	1.3	0	0	0.9	1	2	3.3	0	0	0.2	0	10	18.3	10
	4	0	0.4	0	0	0.9	1	0	7.3	0	0	0.1	0	5	31.9	2
	5	0	0.0	0	0	1.2	1	0	2.7	9	0	0.0	0	7	18.6	6
	6	0	0.1	0	0	1.0	0	0	0.6	1	0	0.0	0	9	16.5	0
6	1	0	0.0	0	1	2.2	0	0	1.0	2	0	0.5	0	0	5.1	-
	2	0	0.1	0	0	0.9	2	0	1.5	3	0	0.1	0	15	11.6	9
	3	0	0.0	0	2	0.9	0	0	0.7	0	0	0.3	0	9	18.5	9
	4	0	0.1	0	2	2.7	0	0	1.9	0	1	0.1	0	29	22.8	3
	5	0	0.0	0	0	1.5	1	0	2.5	4	0	0.1	1	21	39.1	25
	6	0	0.1	0	0	0.3	0	0	1.3	2	0	0.0	0	4	26.1	22
7	1	0	0.0	0	0	1.3	3	0	1.7	2	0	0.1	0	0	34.3	8
	2	0	0.1	0	0	1.1	5	0	1.4	2	0	0.3	0	3	16.6	14
	3	0	0.0	0	-	1.1	0	0	0.6	0	0	0.2	0	10	15.6	0
	4	1	0.0	0	0	0.4	0	0	1.9	0	0	0.0	0	4	10.5	-
	5	0	0.0	0	0	1.3	3	1	1.1	0	0	0.2	0	4	13.1	-
	6	0	0.0	0	0	0.9	0	1	5.2	2	0	0.3	0	3	19.1	11
8	1	0	0.1	0	9	2.9	7	1	14.4	2	0	0.4	0	0	28.5	7
	2	0	0.0	0	11	2.7	4	11	11.6	5	1	2.0	-	22	11.9	14
	3	1	0.1	0	1	2.8	0	10	11.5	3	1	1.0	-	16	16.9	1
	4	0	0.0	0	7	2.5	1	6	3.8	1	1	1.1	1	15	17.4	4
	5	1	0.1	0	2	0.6	2	-	6.3	2	4	1.8	3	3	8.4	10
	6	0	0.1	0	1	0.6	1	0	5.5	2	0	2.0	0	0	7.3	1
9	1	0	1.9	6	1	1.4	2	0	4.8	0	0	4.4	0	-	10.3	0
	2	0	2.9	1	2	0.6	0	3	5.0	0	0	2.8	0	7	15.3	3
	3	1	10.1	0	4	0.8	1	2	4.5	0	0	3.1	6	63	35.0	10
	4	1	1.9	3	0	2.4	14	1	6.7	0	0	3.0	12	40	25.6	23
	5	1	0.6	0	2	1.8	-	5	7.0	0	0	2.7	2	45	41.7	29
	6	0	5.8	0	0	1.6	-	1	3.1	2	0	3.0	3	12	41.3	75
10	1	0	3.0	0	0	2.1	-	0	6.1	4	0	2.6	3	11	20.8	20
	2	0	3.2	0	0	1.4	-	2	2.5	0	0	0.5	0	24	15.7	18
	3	0	6.2	0	1	0.7	-	1	2.5	0	0	0.2	1	24	10.1	13
	4	1	3.4	1	0	0.4	-	2	1.2	0	0	0.3	1	80	9.9	15
	5	0	0.1	0	0	0.4	-	0	2.2	0	0	0.4	1	15	4.1	16
	6	0	0.1	0	0	0.3	-	1	0.3	0	0	0.0	0	4	1.0	1
合計		22	135	28	46	49	50	50	141	52	8	34	34	521	740	533

※「-」は欠測

平成24年予察灯における誘殺数(ツヤアオカメムシ)

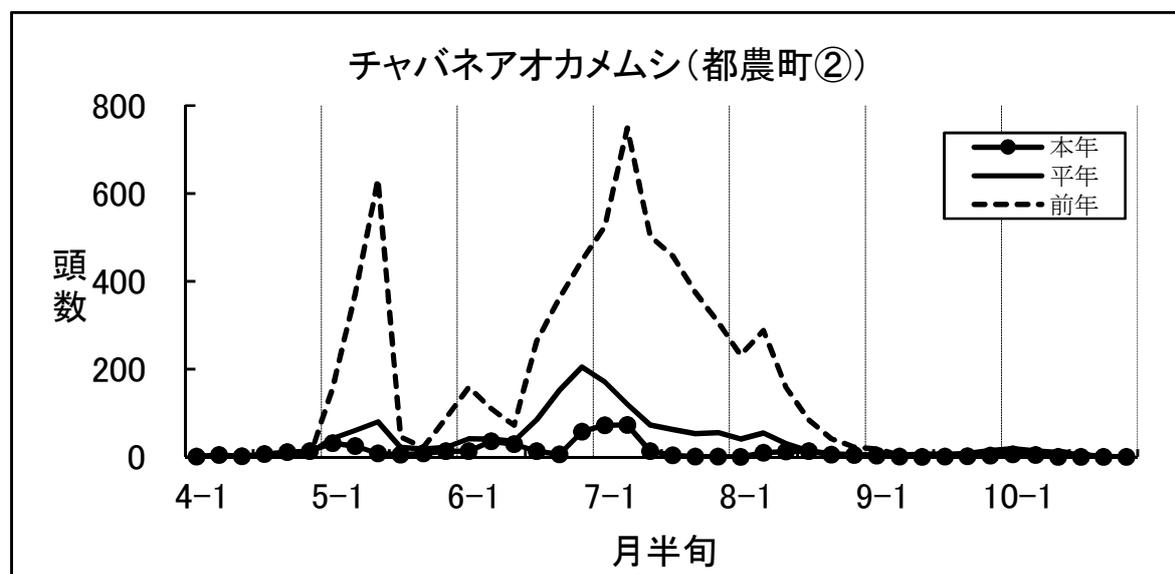
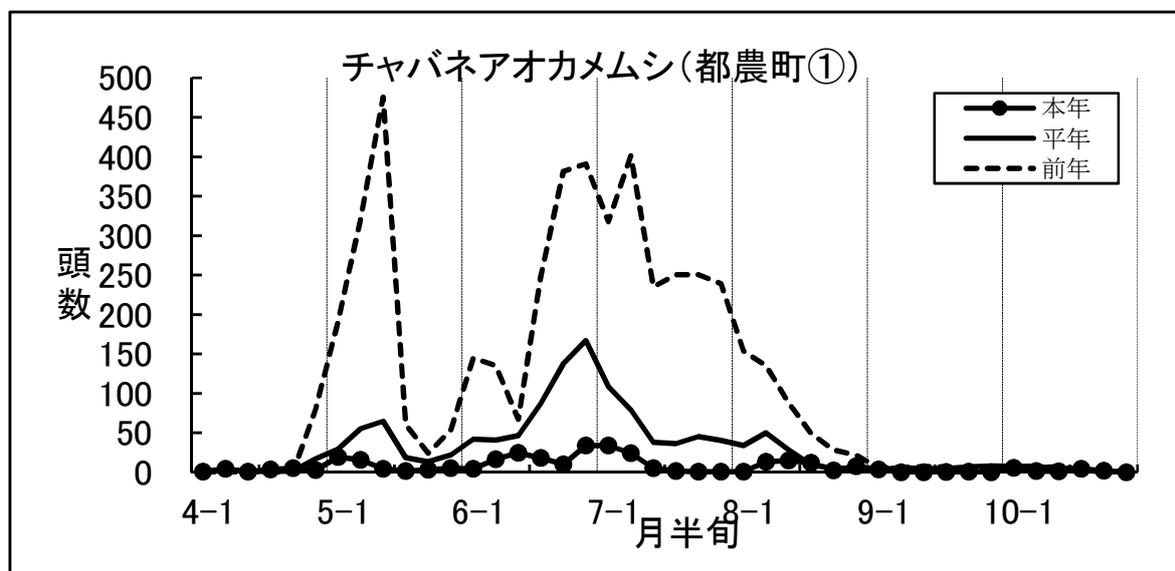
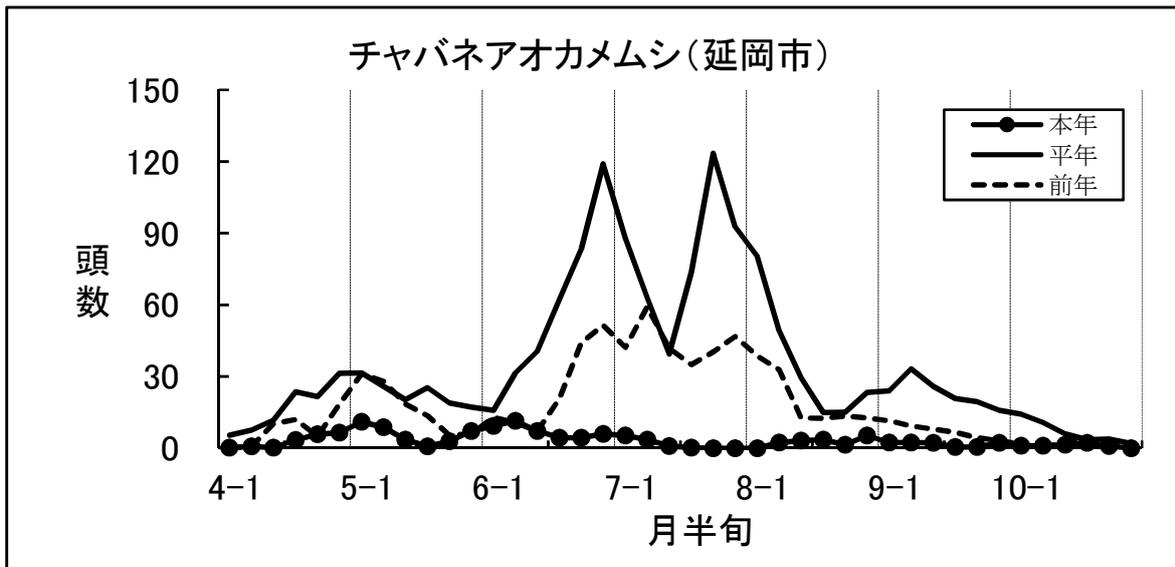


(2) 合成集合フェロモンによる誘殺状況

① チャバネアオカメムシ

月	半旬	延 岡			都農①			都農②		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	5.4	0	1	0.1	0	1	1.3	0
	2	1	7.6	1	4	2.7	0	4	2.3	0
	3	0	11.7	10	1	1.3	0	2	1.9	3
	4	3	23.6	12	3	1.3	0	6	2.8	3
	5	6	21.6	5	5	1.4	0	11	4.0	2
	6	6	31.4	18	3	16.9	80	13	9.0	1
5	1	11	31.5	31	19	29.5	191	31	42.4	157
	2	9	25.9	28	16	55.3	322	25	60.6	371
	3	4	20.3	19	4	64.5	476	8	80.3	632
	4	1	25.3	14	1	18.6	61	5	21.5	46
	5	3	18.9	5	3	13.2	24	8	18.0	22
	6	7	17.2	6	5	21.8	54	13	21.6	88
6	1	9	15.8	13	4	42.2	145	13	41.2	158
	2	11	31.4	11	16	40.8	135	36	40.6	110
	3	7	40.5	7	25	46.4	67	29	35.6	72
	4	4	62.4	21	18	87.2	249	13	84.1	263
	5	4	83.5	44	10	137.4	382	6	152.1	362
	6	6	119.1	51	34	166.9	391	58	204.7	448
7	1	5	88.0	42	34	108.9	318	72	171.1	525
	2	4	63.0	59	24	79.2	402	73	119.7	749
	3	1	39.4	42	5	38.1	235	13	72.8	503
	4	0	73.8	35	2	36.1	251	3	62.7	458
	5	0	123.5	40	1	45.3	251	1	52.8	375
	6	0	92.7	47	1	40.3	239	1	55.1	306
8	1	0	80.3	39	1	33.9	154	0	40.5	232
	2	2	49.2	33	13	49.9	135	9	54.4	288
	3	3	29.5	13	15	28.6	88	12	30.5	158
	4	4	14.9	13	12	9.5	49	13	13.7	84
	5	1	15.0	14	2	4.6	28	5	7.3	42
	6	5	23.3	13	8	5.7	22	4	5.2	22
9	1	2	24.1	11	3	2.9	6	3	4.5	18
	2	2	33.2	9	0	6.1	6	1	3.3	4
	3	2	25.9	8	0	4.4	7	0	4.0	6
	4	1	20.8	7	0	4.9	7	0	5.5	6
	5	0	19.4	4	1	7.0	2	2	7.7	1
	6	2	15.8	3	0	8.0	4	3	14.4	5
10	1	1	14.2	2	6	7.4	5	6	18.8	6
	2	1	10.7	0	2	7.5	6	4	14.1	6
	3	1	5.9	3	1	4.0	7	0	10.3	13
	4	2	3.6	3	4	2.7	3	0	5.1	6
	5	1	3.8	3	2	0.8	1	0	1.4	2
	6	0	2.0	0	0	0.3	0	0	0.2	0
計		135	1465	737	309	1283	4801	503	1599	6554

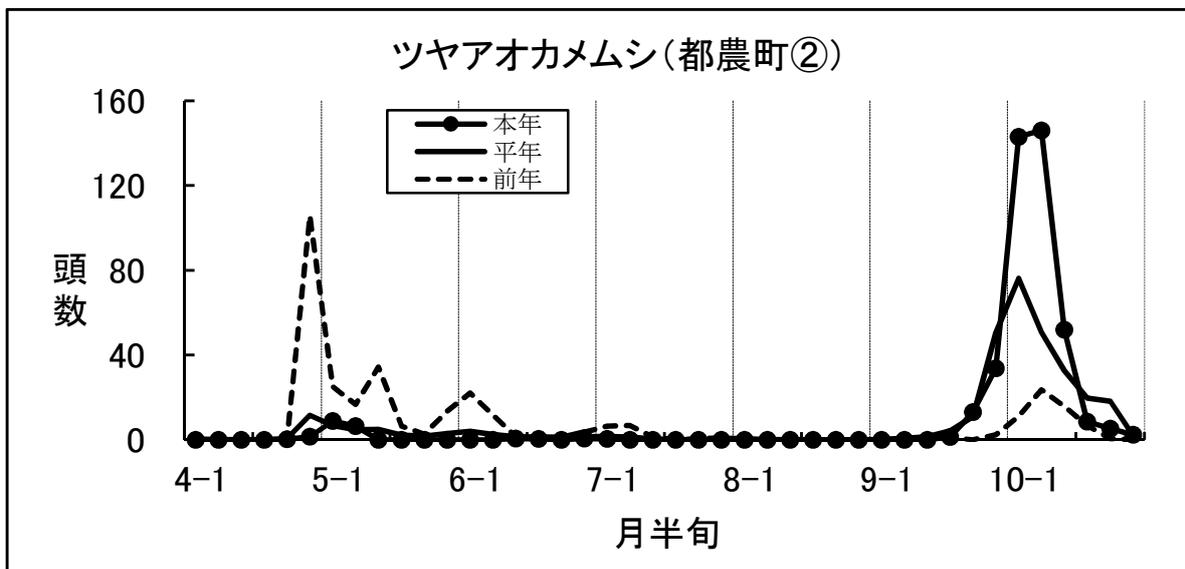
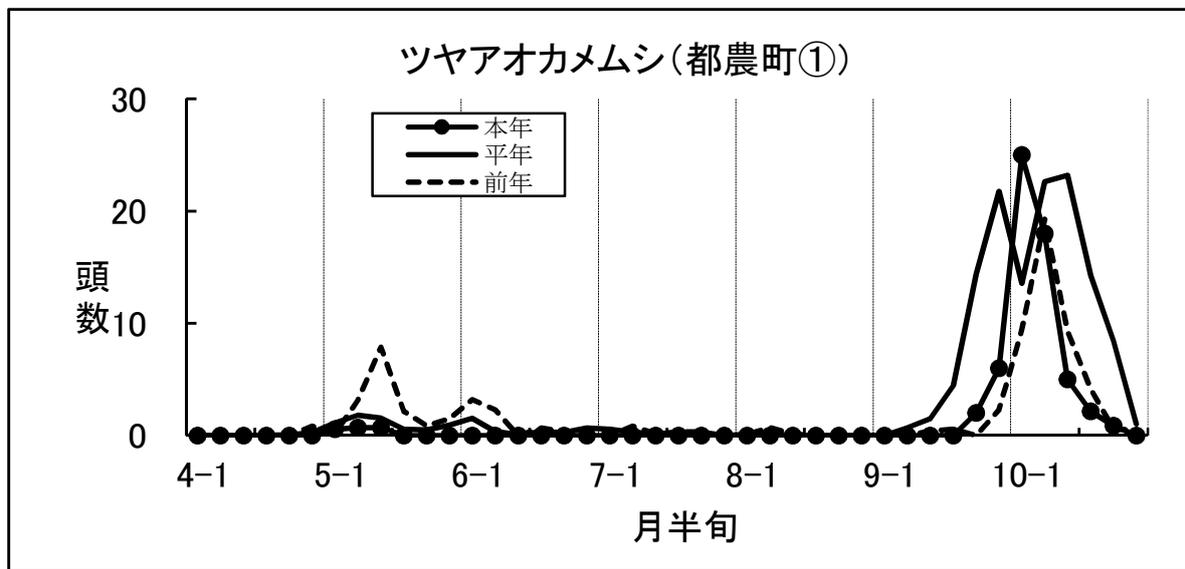
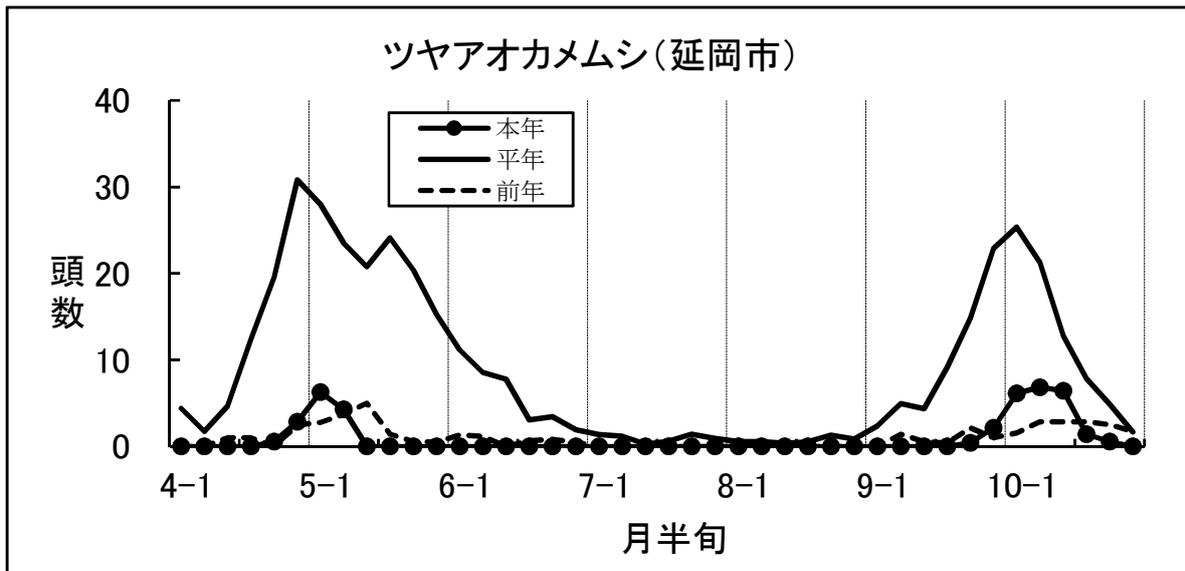
平成24年フェロモントラップ誘殺数(チャバネアオカメムシ)



② ツヤアオカメムシ

月	半旬	延 岡			都農①			都農②		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	4.4	0	0	0.0	0	0	0.4	0
	2	0	1.8	0	0	0.0	0	0	0.1	0
	3	0	4.7	1	0	0.0	0	0	0.0	0
	4	0	12.4	1	0	0.0	0	0	0.1	0
	5	1	19.6	0	0	0.1	0	0	0.5	0
	6	3	30.8	3	0	0.3	1	1	11.6	106
5	1	6	28.0	3	1	1.1	0	9	6.7	25
	2	4	23.5	4	1	1.8	3	6	4.7	17
	3	0	20.8	5	1	1.6	8	0	4.9	34
	4	0	24.1	1	0	0.6	2	0	2.2	6
	5	0	20.4	1	0	0.5	1	0	1.7	3
	6	0	15.2	1	0	0.9	2	0	2.9	14
6	1	0	11.2	1	0	1.5	3	0	4.0	22
	2	0	8.5	1	0	0.4	2	0	2.5	12
	3	0	7.8	0	0	0.1	0	1	1.4	1
	4	0	3.1	1	0	0.3	1	0	1.2	0
	5	0	3.4	1	0	0.3	0	0	1.2	1
	6	0	1.9	1	0	0.7	0	1	1.4	4
7	1	0	1.4	0	0	0.6	0	0	1.6	6
	2	0	1.2	0	0	0.3	1	0	1.3	7
	3	0	0.3	0	0	0.1	0	0	0.4	1
	4	0	0.6	0	0	0.0	0	0	0.1	0
	5	0	1.4	0	0	0.0	0	0	0.1	1
	6	0	0.9	0	0	0.0	0	0	0.1	1
8	1	0	0.6	0	0	0.0	0	0	0.1	1
	2	0	0.6	0	0	0.1	1	0	0.1	0
	3	0	0.4	0	0	0.0	0	0	0.1	0
	4	0	0.5	0	0	0.0	0	0	0.1	0
	5	0	1.3	0	0	0.0	0	0	0.0	0
	6	0	0.9	0	0	0.0	0	0	0.0	0
9	1	0	2.4	0	0	0.0	0	0	0.2	0
	2	0	4.9	1	0	0.7	0	0	0.7	0
	3	0	4.4	1	0	1.5	0	0	1.4	1
	4	0	9.2	0	0	4.5	1	1	4.2	1
	5	0	14.9	2	2	14.4	0	13	10.9	0
	6	2	22.9	1	6	21.7	2	34	50.4	2
10	1	6	25.4	2	25	13.6	9	143	76.2	11
	2	7	21.3	3	18	22.6	19	146	50.7	24
	3	6	12.8	3	5	23.2	9	52	32.7	16
	4	1	7.8	3	2	14.3	4	9	19.7	7
	5	1	4.9	3	1	8.4	1	5	18.1	1
	6	0	1.7	2	0	1.0	1	2	2.1	0
計		38	384	43	61	137	72	424	319	323

平成24年フェロモントラップ誘殺数(ツヤアオカメムシ)



8) 農作物有害動植物の発生及び防除状況

(1) 発生経過、発生原因及び防除の概要

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
早期水稲	葉いもち	平年: やや早い 前年: 早い	平年: 並 前年: -	2,989	初確認は5月14日(平年:5月17日)。6月下旬の巡回調査においては、発生面積率、発生程度いずれも平年並の発生であった。	5月下旬までは天候に恵まれたが、6月中旬から7月中旬にかけて曇りや雨の日が多く、感染に好適な条件であった。	育苗箱施薬、初発前の粒剤散布及び初発時の粉剤・液剤散布。
	穂いもち	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: -	2,240	7月中旬の巡回調査においては、発生面積率は平年比やや多、発生程度は平年並の発生であった。	出穂期以降の天候は曇りや雨の日が多く、感染に好適な条件であった。	防除情報第5号(H24.6.22)発表。穂ばらみ期と穂揃い期に防除。一部地区で航空防除。
	紋枯病	平年: 遅い 前年: 並	平年: 並 前年: -	4,232	6月下旬の巡回調査においては、発生未確認であった。その後、7月中旬の巡回調査においては、発生面積率は平年比やや多、発生程度は平年比やや少の発生であった。	6月中旬から7月中旬にかけて曇りや雨の日が多く、感染に好適な条件であった。	穂ばらみ期に防除。一部地区で航空防除。
	イネミズゾウムシ	平年: 遅い 前年: 遅い	平年: やや少 前年: -	4,981	4月中旬の巡回調査においては、発生未確認であったが、その後、5月中旬の巡回調査においては、発生面積率は平年比やや少、発生程度は平年並の発生であった。		育苗箱施薬、粒剤の水面施用。
	スクミリンゴガイ	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: -	3,491	4月中旬の巡回調査においては、発生面積率は平年比やや多、発生程度は平年並の発生であった。その後、5月中旬の巡回調査においても、発生面積率は平年比やや多で推移したが、発生程度は平年比多と急激に増加した。		粒剤の水面施用。貝の採取・冬季の耕起。
	カメムシ類	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: -	2,741	6月下旬の本田巡回調査では、発生面積率は平年比やや少、発生程度は平年並の発生であった。その後、7月中旬の巡回調査においては、発生面積率は平年並、発生程度(20回振り)は平年比やや多の発生であった。		防除情報第3号(H24.6.12)発表。穂揃い期とその7~10日後の2回防除を徹底。一部地区で航空防除。
普通期水稲	葉いもち	平年: 早い 前年: 並	平年: やや多 前年: -	7,216	初確認は6月12日(平年:7月1日、前年:6月14日)で、置き苗からの伝染が確認された。7月中旬の巡回調査においては、発生面積率、発生程度いずれも平年比やや少の発生であった。その後、7月下旬と8月中旬の巡回調査においては、発生面積率は平年比やや多、発生程度は平年並で推移した。	6月中旬から7月中旬にかけて曇りや雨の日が多く、感染に好適な条件であった。	防除情報第5号(H24.6.22)発表。育苗箱施薬、初発前の粒剤散布及び初発時の粉剤・液剤散布。
	穂いもち	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: -	6,938	9月中旬の巡回調査においては、発生面積率、発生程度はいずれも平年比やや多の発生であった。	8月下旬から9月上旬にかけて曇りや雨の日が多く、感染に好適な条件であった。	穂ばらみ期と穂揃い期に防除。一部地区で航空防除。
	紋枯病	平年: 遅い 前年: 遅い	平年: やや少 前年: -	3,053	初確認は8月13日であった(平年7月30日)。9月中旬の巡回調査においては、発生面積率は平年比やや少、発生程度は平年並の発生であった。	ほ場での発生は少なく、適期、適正防除が行われた。	穂ばらみ期の防除。一部地区で航空防除。
	もみ枯細菌病	平年: - 前年: -	平年: 多 前年: -	6,938	9月中旬の巡回調査においては、発生面積率は平年比多、発生程度は平年比やや多の発生であった。		粒剤による防除。
	内穎褐変病	平年: - 前年: -	平年: やや多 前年: -	9,158	9月中旬の巡回調査においては、発生面積率は平年比やや多、発生程度は平年並の発生であった。		

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
普通期水稻	セジロウンカ	平年: 早い 前年: 遅い	平年: 多 前年: -	11,101	予察灯初飛来は6月8日で平年より早かった。8月中旬の巡回調査においては、発生面積率97.5%(平年82.3%)、発生程度はすくいとり虫数76.1頭(平年20.6頭)といずれも平年比多の発生であった。その後、9月中旬の巡回調査では、発生面積率75.0%(平年63.0%)と平年並、発生程度はすくいとり虫数5.6頭(平年20.7頭)と平年比やや少と減少した。坪枯れについては、7月下旬に飼料用イネにおいて確認された	7月上旬にまとまった飛来が確認された。	防除情報第7号(H24.7.10)発表。 防除情報第8号(H24.8.3)発表。 育苗箱施薬。飛来虫と次世代幼虫の防除。出穂期のウンカ類防除。 一部地区で航空防除。
	トビイロウンカ	平年: 早い 前年: 早い	平年: 多 前年: -	9,668	予察灯初飛来は、6月27日で平年より早かった。本田では、7月中旬から発生が確認され、8月中旬の巡回調査においては、発生面積率65.0%(平年25.5%)で平年比多、株当たり虫数0.13頭(平年0.09頭)で平年比やや多の発生であった。また、短翅型雌成虫率も73.8%と高かったことから、その後、急速に増加し、9月中旬の巡回調査においては、発生面積率は82.5%(平年39.5%)、発生程度は株当たり虫数1.46頭(平年0.68頭)といずれも平年比多の発生であった。坪枯れについては、9月中旬から散見された。	7月上中旬にまとまった飛来が確認されたこと や短翅型雌成虫率が高かったこと、7月下旬から9月中旬にかけて平均気温が高かったことから、8月中旬以降、急速に増加した。	防除情報第7号(H24.7.10)発表。 防除情報第8号(H24.8.3)発表。 注意報第3号(H24.8.16)発表。 警報第1号(H24.8.24)発令。 育苗箱施薬。飛来虫と次世代幼虫の防除。出穂期のウンカ類防除。 一部地区で航空防除。
	ヒメトビウンカ	平年: 早い 前年: 早い	平年: 並 前年: -	9,991	8月中旬の巡回調査においては、発生面積率85.0%(平年59.9%)、発生程度はすくいとり虫数多7.9頭(平年4.4頭)でいずれも多発生であった。その後、9月中旬調査においては、発生面積率90.0%(平年82.2%)と平年並、発生程度はすくいとり虫数23.6頭(平年28.9%)と平年比やや多の発生であった。	越冬量は平年比少であったが、その後の好天により増加した。	育苗箱施薬。出穂期のウンカ類防除。 一部地区で航空防除。
	ツマグロヨコバイ	平年: 並 前年: 早い	平年: やや多 前年: -	9,197	8月中旬の巡回調査においては、発生面積率は平年比やや多、発生程度は平年比多の発生であった。その後、9月中旬の巡回調査においては、発生面積率が平年並、発生程度は平年比多の発生であった。	越冬量は平年比やや少であったが、その後の好天により増加した。	育苗箱施薬。
	コブノメイガ	平年: 早い 前年: 早い	平年: やや少 前年: -	3,053	7月中旬の巡回調査においては、発生面積率、発生程度いずれも平年比少であった。その後、8月中旬の巡回調査においては、発生面積率、発生程度いずれも平年比やや少、9月中旬の巡回調査においても発生面積率は平年並、発生程度は平年比やや少と少ない発生状況で推移した。	平年より飛来が少なかった。	育苗箱施薬。発蛾最盛期の粒剤防除及びウンカ類との同時防除の粉剤・液剤防除。
	イネミズゾウムシ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: -	1,388	6月中旬巡回調査においては、発生面積率は平年並、発生程度は平年比やや少の発生であった。		育苗箱施薬、粒剤の水面施用。
	スクミリンゴガイ	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: -	4,163	6月中旬巡回調査においては、発生面積率は平年比やや多、発生程度は平年並の発生であった。	水管理及び防除の不徹底。	粒剤の水面施用。貝の採取・冬季の耕起
	カメムシ類	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: -	4,163	8月中旬の巡回調査においては、発生面積率は平年比やや少、発生程度は平年並であった。その後、9月中旬の巡回調査では、発生面積率、発生程度いずれも平年比やや多の発生であった。	出穂期、穂ぞろい期防除の不徹底。	穂揃い期とその7~10日後の防除。
	大豆	べと病	平年: 並 前年: 並	平年: 多 前年: -	293	9月中旬の巡回調査においては、発生面積率は平年比多、発生程度は平年比やや多の発生であった。	8月下旬から9月中旬にかけて平均気温が高く、曇りや雨の日が多いことから、感染に好適な条件であった。
葉焼病		平年: - 前年: -	平年: - 前年: -	0			
ハスモンヨトウ		平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: -	293	8月中旬の巡回調査においては、発生面積率は平年並、発生程度は平年比少であった。その後、9月中旬巡回調査では発生面積率は平年並、発生程度は平年比やや少の発生であった。		若齢期の防除。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
	カメシ類	平年:遅い 前年:並	平年:並 前年:—	73	8月中旬の巡回調査においては、発生面積率、発生程度いずれも平年並の発生であった。その後、9月中旬調査においても、発生面積率、発生程度いずれも平年並で推移している。		さやの肥大期の防除。
かんしょ	イモキハガ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:—	2,133	8月中旬巡回調査における発生面積率は平年比やや多、発生程度は平年並みであった。その後、発生面積率、発生程度ともに平年比やや少の発生で推移した。		被害初期の防除。
	ナカシロシハ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:—	3,200	8月中旬巡回調査においては、発生面積率は平年比やや多、発生程度は平年並であった。その後、発生面積率、発生程度ともに平年比やや少の発生で推移した。		被害初期の防除。
	ハスモンヨトウ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:—	533	8月中旬巡回調査においては、発生面積率は平年比やや多、発生程度は平年並であった。その後、発生面積率、発生程度ともに平年比やや少の発生で推移した。		他の害虫との同時防除。
ジャガイモ	疫病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:—	109	4月中旬調査では発生未確認であったが、5月中旬巡回調査において、発生面積率、発生程度はいずれも平年並の発生であった。	4月中旬以降の降雨による初期防除の遅れ。	種芋の更新。初発前の予防防除。
	アブラムシ類	平年:並 前年:並	平年:並 前年:—	109	5月中旬巡回調査においては、発生面積率、発生程度ともに平年並の発生であった。	初期防除の不徹底。	初発時の防除。
	ニジュウヤホシテントウ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:—	109	5月中旬巡回調査においては、発生面積率、発生程度ともに平年並の発生であった。		幼虫分散前の防除。
	ハスモンヨトウ	平年:並 前年:並	平年:多 前年:—	274	5月中旬巡回調査においては、発生面積率、発生程度ともに平年比多の発生であった。	初期防除の不徹底。	若齢期の防除。
かんきつ	そうか病	平年:並 前年:やや早い	平年:並 前年:並	254	葉、果実ともに平年並みの発生であった。 初発は5月2日(平年比-3日)と平年並みであった。	越冬病斑量は平年並みであった。 春葉伸長期である3月下旬~4月上旬の降雨量は少なかったが、落弁期以降曇雨天が続いた。	春梢発芽期、落弁期、幼果期の農薬防除。 越冬病斑量を減らすため、剪定時に病葉をできるだけ除去する。
	黒点病	平年:やや早い 前年:やや早い	平年:並 前年:並	1,015	春葉での発生は平年並みであった。7月以降果実での発生は平年並み~やや多で推移した。 梅雨時期の連続降雨で防除適期に薬剤散布できなかった園では多発した。	5月下旬から7月上旬の感染時期に降水量が多かった。 降雨による適期防除の不徹底。 枯れ枝等の放置。	落花期以降の定期的な防除。 枯れ枝の除去。剪定くずの適切な処理。
	かいよう病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	338	越冬病斑量は平年並みであり、年間を通して平年並みの発生であった。 初発は春葉で5月10日(平年比+2日)、果実で6月28日(平年比+2日)と平年並みであった。	越冬病斑量は平年並みであった。 夏芽伸長期である6月下旬~7月の降雨量は多かったが、表年であり、ハモグリガの発生量も少なかった。	発芽直前、開花直前、落花期の防除。 強風対策として防風垣、防風ネットを設置する。
	ミカンハダニ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:並	931	春ダニの発生は平年並みであった。6月~8月の発生量は平年比少~やや少で推移したが、9月に一部の地域で多発した園が見られ、やや多の発生となった。	梅雨時期の降雨日数が多かった。 夏期マシン油を散布していない園では多発した。	発生初期での防除の実施。 同一系統薬剤の連用を避ける。 冬期、夏期にマシン油乳剤を利用する。
	チャノキイロアザミ	平年:遅い 前年:遅い	平年:並 前年:並	169	梅雨時期の降雨量が多く8月までは少発生であったが、9月以降増加し平年並みの発生となった。	梅雨時期に曇雨天が続く、適期に防除できなかった園では発生量が増加した。	落花期から9月までの防除。 多発する園では、5~6月、8月~9月の発生にも注意する。
	ハモグリガ	平年:やや遅い 前年:やや遅い	平年:少 前年:少	423	新梢数が少なく、少発生で推移した。	表年であり新梢発生量が少なかった。 適期防除が行われた。	防除の徹底。 新梢をだらだらと発生させないような肥培管理。
	アブラムシ類	平年:並 前年:並	平年:少 前年:やや少	169	新梢数が少なく、少発生で推移した。	梅雨時期の降雨により発生が抑制された。 適期防除が行われた。	防除の徹底。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
	カメムシ類	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや多	466	予察灯ではチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシとも5月上旬から誘殺されはじめ、越冬世代成虫の誘殺数は平年、前年より少ない数で推移した。フェロモントラップでは10月1～2半旬に都農町で平年より多い数が誘殺された。7月以降の予察灯への誘殺状況は国富町で平年より多い数が誘殺された。その他の地域では平年並であった。果樹園への飛来や9月上旬に確認されはじめ、一部のほ場で被害が発生した。	2月に実施した越冬量調査ではチャバネアオカメムシの越冬成虫は確認されなかった。7月下旬に実施したヒノキ毬果口針鞘数調査では果樹園への飛来は9月上旬頃と予測された。ヒノキ毬果量はやや少なかった。	飛来を確認したら直ちに防除 防除情報第9号(H24.10.12)発表
茶	炭疽病	平年:並 前年:早い	平年:多 前年:並	1,486	前年からの越冬病斑が多く、年間を通して多発した。県内全域で発生したが、特に高千穂、五ヶ瀬など山間地で多発した。	前年からの越冬病斑量が多く、6月以降曇雨天が続き発生が助長された。	二番茶生育期、秋芽生育期の防除 に炭疽病との同時防除
	もち病	平年:並 前年:並	平年:多 前年:並	371	6月から発生が見られ、7月に発生面積、程度ともに高くなった。高千穂、五ヶ瀬など山間部での発生が多いが、例年発生のみられない平地の茶園でも発生も確認された。	梅雨時期、8月中旬～9月に曇雨天が続き、発生が助長された。	二番茶と秋芽の萌芽期から2、3葉期に炭疽病との同時防除
	輪斑病	平年:やや遅い 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	278	発生量は一番茶から三番茶まで少なかった。秋芽で増加したが、年間を通してやや少ない発生となった。	二番茶適採時期に降雨が多かったが、適期防除が行われた。	二番茶、三番茶摘採直後の防除
	チャノコカクモンハマキ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや少	93	6月に平年より多い発生がみられたが、その後は平年並みで推移した。フェロモントラップによる発蛾最盛期は川南町で各世代とも1半旬から2半旬遅かったがその他の地域ではおおむね平年並みであった。	前年秋以降の発生が少なく、越冬世代の発生は少なかった。チャハマキとの同時防除を行っているが、発生ピークのずれや摘採時期との関係で適期防除できなかった園では発生量が増加した。	薬剤防除 チャハマキとの同時防除
	チャハマキ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:並	93	ほ場での幼虫確認数は一年を通してやや少ない数で推移した。フェロモントラップ誘殺数では6月以降に三股町、串間市で平年より多い数が誘殺された。	チャノコカクモンハマキとの同時防除を行っているが、発生ピークのずれや摘採時期との関係で適期防除できなかった園では発生量が増加した。	薬剤防除 チャノコカクモンハマキとの同時防除
	チャノホソガ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや少	929	県内全域で発生が見られ、発生面積、程度ともに平年よりやや多い発生となった。	ハマキ類やチャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマとの同時防除を行っているが、発生ピークのずれや摘採時期との関係で適期防除できなかった園では発生が増加した。	三角葉巻前の防除
	カンザワハダニ	平年:やや遅い 前年:やや遅い	平年:並 前年:やや少	1,093	越冬成虫はやや少ない発生であったが、4、5月に増加した。6月以降発生面積、寄生率ともに低下し年間を通して平年並みの発生となった。	越冬成虫はやや少なく、2、3月の低温により発生が抑えられた。	薬剤防除
	チャノミドリヒメヨコバイ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:並	1,208	前年夏以降発生量が多く、7、8月に一時減少したものの今年もやや多の発生となった。	初期防除、適期防除の不徹底。	二番茶、三番茶開花期と秋芽の防除。 チャノキイロアザミウマとの同時防除。
	チャノキイロアザミウマ	平年:遅い 前年:やや遅い	平年:やや少 前年:やや少	929	年間を通してやや少ない発生となった。	2、3月の低温や梅雨時期の降雨により発生が抑えられた。	二番茶、三番茶開花期と秋芽の防除。 チャノミドリヒメヨコバイとの同時防除。
	クワシロカイガラムシ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	744	第1世代の発生が多かったが、第2世代、第3世代の発生はやや少～平年並みであった。	適採時期との関係で第一世代に防除できなかった園では発生が増加した。第2世代では孵化時期に降雨が続き発生が抑えられた。	各世代の孵化最盛期の防除 ヒロロキシフェン剤の普及

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
平成24年産 冬春きゅうり H23.9～24.6	べと病	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:並	123	平成23年11月頃から冬春きゅうり主産地である県中部で散発的に確認されていたが、平成24年1月には県内全域で確認され、徐々に発生面積が拡大していった。春先には一部ほ場で多発したものの、概ね少ない発生であった。	肥培管理及び湿度管理の不徹底 初期防除の不徹底	薬剤による防除
	灰色かび病	平年:並 前年:—	平年:並 前年:多	12	年内の発生はなかったものの、年明け以降発生が確認された。降雨の影響等により多湿状態となり、発生面積、発生程度とも平年を上回って推移した。	早期防除の不徹底 罹病果の放置	薬剤による防除 罹病果の持ち出し
	うどんこ病	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:少	94	平成22年10月には発生面積が多かったものの、その後徐々に減少していった。発生程度は栽培期間を通して平年より低い値で推移した。	初期防除の不徹底 窒素質肥料の多用	薬剤による防除
	褐斑病	平年:やや遅い 前年:やや遅い	平年:やや少 前年:やや多	61	年内の発生は少なく推移していたが、年明け以降徐々に発生面積が拡大していった。3月以降は減少し、全体を通しては平年並からやや少の発生であった。	湿度管理の不徹底 窒素質肥料の多用	初期防除の徹底 薬剤による防除
	ミナミキイロアザミウマ	平年:並 前年:やや早い	平年:やや多 前年:やや少	41	平成23年12月から発生が確認され、春先に向けて徐々に発生が拡大していった。また、県中部を中心にミナミキイロアザミウマが媒介する黄化えそ病の発生も確認され、徐々に発生面積が拡大していった。	早期水稲準備等、労力不足による防除の不徹底	定植時の粒剤施用 薬剤のローテーション散布 防虫ネットの設置
	ハスモンヨトウ	平年:並 前年:やや遅い	平年:並 前年:並	33	栽培開始時に散発的に確認され、一部ほ場では多発したが、その後減少し、年明け以降は発生は確認されなくなった。	施設開放時の侵入防止対策等の不備	防虫ネットの設置 若齢期防除の実施
平成24年産 冬春ピーマン H23.9～24.6 (栽培期間)	モザイク病	平年:遅い 前年:並	平年:少 前年:並	0	栽培期間を通して発生は見られなかった。	早期抜根等の実施	土壌消毒の実施 抵抗性品種の導入 媒介昆虫の防除
	斑点病	平年:やや早い 前年:やや早い	平年:やや多 前年:並	55	栽培開始時から発生が確認され、緩やかに面積が拡大していった。発生面積自体は比較的良かったが、一部ほ場で多発する傾向であった。	施設内湿度管理の不徹底 燃油高騰対策のための内張多層被覆下での栽培法への対応不足	薬剤による防除 施設内湿度の適正管理 罹病葉の持ち出し
	うどんこ病	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	61	平成23年11月以降県内各地で発生が確認されるようになったが、発生面積、程度ともに概ね平年を下回る発生であった。	初期防除の不徹底 窒素質肥料の多用	薬剤による防除
	灰色かび病	平年:遅い 前年:並	平年:並 前年:並	0	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底 罹病果の早期除去	薬剤による防除
	ミナミキイロアザミウマ	平年:並 前年:やや早い	平年:やや少 前年:やや少	85	栽培当初から発生が確認されたが、発生面積は11月をピークに徐々に減少していった。天敵等の導入が進んでおり、発生程度は低位で推移した。	天敵導入面積の拡大 天敵導入前防除の取り組み	防虫ネットの設置 薬剤による防除 生物農薬等の活用
平成24年産 冬春トマト H23.9～24.6 (栽培期間)	灰色かび病	平年:やや早い 前年:やや早い	平年:やや多 前年:—	24	平成23年11月中旬に葉での発生を確認し、12月以降徐々に葉及び果実での発生が拡大していった。	施設内の低温多湿状態 初期防除の不徹底	薬剤による防除
	葉かび病	平年:やや遅い 前年:やや遅い	平年:並 前年:—	13	平成23年11月中旬に葉での発生を確認したが、年内は発生程度は低く推移した。平成24年1月以降に県中部を中心に発生が拡大した。	発生初期の対応の遅れ	薬剤による防除 抵抗性品種の導入 罹病葉の持ち出し
	黄化葉巻病	平年:— 前年:並	平年:— 前年:—	15	栽培当初から県内各地で発生し、その後、3月まで散発的に発生が確認された。	タバコナジラミ類防除の不徹底	媒介昆虫の防除 罹病株の除去及び適正処分

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
	コナジラミ類	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:ー	59	栽培当初から県内各地で発生が確認され、その後、発生面積は平年比やや多、発生程度は平年並で推移した。	苗床での防除の不徹底 侵入防止対策の不備	防虫ネットの設置 薬剤による防除 薬剤のローテーション散布
	ハモグリバエ類	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:ー	8	平成23年10月調査で県北地域で発生が確認され、その後も12月以降に県央地域で散発的に発生が見られたが、発生面積、発生程度ともに平年比やや少で推移した。	苗床での防除の不徹底 侵入防止対策の不備	初期防除の徹底 薬剤による防除
平成24年産 いちご H23.9～24.5 (栽培期間)	うどんこ病	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:ー	12	親株床で多発し、定植時から苗からの持込みによる発生が多く確認された。12月に果実の被害が多く確認されたものの1月以降は徐々に発生が少なくなった。	親株床での防除の不徹底 初期防除の不徹底	薬剤による防除 初期防除の徹底 古葉、罹病葉の持ち出し
	灰色かび病	平年:やや遅 前年:やや遅	平年:やや多 前年:ー	4	年内は発生が確認されなかったものの、1月以降に急激に県内全域で発生が多くなった。	ハウス内の環境条件の不備	薬剤による防除 罹病果の持ち出し
	炭疽病	平年:早 前年:早	平年:やや多 前年:ー	13	親株床で多発しており、定植直後から県内全域で発生が多く確認された。抜根等の対応により徐々に減少したものの、平年比やや多で推移した。	親株床での選抜の不備 梅雨時期の多雨による感染拡大	健全苗の選抜の徹底 罹病株及び周辺株の除去
	ハダニ類	平年:並 前年:並	平年:並 前年:ー	43	親株床での発生がやや多く、平成23年10月調査では平年比やや多の発生であった。その後は、栽培終了まで発生面積、程度ともに平年並で推移した。	初期防除の不徹底 薬剤感受性の低下	薬剤による防除 早期発見によるスポット防除
	ハスモンヨトウ	平年:並 前年:やや早	平年:やや少 前年:ー	8	栽培当初は県内各地で発生が確認されたが、その後減少し、2月以降の発生は確認されなかった。	侵入防止対策の不備	薬剤による防除 防虫ネットの設置
平成24年産 秋冬だいこん H23.9～23.12 (栽培期間)	萎黄病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	0	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底 罹病果の早期除去	高温期の播種を避ける 連作を避ける
	軟腐病	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:並	155	平成23年11月に県中部で発生が確認された。	初期防除の不徹底 罹病果の放置	排水を良くする
	コナガ	平年:並 前年:並	平年:多 前年:やや多	618	平成23年10月には一部地域のみでの発生であったが、11月以降県内各地で確認されるようになった。	初期防除の不徹底	薬剤による防除
	ダイコンサルハムシ	平年:並 前年:並	平年:多 前年:並	773	平成23年10月に一部地域で発生が確認され、11月には県内各地で多発生状態となった。一部のほ場では甚発生であった。	登録農薬がないため、薬剤防除ができない。	

(2) 発生面積及び防除面積等

農作物名	作付面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考	
			甚	多	中	少		実	延				
早期水稻	7,970	苗立枯病	0	0	0	0	0	(同)	7,173	(同)	7,173	0	1,993
		苗いもち	0	0	0	0	0	(同)	7,173	(同)	7,173	0	0
		葉いもち	0	0	0	2,989	2,989	(同)	7,173	(同)	7,890	0	0
		穂いもち	0	0	0	2,239	2,239	(同)	6,376	(同)	7,332	0	0
		紋枯病	0	0	0	4,232	4,232	(同)	3,587	(同)	3,587	0	0
		白葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ばか苗病	0	0	0	0	0	(同)	7,173	(同)	7,173	0	0
		心枯線虫病						-					0
		〃 (種)	0	0	0	0	0	(同)	7,173	(同)	7,173	0	-
		ごま葉枯病	0	0	0	502	502	0	0	0	0	0	0
		黄化萎縮病	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	
		縞葉枯病	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	
		萎縮病	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	
		黄萎病	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	
		もみ枯細菌病	0	0	0	5,730	5,730	0	0	0	0	0	
		〃 (種)	0	0	0	0	0	(同)	7,173	(同)	7,173	0	-
		内穎褐変病	0	0	0	6,727	6,727	-	-	0	2,303	0	
		稲こうじ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ニカメイチュウ第1世代	0	0	0	1,745	1,745	0	0	0	0	0	
		ニカメイチュウ第2世代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		セジロウンカ	0	0	0	5,730	5,730	(同)	638	(同)	638	0	6,288
トビイロウンカ	0	0	0	0	0	(同)	638	(同)	638	0	0		
ヒメトビウンカ	749	996	2,240	2,495	6,480	(同)	638	(同)	638	3,985	6,926		

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平成発生面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
		ツマグロヨコバイ	0	0	749	6,225	6,974	(同) 638	(同) 638	749	2,933	
		イネハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		イネヒメハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		イネドロオイムシ	0	0	0	0	0	(同) 1,355	(同) 1,355	0	0	
		イネゾウムシ	0	0	0	749	749	(同) 1,355	(同) 1,355	0	422	
		斑点米カメムシ類	502	247	247	1,745	2,741	(同) 3,985	(同) 4,686	996	2,303	
		イネツトムシ	0	0	0	1,243	1,243	0	0	0	1,466	
		フタオビコヤガ	0	0	0	1,993	1,993	0	0	0	2,096	
		イネヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		アワヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		コブノメイガ	0	0	0	749	749	0	0	0	1,889	
		イネミズゾウムシ	0	0	0	4,981	4,981	(同) 1,355	(同) 1,355	0	1,052	
		スクミリンゴガイ	0	502	749	2,240	3,491	(同) 80	(同) 80	2,240	1,722	
普通期水稲	11,100	苗立枯病	0	0	0	0	0	(同) 9,990	(同) 9,990	0	333	
		苗いもち	0	0	0	0	0	(同) 9,990	(同) 9,990	0	0	
		葉いもち	0	278	555	6,383	7,216	(同) 9,990	(同) 10,989	833	0	
		穂いもち	0	0	0	6,938	6,938	(同) 9,990	(同) 10,212	0	0	
		紋枯病	0	0	278	2,775	3,053	(同) 7,770	(同) 7,770	278	0	
		白葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	788	
		ばか苗病	0	0	0	0	0	(同) 9,990	(同) 9,990	0	0	
		心枯線虫病					-			0	0	
		〃 (種)	0	0	0	0	0	(同) 9,990	(同) 9,990	0	-	
		ごま葉枯病	0	0	0	278	278	(同) 0	(同) 0	0	788	
		黄化萎縮病	0	0	0	0	0	-	-	0	0	
		縞葉枯病	0	0	0	0	0	-	-	0	0	

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平成発生 面積(ha)	備考		
			甚	多	中	少		実	延					
		萎縮病	0	0	0	0	0	-	-	0	0			
		黄萎病	0	0	0	0	0	-	-	0	0			
		もみ枯細菌病	0	0	0	6,938	6,938	(同)	0	(同)	0	0		
		〃 (種)	0	0	0	0	0	(同)	9,990	(同)	9,990	0	-	
		内穎褐変病	0	0	0	9,158	9,158	0	0	0	0	5,816		
		稲こうじ病	0	0	833	3,053	3,886	0	0	833	0	0		
		ニカメイチュウ第1世代	0	0	0	0	0	(同)	5,372	(同)	5,372	0	0	
		ニカメイチュウ第2世代	0	0	0	555	555	(同)	0	(同)	0	0	0	
		セジロウンカ	555	1,110	4,162	5,273	11,100	(同)	10,989	(同)	24,975	5,828	10,445	
		トビイロウンカ	0	0	1,110	8,048	9,158	(同)	10,989	(同)	24,975	1,942	1,055	
		ヒメトビウンカ	278	2,775	3,053	3,885	9,991	(同)	10,989	(同)	24,975	6,106	10,312	
		ツマグロヨコバイ	0	0	1,110	9,435	10,545	(同)	10,989	(同)	24,975	1,110	6,982	
		イネハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		イネヒメハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		イネドロオイムシ	0	0	0	0	0	(同)	1,887	(同)	1,887	0	0	
		イネゾウムシ	0	0	0	0	0	(同)	1,887	(同)	1,887	0	588	
		斑点米カメムシ類	0	555	1,388	2,220	4,163	(同)	5,661	(同)	6,660	1,943	4,751	
		イネツトムシ	0	0	0	5,203	5,203	0	0	0	0	0	1,055	
		フタオビコヤガ	0	0	0	3,053	3,053	0	0	0	0	0	1,077	
		イネヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		アワヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		コブノメイガ	0	0	0	3,053	3,053	8,880	8,991	0	0	0	6,871	
		イネミズゾウムシ	0	0	0	1,388	1,388	(同)	1,887	(同)	1,887	0	877	
		スクミリンゴガイ	0	0	555	3,608	4,163	(同)	483	(同)	483	555	1,277	

農作物名	作付面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生面積(ha)	備考	
			甚	多	中	少		実	延				
大豆	293	紫斑病					-						
		さび病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		立枯性病害					-						
		べと病	0	0	0	293	293	0	0	0	0	117	
		葉焼病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		モザイク病					-						
		アブラムシ病	0	0	0	37	37	(同)	205	(同)	308	0	0
		コガネムシ類	0	0	0	198	198	(同)	205	(同)	308	0	293
		ハスモンヨトウ	0	0	73	220	293	(同)	205	(同)	308	73	293
		ハダニ類					-						
		ダイス [*] サヤタマハ [*] エ					-						
		マメヒメサヤムシカ [*]					-						
		マメシンクイガ					-						
		シロイチモジ [*] マダ [*] ラメイカ [*]					-						
カメムシ類	0	0	0	37	37	(同)	205	(同)	308	0	117		
ウコンノメイガ					-								
さつまいも	3,200	ナカジロシタバ	267	1,066	1,600	267	3,200	(同)	2,656	(同)	5,312	2,933	2,800
		ハスモンヨトウ	0	0	0	533	533	(同)	2,656	(同)	5,312	0	1,436
		イモコガ	0	267	800	1,066	2,133	(同)	2,656	(同)	5,312	1,067	1,555
じゃがいも	547	疫病	0	0	0	109	109	(同)	304	(同)	609	0	180
		アブラムシ類	0	0	0	109	109	(同)	304	(同)	609	0	151
		ニシユウヤホシテントウ	0	0	0	109	109	(同)	304	(同)	609	0	167
かんきつ	1,521	そうか病(春葉)	0	0	0	85	85		1,065		3,195	0	121
		温州	0	0	0	254	254		1,065		3,195	0	223
	822	黒点病(果実)	0	85	338	592	1,015		1,065		3,195	423	1,023
		晩柑	0	0	85	169	254		1,065		1,065	85	453

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
	699	かよいよ病(果実)	0	0	0	338	338	1,065	1,065	0	342	
		日焼け炭疽病	0	0	0	169	169	0	0	0	59	
		ミカンハダニ	0	85	85	761	931	(同) 1,521	5,324	170	880	
		ミカンサビダニ	0	0	0	0	0	(同) 1,521	(同) 5,324	0	31	
		チャノキイロアサミウマ	0	0	0	169	169	1,369	4,107	0	154	
		ミカンハモグリガ	0	0	169	254	423	423	635	169	1,080	
		アブラムシ類	0	0	0	169	169	169	169	0	650	
		カメムシ類	0	0	0	466	466	466	932	0	500	
茶	1,580	炭疽病	0	186	371	929	1,486	1,580	5,530	557	1,000	
		もち病	0	0	93	278	371	(同) 1,580	(同) 1,580	93	219	
		網もち病	0	0	0	0	0	(同) 1,580	(同) 5,530	0	0	
		輪斑病	0	0	0	278	278	1,580	3,160	0	339	
		チャノコカクモンハマキ	0	0	93	0	93	(同) 1,580	(同) 5,530	93	100	
		チャハマキ	0	0	0	93	93	(同) 1,580	(同) 5,530	0	147	
		チャノホソガ	0	93	0	836	929	(同) 1,580	(同) 5,530	93	795	
		カンザワハダニ	0	0	243	850	1,093	1,580	3,950	243	941	
		チャノミドリヒメヨコハイ	0	0	93	1,115	1,208	(同) 1,580	(同) 5,530	93	1,048	
		チャノキイロアサミウマ	0	0	0	929	929	(同) 1,580	(同) 5,530	0	1,141	
		クロシロカイカラムシ	0	93	465	186	744	744	1,116	558	744	
		カスミカメ類	0	0	0	465	465	465	465	0	462	
冬春キュウリ 栽培期間 (H23.9 ~H24.6)	371	べと病	4	10	17	92	123	353	1,762	31	165	
		炭そ病	0	0	0	0	0	156	312	0	1	
		疫病	0	0	0	0	0	148	148	0	0	
		灰色かび病	0	0	3	9	12	148	148	3	10	
		うどんこ病	0	0	7	87	94	371	1,484	7	129	
		褐斑病	3	4	15	39	61	356	1,069	22	96	
		斑点細菌病	0	0	0	0	0	93	186	0	1	

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
		モザイク病	0	0	0	0	0			0	5	
		ミナミキイロアザミウマ	0	0	12	29	41	353	2,115	12	26	
		アブラムシ類	0	0	0	0	0	148	148	0	3	
冬春ピーマン 栽培期間 (H23.9 ～H24.6)	207	疫病	0	0	0	2	2	87	87	0	1	
		斑点病	2	9	4	40	55	166	662	15	54	
		斑点細菌病	0	0	0	0	0	41	41	0	1	
		うどんこ病	2	2	8	49	61	182	547	12	125	
		灰色かび病	0	0	0	0	0	52	104	0	3	
		モザイク病	0	0	0	0	0			0	10	
		アブラムシ類	0	4	2	2	8	104	207	6	5	
		タバコガ	0	0	0	0	0	114	228	0	1	
		ミナミキイロアザミウマ	0	0	0	85	85	201	1,406	0	110	
ヒラズハナアザミウマ	2	8	17	28	55	201	1,406	27	62			
冬春トマト 栽培期間 (H23.9 ～H24.6)	125	疫病	0	0	0	4	4	94	375	0	2	
		灰色かび病	0	0	6	18	24	113	225	6	18	
		葉かび病	0	0	3	10	13	88	263	3	18	
		コナジラミ類	0	1	3	55	59	125	875	4	47	
		ハモグリバエ類	0	0	2	6	8	103	205	2	27	
		モザイク病	0	0	0	0	0			0	0	
		アブラムシ類	0	0	0	2	2	56	113	0	1	
		(含ミニ)ハスモンヨトウ	0	0	1	9	10	56	113	1	10	
冬春イチゴ 栽培期間 (H23.9 ～H24.5)	71	灰色かび病	0	1	0	3	4	63	125	1	7	
		うどんこ病	1	1	3	7	12	71	142	5	18	
		炭そ病	0	0	2	11	13	18	36	2	5	
		アブラムシ類	0	2	4	15	21	36	71	6	20	
		ハダニ類	0	0	6	37	43	71	284	6	36	
		ハスモンヨトウ	0	0	3	5	8	71	142	3	18	

農作物名	作付面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
秋冬ダイコン	1,546	モザイク病	0	0	0	309	309			0	381	
栽培期間		アブラムシ類	0	0	0	1,237	1,237	959	959	0	423	
(H23.10~12)		キスジノミハムシ	0	0	0	155	155	309	309	0	53	

9) 農作物有害動植物発生予察事業実施状況

(1) 発表情報一覧(警報、注意報、特殊報、防除情報)

情報の種類	番号	発令月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
警報	1号	8月28日	普通期水稲	トビイロウンカ	次ページ以降を参照
注意報	1号	6月20日	いちご	炭疽病	
	2号	6月26日	茶	炭疽病	
	3号	8月16日	普通期水稲	トビイロウンカ	
特殊報	1号	3月7日	チャトゲコナジラミ	ヒサカキ	
防除情報	1号	5月25日	施設野菜(きゅうり、ピーマン、トマト等)	アザミウマ類、コナジラミ類、土壌病害虫	
	2号	5月25日	茶	チャノミドリヒメヨコバイ	
	3号	6月12日	早期水稲	斑点米カメムシ類	
	4号	6月22日	早期水稲	穂いもち	
	5号	6月22日	普通期水稲	いもち病(葉いもち)	
	6号	7月5日	施設園芸全般	ワタアブラムシ	
	7号	7月10日	普通期水稲	トビイロウンカ、セジロウンカ	
	8号	8月3日	普通期水稲	トビイロウンカ、セジロウンカ	
	9号	10月12日	果樹全般	果樹カメムシ	
	10号	11月27日	ピーマン	アザミウマ類	
	11号	12月26日	灰色かび病	トマト	
	12号	1月18日	アザミウマ類、コナジラミ類	きゅうり	
	13号	1月25日	アブラムシ類	施設野菜全般	

14号	1月25日	ワタアブラムシ	施設野菜全般
-----	-------	---------	--------

(2)情報の内容

◎ 警報第1号（発令月日：平成24年8月28日）

病害虫名 トビイロウンカ

作物名 普通期水稻

1. 発生地域 県内全域

2. 発生時期 —

3. 発生程度 多

4. 警報発令の根拠

(1) 県では注意報第3号（平成24年8月16日付け）を発表し、トビイロウンカに対する防除徹底を啓発したところである。しかし、8月下旬に実施した巡回調査の結果、依然として発生地域は拡大し、生息密度も高まっている。

(2) 8月下旬の巡回調査における発生面積率 75.0 %は、坪枯れ等の被害が発生した平成21年度や平成22年度（両年ともトビイロウンカに対する警報を発表）よりも高く、株当たり虫数 0.93 頭は平成22年度よりも多い（表1、図1、2）。特に北諸県と西諸県における生息密度は急激に高まっており、北諸県は発生面積率 100 %、株当たり虫数 2.21 頭、西諸県は発生面積率 87.5 %、株当たり虫数 1.56 頭となっている。

表1. 巡回調査における発生状況（8月下旬）

年度	発生面積率 (%)	株当たり虫数 (頭)
平成24年度	75.0	0.93
平成23年度	40.6	0.04
平成22年度	64.3	0.13
平成21年度	62.3	2.40

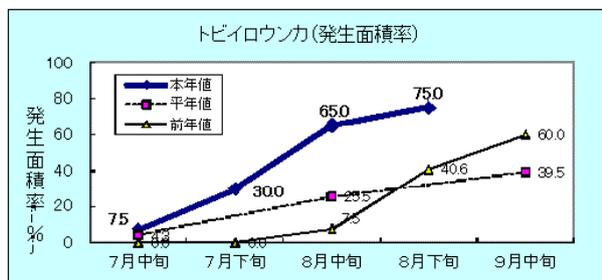


図1. 発生面積率の推移

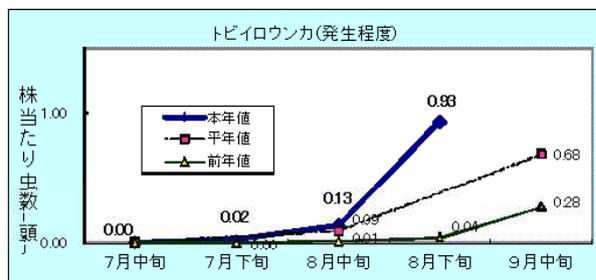


図2. 株当たり虫数の推移

(3) 鹿児島地方气象台が8月24日に発表した向こう1ヶ月の気温（8月25日～9月24日）は、高い確率が50%と予想されていることから、本種の増殖に好適な状況がしばらく続くと考えられる。

5. 防除上の注意

- (1) トビイロウンカは水田に侵入後2～3世代増殖を繰り返し、急激な密度上昇により収穫期頃に大きな被害を及ぼす。防除適期は、幼虫期前半であるが、地域やほ場によって発生状況にばらつきがあるので、ほ場をよく観察し、水稻の株元に成虫及び幼虫を確認した場合は速やかに防除を行う。ただし、注意報第3号の発表以降に本田防除を行っていないほ場については、直ちに防除を行う（別紙：県内トビイロウンカの発生世代予測を参照）。
- (2) 既に本田防除を行ったほ場においても、その後の発生状況を確認し、密度が高ければ直ちに追加防除を行うなど、防除の徹底を図る。
- (3) 薬剤が本種の生息する株元まで十分到達しない場合には、十分な防除効果が得られない恐れがあるので丁寧な散布を行う。
- (4) 飼料用稲においては、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」（平成23年1月）及び「飼料として使用する籾米への農薬の使用について」（平成21年4月20日付け21消安第658号、21生畜第223号関係課長通知、平成23年11月17日一部改正）、「飼料の有害物質の指導基準」（昭和63年10月14日付け63畜B第2050号畜産局長通達、平成24年4月9日一部改正）に沿って、適期防除に努める。

6. その他

- (1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- (2) 6月1日から8月31日は、農薬危害防止運動月間です。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

参考資料

過去のトビイロウンカによる被害状況



写真1. トビイロウンカによる坪枯れ (H17)



写真2. トビイロウンカによる坪枯れ (H17)



写真3. 株元に集中加害するトビイロウンカ (H22)



写真4. トビイロウンカによる坪枯れ (H22)

◎ 注意報第1号（発令月日：平成24年6月20日）

病害虫名 炭疽病
作物名 いちご（親株）

- 1 発生地域 県下全域
- 2 発生時期 育苗期
- 3 発生量 平成18年度以降の7年間で2番目に多い
- 4 注意報の根拠

- 1) 5月中旬から下旬にかけて巡回調査ほ場12か所の親株から小葉を採取し、簡易検定による炭疽病の潜在感染状況調査を実施した結果、感染ほ場率は58.3%（H23：63.7%、H22：60.0%）と過去7年間で3番目に高く、潜在感染株率は17.5%（H23:28.2%、H22：11.0%）と過去7年間で2番目に高かった（図1）。
- 2) 向こう1か月の気温は平年並または高い確率がともに40%、降水量は多い確率50%と予想されており、本病の感染に好適な条件が続くと見込まれる（1か月予報：鹿児島地方気象台6月15日発表）。

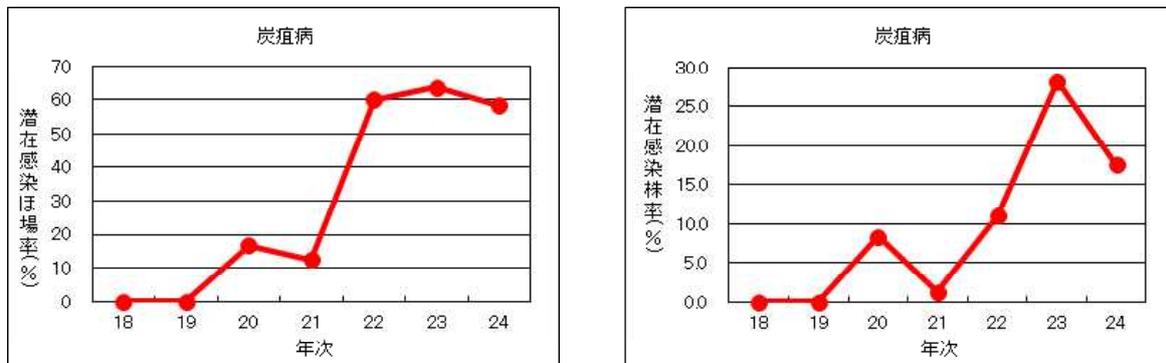


図1 親株床における炭疽病潜在感染状況

5 防除上の注意

- 1) 親株における本病の検定に努め、感染株が確認されれば、感染株に隣接した株も感染の恐れが高いため、あわせて廃棄処分する。
- 2) 検定結果が陰性であった株でも、その後に感染することが十分に考えられるため、育苗ほ場をこまめに見回り、早期発見に努める。
- 3) 感染した株をほ場近くに放置すると、病原菌が拡散する恐れがあるため、速やかに苗床や栽培ほ場からできるだけ離れた場所に埋却する等適切に処分する。
- 4) 降雨、台風の前や摘葉後には薬剤散布を徹底する。なお、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 5) 急激な肥効は発病を助長するので適正な施肥に努める。
- 6) 感染株の発生に備え、予備苗を十分に確保するよう努める。
- 7) 健全な親株の定期的な更新に努める。

6 その他

- 1) 炭疽病の簡易検定方法については、最寄りの西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）にお問い合わせください。
- 2) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総

合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

- 3) 6月1日から8月31日は、農薬危被害防止運動月間です。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努めましょう。

◎ 注意報第2号（発令月日：平成24年6月26日）

病虫害名 炭疽病

作物名 茶

1 発生地域 県下全域

2 発生量 多

3 注意報の根拠

- 1) 6月中旬の巡回調査の結果、発生は場率76.4%（平年27.6%）、1㎡当り病葉数42.7枚（平年1.9枚）はいずれも平年に比べて多である。
- 2) 昨年夏以降本病の発生が多い傾向にあり、感染源となる発病葉が多く残存している。
- 3) 向こう1か月の気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は多い確率40%と予想されており、本病の感染に好適な条件が続くと見込まれる（1か月予報 鹿児島地方気象台6月22日発表）。

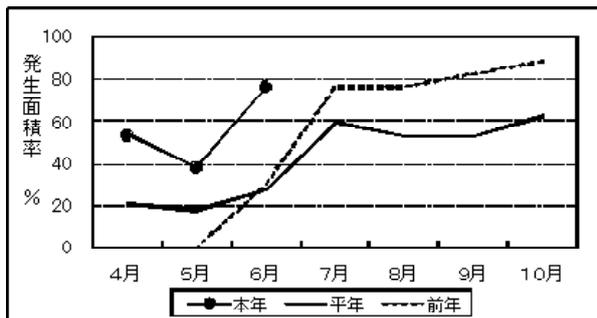


図1 発生面積率の推移

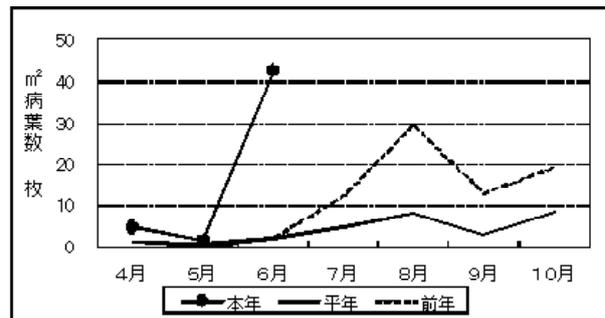


図2 ㎡当り病葉数の推移

4 防除上の注意

- 1) 本病は前茶期の病葉が伝染源となるため、前茶期に発生が多かった茶園では発生が多くなる傾向がある。病原菌は雨によって飛散するため、特に降雨が多いと発生が多くなる。
- 2) 本病は開葉して間もない柔らかい新葉に感染するので、新芽の生育期が薬剤散布の適期である。
- 3) 本病は潜伏期間が約20日であるため、発病葉が見つかったからでは防除は困難である。
- 4) 秋期の発生は秋芽の充実を損ない、次年度一番茶の品質・収量に大きく影響し、伝染源ともなるので、徹底した防除が必要である。秋芽萌芽～1葉期に予防効果のある剤を散布し、その後2～3葉期に治療効果のある剤を散布する。
- 5) 多発状態の続く茶園では整剪枝により伝染源を除去する。
- 6) 品種により、本病への抵抗性に差があるため注意する。

5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場茶業支場、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係

機関に照会してください。

2) 6月1日から8月31日は、農薬危被害防止運動月間です。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努めましょう。

◎ 注意報第3号（発令月日：平成24年8月16日）

病害虫名 トビイロウンカ

作物名 普通期水稻

1. 発生地域 県内全域

2. 発生程度 やや多

3. 発生状況と注意報の根拠

(1) 8月中旬の巡回調査における発生面積率 65.0%（平年 25.5%）は平年より多、株当たり虫数 0.13 頭（平年 0.09 頭）は平年よりやや多である。また、産卵数の多い短翅型雌成虫の株当たり虫数 0.05 頭（平年 0.01 頭）は平年よりも多である。

(2) 発生面積率は過去10年で最も高く、株当たり虫数は平成21年に次いで2番目に多い。また、短翅型雌成虫の株当たり虫数は過去10年間で最も多い。

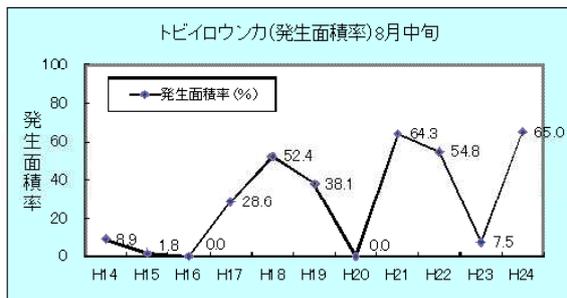


図1.発生面積率の推移

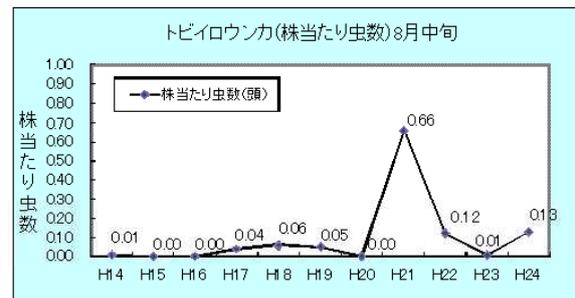


図2.株当たり虫数の推移

(3) 鹿児島地方气象台が8月10日に発表した向こう1ヶ月の気温（8月11日～9月10日）は、平年並または高い確率ともに40%と予想されていることから、今後世代交代が早まり、短期間で増殖するおそれがある。

4. 防除上の注意

(1) トビイロウンカの防除適期は8月第3～5半旬（7月3日飛来・第2世代幼虫期）及び9月第2～5半旬（第3世代幼虫期）と予想される。防除を行う際は地域毎の防除適期内に必ず防除を行う（別紙：県内トビイロウンカの発生世代予測を参照）。

(2) 本虫は株元に生息するので、薬剤が株元に十分到達するように散布する。

(3) トビイロウンカは現在低密度であっても、その後の増殖率が高く、株元を集中して加害し、秋には高密度となって坪枯れを引き起こす。このため、防除を実施しているほ場についても定期的にはほ場全体の発生状況を確認した上で、必要に応じて追加防除を実施する（要防除水準：8月上旬～9月中旬の短翅型雌成虫株当たり0.2頭）。

(4) 飼料用稲においては、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」（平成23年1月）

及び「飼料として使用する粃米への農薬の使用について」（平成21年4月20日付け21消安第658号、21生畜第223号関係課長通知、平成23年11月17日一部改正）、「飼料の有害物質の指導基準」（昭和63年10月14日付け63畜B第2050号畜産局長通達、平成24年4月9日一部改正）に沿って、適期防除に努める。

5. その他

- (1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- (2) 6月1日から8月31日は、農薬危被害防止運動月間です。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努めましょう。

◎ 特殊報第1号（発令月日：平成25年3月7日）

1. 病虫害名：チャトゲコナジラミ *Aleurocanthus camelliae* Kanmiya & Kasai
2. 作物名：ヒサカキ
3. 発生概況

1) 発生確認の経過

平成25年2月、県内のヒサカキの葉に寄生するコナジラミ類幼虫を確認した。採取した幼虫を門司植物防疫所へ同定を依頼したところ、県内で未発生のチャトゲコナジラミ *Aleurocanthus camelliae* Kanmiya & Kasai であることが確認された。

なお、今回幼虫の寄生が確認されたヒサカキは、平成24年11月に本種の既発生県から導入されたヒサカキ苗であり、これらについては、寄生の有無にかかわらず全て抜根し、焼却処分を行った。

また、本種の寄生が確認されたほ場の周辺を調査した結果、近隣のチャへの寄生は確認されなかった。

2) 国内の発生状況

本種は平成16年に京都府のチャで初めて確認されて以来、現在までに25都府県で発生が確認されている。

4. 形態

- 1) 成虫の体長は雌が約1.3mm、雄はそれよりやや小型で、前翅は紫褐色で不整形の白紋がある。体色は橙黄色であるが白粉で覆われているため灰色に見える。
- 2) 孵化幼虫は淡黄色で、2～4齢幼虫は光沢のある黒色の楕円形で周囲は白色のロウ物質で囲まれる。周囲と背面に多数の刺毛がある。4齢幼虫の体長は約1mmである。
- 3) 卵は長さ0.2mm、淡黄色の勾玉状で、基部には短い柄がある。

5 生態と被害

- 1) 卵、1～4齢を経て成虫になる。年間3～4世代を繰り返すが、越冬は主に3齢及び4齢幼虫で行う。
- 2) 幼虫は葉裏に寄生し、孵化直後の幼虫は歩行するが、定着後の幼虫は移動しない。
- 3) 成虫の寿命は約4日と短い。羽化後間もなく交尾し、主に葉裏に産卵する。
- 4) ヒサカキ以外の寄主植物は、チャ、サザンカ、サカキ、シキミ等である。
- 5) 成虫及び幼虫によって葉が吸汁加害されるほか、排泄する甘露によりすす病が発生する。

6 防除対策

1) ヒサカキにおいて本種に対する登録農薬はないため早期発見に努め、発生を認めた場合は布等でこすり落とすか、寄生が下葉であれば寄生葉を除去する。除去した葉は発生源となるため、土中に埋却する等、適切に処分を行う。

2) 本種の既発生県からヒサカキ等、寄主植物の苗を購入する場合は、必ず寄生がないことを確認する。

3) 本種の卵及び若齢幼虫は微小で葉裏に産卵・寄生するため発見が遅れやすい。定期的にはほ場を観察し早期発見に努める。

4) 本種は急速に増殖することが多いため、発生園の近隣にチャ園がある場合は特に注意が必要である。

なお、防除については「チャの侵害虫チャトゲコナジラミの防除マニュアル」を参照のこと。

(<http://www.maff.go.jp/j/syoutan/syokubo/gaicyu/siryoutu2/index.html>)



写真1 成虫



写真2 幼虫

写真提供:京都府農林水産技術センター茶業研究所

◎ 防除情報第1号（発令月日：平成24年5月25日）

1. 作物名 施設野菜（きゅうり、ピーマン、トマト）

2. 病害虫名 コナジラミ類、アザミウマ類、土壌病害虫

3. 発生状況（経過）

1) 4月の巡回調査における冬春きゅうりでのミナミキイロアザミウマの発生状況は、発生面積率が23.1%（平成23年23.1%）で平成24年並、葉当たり虫数が2.8頭（平成23年0.9頭）で平成24年より多となっている。ミナミキイロアザミウマは、キュウリ黄化えそ病の原因ウイルスの媒介虫であり、保毒虫が施設外に拡散すると露地栽培きゅうりやその後続く施設栽培で病気の蔓延を引き起こすことが懸念される。

2) 4月の巡回調査における冬春ピーマンでのミナミキイロアザミウマの発生状況は、発生面積率が57.1%（平成23年56.5%）で平成24年並、10花当虫数が1.3頭（平成23年2.2頭）で平成24年よりやや少となっている。

3) 同4月のタバココナジラミ類の発生状況は、冬春きゅうりの発生面積率が23.1%（平成23年21.9%）、100葉虫数が2.3頭（平成23年11.8頭）で、いずれも平成24年並となっている。また、冬春トマトでは、発生面積率が41.6%（平成23年26.8%）、100葉虫数は8.9頭（平成23年3.8頭）でいずれも平成24年よりやや多である。

4) 今作の巡回調査における冬春トマトでの青枯病の発生状況は、11月調査で発生面積率

が 16.6 % (平年 6.6 %) で平年よりやや多、発病株率が 1.1 % (平年 0.1 %) で平年より多となっている。

- 5) 県内の一部地域で、冬春きゅうりでキュウリ緑斑モザイクウイルス (K G M M V) が確認されている。

4 防除上の注意

1) アザミウマ類、コナジラミ類

- ① 栽培終了時には、施設を密閉し蒸し込みによる害虫の死滅を図り、拡散防止を徹底する。具体的には、栽培終了後、植物及び雑草は株ごと抜き取り、すぐに施設を密閉し、内部の植物が枯死してから 10 日間の蒸し込み期間を確保する。
- ② ほ場周辺やほ場内の雑草は害虫の発生・増殖源となるので、ハウス内外、栽培地周辺の除草を徹底する。(ハウス内の雑草や枯れていない残さは害虫の生き残り場所になるので注意が必要である。)
- ③ 次期作付に当たっては、育苗期から防除 (粒剤施用等含む) を徹底し、本ほハウスには防虫ネットや抑草シート、光反射資材を設置し、害虫の苗からの持ち込みや外からの飛び込みを防止する。

2) 土壌病害虫

- ① 土壌病害虫の対策としては、作物残さを施設外に持ち出し、土中深くへの埋設や嫌気発酵処理等で適切に処分するとともに、施設内で使用した資材・農機具等についても消毒を行うなど、徹底して病原菌や線虫など土壌病害虫の密度を減らすことが重要である。
- ② 改良陽熱消毒等の土壌消毒を徹底するとともに、次期作付けに当たっては、健全種子及び苗を確保するとともに土作りを十分に行い、適正な栽培管理に努める。また、秋口の高温により発病が助長される土壌病害もあることから、極端な早植えは避ける。

6 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局 (農業改良普及センター)、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 6 月 1 日から 8 月 31 日は、農薬危被害防止運動月間です。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努めましょう。

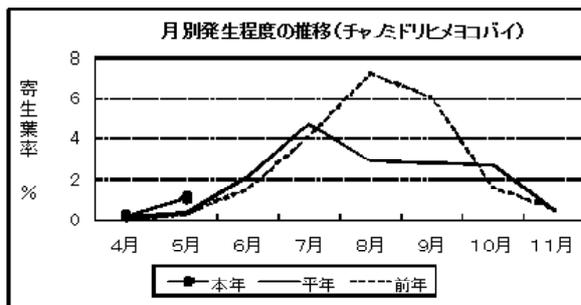
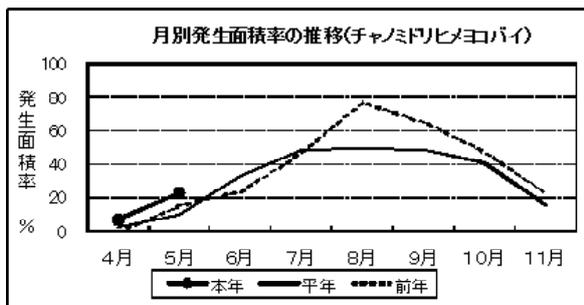
◎ 防除情報第 2 号 (発令月日 : 平成 2 4 年 5 月 2 5 日)

1 作物名 茶

2 病害虫名 チャノミドリヒメヨコバイ

3 発生状況 (経過)

- 1) 5 月中旬の巡回調査の結果、チャノミドリヒメヨコバイの発生面積率は 2 3 . 1 % (平年 1 0 . 4 %) で平年に比べてやや多、寄生葉率は 1 . 1 % (平年 0 . 3 %) で平年に比べて多である。



4 防除上の注意

- 1) 新芽生育期に加害されると減収、品質低下が著しいため、萌芽期から開葉初期に薬剤散布を行う。
- 2) 幼木園や中切り更新を行った園では常時新芽が存在し、長期にわたり被害を受けやすいので注意する。

5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場茶業支場、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 6月1日から8月31日は、農薬危被害防止運動月間です。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第3号（発令月日：平成24年6月12日）

1. 作物名 早期水稲
2. 病害虫名 斑点米カメムシ類
3. 発生状況

- (1) 6月上旬の水田周辺におけるイタリアンライグラス等飼料作物ほ場での生息密度（20回振りすくい取り）は、県全体平均 54.6 頭（平年 41.6 頭、前年 29.3 頭）で、平年比やや多である。（表－1、図－1、2 参照）
- (2) 種別では、地域間差やほ場間差がやや目立つものの、ミナミアオカメムシを除く4種の生息密度が平年よりも高く、特にアカスジカスミカメムシの生息密度が高くなっている。

表－1 飼料作物ほ場等における斑点米カメムシ類の種別平均頭数（20回振り）

	ミナミアオカメムシ	クモヘリカメムシ	ホリハラカメムシ	シラホシカメムシ類	アカスジカスミカメ	全種合計
H24	0.9	8.9	2.9	1.1	40.8	54.6
平年値	1.4	8.0	2.7	0.7	28.8	41.6

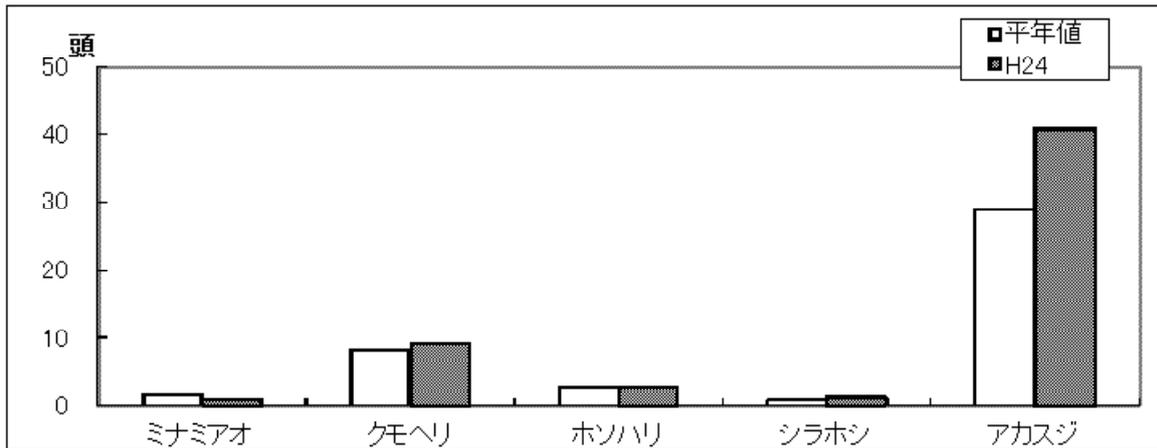


図-1 種別平均頭数 (6月上旬、20回振りすくい取り)

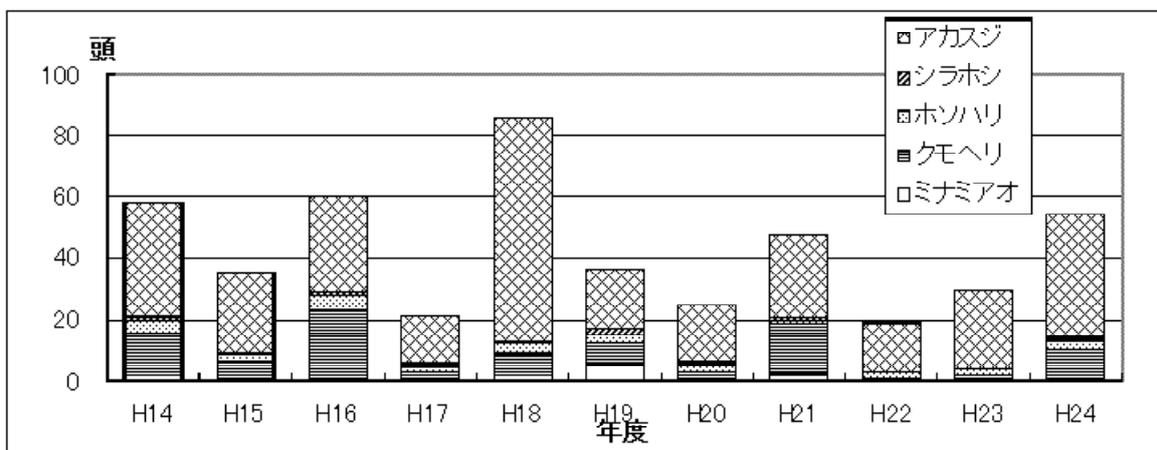


図-2 年度別種別平均頭数 (20回振りすくい取り)

4. 防除上の注意

- (1) 本虫による被害は品質を著しく低下させ、等級格下げの重要な要因になるので、穂揃期とその7～10日後の2回防除を徹底する。その後も発生が見られる場合には、さらに追加防除が必要である。防除薬剤は穂いもちとの同時防除剤の使用が効率的である。
- (2) 広域の集団一斉防除に努め、防除効率を高める。
- (3) 地域内の出穂の早い水田や特に遅い水田には集中的に飛来する恐れがあるので注意する。
- (4) 周辺雑草から本田への本虫の侵入を防止するため、周辺雑草の草刈りはイネが出穂する10日位前までに数回行う。

5. その他

- (1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- (2) 6月1日から8月31日は、農薬危被害防止運動月間です。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第4号（発令月日：平成24年6月22日）

1. 作物名 早期水稲
2. 病害虫名 いもち病（穂いもち）
3. 発生状況

- (1) 6月中旬の巡回調査における葉いもちの発生面積率は12.5%（平年20.0%）、発病度は0.47（平年1.54）で、いずれも平年並である（表-1）。
- (2) アメダスデータを利用したいもち病発生予測システム（BLASTAM）によると6月に入って県内各地で感染好適日が出現しており、今後の発生の拡大が予想される。
- (3) 向こう1ヶ月の天候は、前半は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年並または高い確率がともに40%と予想されている（鹿児島地方気象台6月22日発表1ヶ月予報）ことから、病徴の進展に好適であり注意が必要である。

表-1 6月中旬の葉いもち発生状況

調査区分	地点数	程度別発生面積率（%）			発生面積率（%）	発病度	
		甚	多	中少			
全県	32	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5 (20.0)	0.47 (1.54)

※（ ）内は平年値

4. 防除上の注意

- (1) 穂いもちを対象に、穂ばらみ後期と穂揃期の防除を徹底する。
- (2) 本田で粒剤処理をしても、葉いもちの発生が多く、上位葉に進展している場合や、出穂期及びその後も降雨が続いて穂いもちの発生が予想される場合には、穂揃期の7～10日後に追加防除を行う。
- (3) 雨の多い時は雨間散布を行い、防除適期を失しないようにする。
- (4) 無人ヘリ防除が行われない地域は広域の集団一斉防除に努め、防除効率を高める。
- (5) 穂肥の施用に当たっては、イネの生育状況や今後の気象の推移を考慮して適切に行う。

5. その他

- (1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- (2) 6月1日から8月31日は、農薬危被害防止運動月間です。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第5号（発令月日：平成24年6月22日）

1. 作物名 普通期水稲
2. 病害虫名 いもち病（葉いもち）
3. 発生状況

- (1) 県内の育苗床において苗いもちの発生がやや多くなっており、本田への持ち込みが確認されていることから、いもち病の発生の拡大が懸念される。

- (2) 6月中旬の巡回調査における葉いもちの発生面積率は5.0%（平年1.1%）、発病度は0.09（平年0.04）で、いずれも平年に比べやや多である（表-1）。
- (3) アメダスデータを利用したいもち病発生予測システム（BLASTAM）によると、6月に入って県内各地で感染好適日が複数回出現しており、今後も発生の拡大が予想される。
- (4) 向こう1ヶ月の天候は、前半は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年並または高い確率がともに40%と予想されている（鹿児島地方気象台6月22日発表1ヶ月予報）ことから、病徴の進展に好適であり注意が必要である。

表-1 6月中旬の葉いもち発生状況

調 査 区 分	地 点 数	程度別発生面積率 (%)				発生面積率 (%)	発病度
		甚	多	中	少		
全 県	40	0.0	0.0	0.0	5.0	5.0 (1.1)	0.09(0.04)

※()内は平年値

4. 防除上の注意

- (1) 育苗期の発生に注意し、本田への持ち込みを防止する。
- (2) 育苗箱施薬は、予防的効果が高く、本田での第一次伝染と生育初期の蔓延を防止するので必ず実施する。
- (3) 補植用の置き苗は本田での伝染源となるので、補植が終わったらただちに処分し、ほ場に放置しない。
- (4) 移植時に育苗箱施薬をしていないほ場では、葉いもちの早期発見に努め、初期防除を徹底する。育苗箱施薬を行ったほ場でも、薬効が切れた後に葉いもちの発生が多くなる場合があるので注意し、分けつ期までに発生がみられる場合には早めの追加防除を行う。
- (5) 雨の多い時は雨間散布を行い、防除適期を失しないようにする。

5. その他

- (1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- (2) 6月1日から8月31日は、農薬危被害防止運動月間です。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第6号（発令月日：平成24年7月5日）

- 1 作物名 園芸作物全般
- 2 病虫害名 ワタアブラムシ
- 3 内 容

本年4月以降、きゅうり、ピーマンのワタアブラムシについて、防除効果の低下が疑われるとの報告があったことから、総合農業試験場生物環境部及び病虫害防除・肥料検査センターでネオニコチノイド系薬剤7剤について薬剤感受性検定を実施した結果、イミダクロプリド水和剤、ニテンピラム水溶剤、ジノテフラン水溶剤、クロチアニジン水溶剤、チアメトキサム水溶剤の5薬剤において感受性の低下が確認された。

表1 ワタアブラムシ検定結果

供試薬剤名	補正死虫率 (%)			
	宮崎市	串間市	都城市	感受性個体群
	(きゅうり)	(きゅうり)	(ピーマン)	(きゅうり)
1 イミダクロプリド水和剤	45.5	26.7	65.5	100.0
2 ニテンピラム水溶剤	13.6	22.4	20.7	100.0
3 ジノテフラン水溶剤	27.3	6.7	3.4	96.4
4 クロチアニジン水溶剤	27.3	23.3	34.5	100.0
5 チアメトキサム水溶剤	27.3	26.2	13.8	92.9
6 アセタミプリド水溶剤	100.0	96.7	86.2	100.0
7 チアクロプリド水和剤	100.0	90.2	100.0	96.4

- 1) 検定は幼苗検定法（熊本県、2000）に準じて行い、ワタアブラムシ無翅成虫（10頭×3反復）の72時間後の補正死虫率を算出した。
- 2) 供試薬剤の希釈倍率は表2のとおり。

表2 供試薬剤

	成分名	商品名	成分含有量	希釈倍率
1	イミダクロプリド水和剤	アドマイヤ-水和剤	10.0 %	2,000
2	ニテンピラム水溶剤	ベストガード水溶剤	10.0 %	2,000
3	ジノテフラン水溶剤	スタークル顆粒水溶剤	20.0 %	2,000
4	クロチアニジン水溶剤	ダントツ水溶剤	16.0 %	2,000
5	チアメトキサム水溶剤	アクタラ顆粒水溶剤	10.0 %	3,000
6	アセタミプリド水溶剤	モスピラン顆粒水溶剤	20.0 %	2,000
7	チアクロプリド水和剤	バリアード顆粒水和剤	30.0 %	2,000

4 防除上の注意

- 1) 県内各地で薬剤感受性が低下したワタアブラムシが確認されたことから、薬剤散布後には防除効果の確認を十分に行い、地域・ほ場ごとに適切な薬剤の選定を行う。
- 2) 効果の高い薬剤も連用による感受性の低下が懸念されるため、連用を避け、系統の異なる薬剤のローテーション散布に努める。
- 3) ほ場内をこまめに見回り、早期発見に努め速やかに防除を実施する。
- 4) 作期全体の防除体系の検討を行い、微生物農薬や気門封鎖型薬剤等を使用するなど、効果の高い薬剤の温存に努める。
- 5) ワタアブラムシは多くの植物に寄生するため、きゅうり・ピーマン以外の野菜や花き類等、園芸作物全般で注意が必要である。

5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 6月1日から8月31日は、農薬危被害防止運動月間です。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第7号（発令月日：平成24年7月10日）

1. 作物名 普通期水稻
2. 病害虫名 トビイロウンカ、セジロウンカ
3. 発生状況

県内4か所（延岡市、宮崎市、国富町、都城市）に設置した予察灯のうち、都城市で6月27日にトビイロウンカの雄成虫1頭の誘殺が確認された。その後も断続的に誘殺され、7月3日には都城市で雄8頭、雌9頭が誘殺された。

セジロウンカの都城市における7月第1半旬の誘殺数は4524頭と多く、特に7月3日には4310頭の誘殺を確認した（半旬別の飛来状況については別表を参照）。

4. 防除上の注意

（1）トビイロウンカ

ア 7月3日に飛来したトビイロウンカの第1世代（飛来次世代）幼虫の防除適期は7月4～5半旬、第2世代幼虫の防除適期は8月3～4半旬と予想されるので、発生状況を確認して防除を行う（別紙：トビイロウンカの発生世代予測を参照）。

イ 本虫は株元に生息し、低密度であっても、その後の増殖率が高く坪枯れを引き起こすので、薬剤は株元に十分到達するよう散布する。

ウ 箱施薬剤を使用しているほ場でも、薬剤によっては効果が劣る場合があるので発生に十分注意する。

（2）セジロウンカ

ア 箱施薬剤を使用しているほ場でも、薬剤によっては効果が劣る場合があるので発生に十分注意するとともに、トビイロウンカと併せて防除を行う。

イ 株当たり虫数が4頭以上になると稲の生育が抑制されるが、都城市の巡回ほ場では定植間もない株でも、株当たり2～3頭の成虫が確認されたので注意が必要である。

ウ 飼料用稲（インディカ種）においては、本虫に対する抵抗性が低く坪枯れ等が発生する恐れがあるので、発生状況に十分注意する。

5. その他

（1）その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

（2）6月1日から8月31日は、農薬危被害防止運動月間です。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第8号（発令月日：平成24年8月3日）

1. 作物名 普通期水稻
2. 病害虫名 トビイロウンカ、セジロウンカ
3. 発生状況

県内4か所（延岡市、宮崎市、国富町、都城市）に設置した予察灯のうち、都城市で6月27日にトビイロウンカの雄成虫1頭の誘殺が確認された。その後も断続的に誘殺され、7月3日には都城市で雄8頭、雌9頭が誘殺された。

セジロウンカの都城市における7月第1半旬の誘殺数は4524頭と多く、特に7月3日には4310頭の誘殺を確認した（半旬別の飛来状況については別表を参照）。

4. 防除上の注意

(1) トビイロウンカ

ア 7月3日に飛来したトビイロウンカの第1世代（飛来次世代）幼虫の防除適期は7月4～5半旬、第2世代幼虫の防除適期は8月3～4半旬と予想されるので、発生状況を確認して防除を行う（別紙：トビイロウンカの発生世代予測を参照）。

イ 本虫は株元に生息し、低密度であっても、その後の増殖率が高く坪枯れを引き起こすので、薬剤は株元に十分到達するよう散布する。

ウ 箱施薬剤を使用しているほ場でも、薬剤によっては効果が劣る場合があるので発生に十分注意する。

(2) セジロウンカ

ア 箱施薬剤を使用しているほ場でも、薬剤によっては効果が劣る場合があるので発生に十分注意するとともに、トビイロウンカと併せて防除を行う。

イ 株当たり虫数が4頭以上になると稲の生育が抑制されるが、都城市の巡回ほ場では定植間もない株でも、株当たり2～3頭の成虫が確認されたので注意が必要である。

ウ 飼料用稲（インディカ種）においては、本虫に対する抵抗性が低く坪枯れ等が発生する恐れがあるので、発生状況に十分注意する。

5. その他

(1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

(2) 6月1日から8月31日は、農薬危被害防止運動月間です。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努めましょう。

(別紙1)



写真1. セジロウンカにより黄変した飼料用稲ほ場



写真2. セジロウンカにより坪枯れした飼料用稲ほ場



写真3、4. 飼料用稲の茎葉に群がるセジロウカ

© 防除情報第9号（発令月日：平成24年10月12日）

1. 作物名 果樹全般

2. 病害虫名 果樹カメムシ（ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ）

3. 発生状況

(1) ツヤアオカメムシ

県内5か所に設置している予察灯のツヤアオカメムシの誘殺数はおおむね平年並で推移しているが、県内3か所に設置しているカメムシ類フェロモントラップへの誘殺数が9月下旬頃から急増している。特に10月第1半旬には都農町①で25頭（平年13.6頭）、都農町②で143頭（平年76.2頭）誘殺された（図1）。

(2) チャバネアオカメムシ

チャバネアオカメムシの誘殺数は、予察灯で平年並、フェロモントラップでは平年並からやや少ない状況で推移している（図2）。

(3) 一部の園でカメムシ類の飛来が確認されている。

(4) 全国的に果樹カメムシの発生が多く、10月12日現在で36都府県が注意報を発表している（九州では福岡県、大分県及び鹿児島県）。

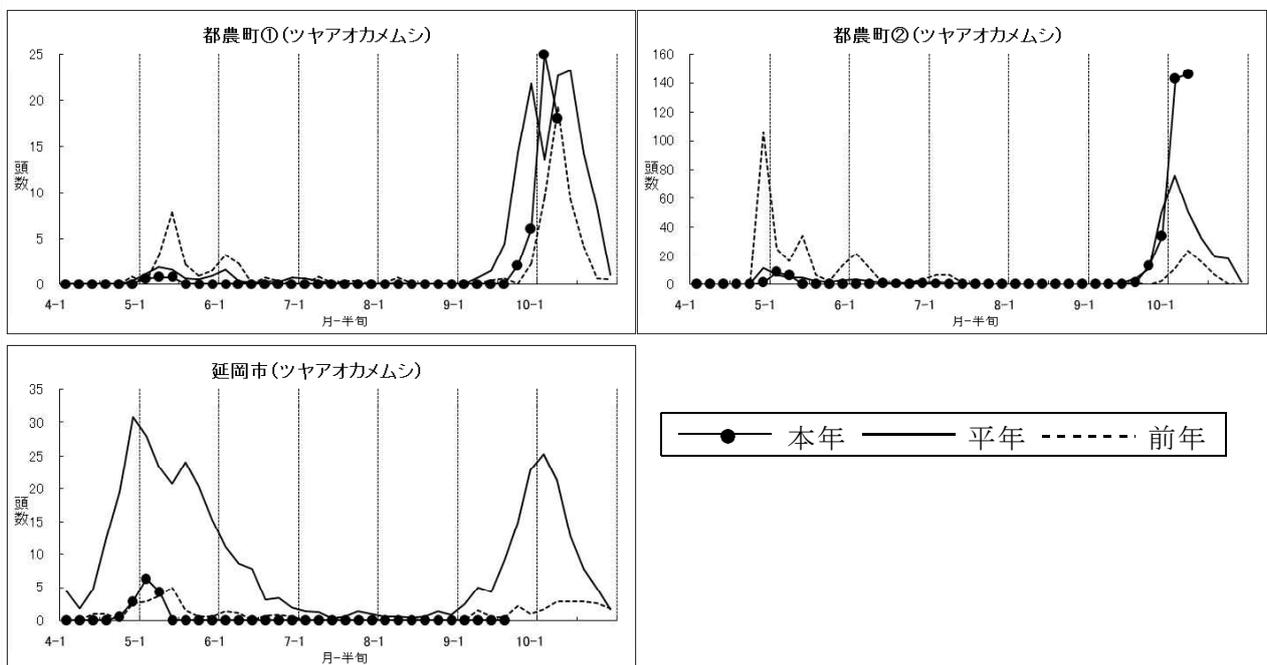
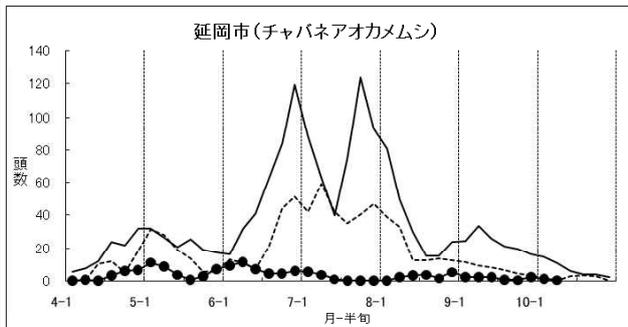
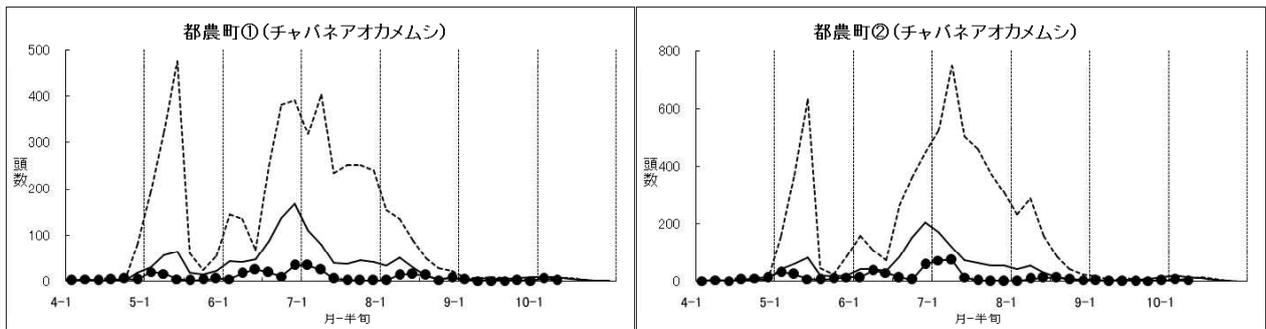


図1 フェロモントラップにおけるツヤアオカメムシ誘殺状況



● 本年 — 平年 - - - - 前年

4. 防除上の注意

- (1) 飛来時期や飛来量は園地によって異なるため、園内外の見回りを徹底し、飛来が見られたら直ちに防除を実施する。
- (2) 果樹園に侵入したカメムシは集合フェロモンで同種を大量に誘引し被害を及ぼすおそれがあるので十分注意する。
- (3) 飛来初期には残効の長い合成ピレスロイド系薬剤やネオニコチノイド系薬剤で防除を行うと効果的である。合成ピレスロイド系薬剤は多用すると天敵等を殺虫し、ハダニ類等の発生を助長するため連用を避け、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行う。
- (4) 収穫中もしくは収穫時期が近い品目については、農薬の使用回数や収穫前日数に注意し防除を行う。
- (5) 台風通過後は果樹園への飛来が急に増加することがあるので特に注意する。

5. その他

- (1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- (2) 農薬の使用については、ラベルの表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守する等厳重な注意を払うとともに危害防止に努める。また、周辺作物の栽培状況等に留意し、地域全体で農薬のドリフト防止に努める。

◎ 防除情報第10号（発令月日：平成24年11月27日）

1. 作物名 ピーマン
2. 病害虫名 アザミウマ類（ヒラズハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ）
3. 発生状況

1) ヒラズハナアザミウマ

(1) 11月中旬の巡回調査における発生状況は、発生面積率が84.7%（平年30.1%）、10花当たり寄生頭数が13.5頭（平年2.3頭）でいずれも平年より多となっている。

(2) 発生量の推移としては、発生面積率、10花当たり寄生頭数ともに10月から11月にかけて急激に拡大・増加している(図1、2)。

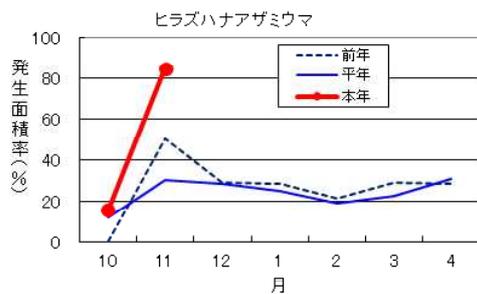


図1 ヒラズハナアザミウマの発生面積率の推移

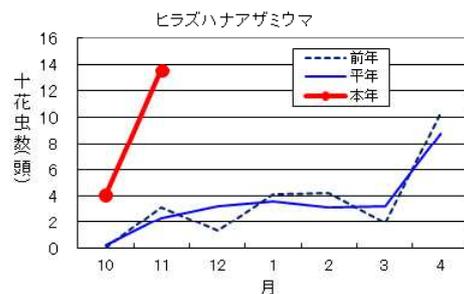


図2 ヒラズハナアザミウマの寄生状況の推移

2) ミナミキイロアザミウマ

(1) 11月中旬の巡回調査における発生状況は、発生面積率が69.2%(平年51.2%)で平年よりやや多、10花当たり寄生頭数が2.3頭(平年2.5頭)で平年並、50芯当たり寄生頭数が11.3頭(H23 3.4頭、H24 11.8頭)で9年間で3番目に多い発生となっている。

(2) 発生量の推移としては、発生面積率、10花当たり寄生頭数ともヒラズハナアザミウマと同様に10月から11月にかけて急激に拡大・増加している(図3、4)。

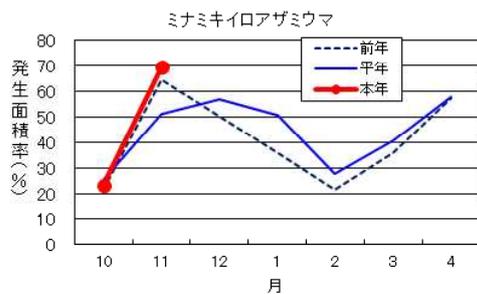


図3 ミナミキイロアザミウマの発生面積率の推移

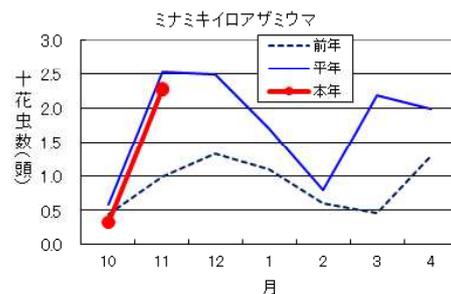


図4 ミナミキイロアザミウマの寄生状況の推移

4. 防除上の注意

1) 多発生後の防除は困難となるので、下記のポイントに留意し、総合的な防除を行う。

- ① ヒラズハナアザミウマは花に、ミナミキイロアザミウマは花や生長点付近に生息し、いずれも青色粘着トラップ等に誘引されるので、粘着トラップ等を設置し密度低下に活用するとともに早期発見の目安とする。
- ② いずれのアザミウマも繁殖力がきわめて旺盛で、多発生時には卵～成虫まで各ステージが混在し、防除が著しく困難となるので、発見次第早期防除を徹底する。密度増加時には、薬剤散布後に発生(孵化、羽化)する幼虫・成虫に対しての追い打ち防除のため、最少でも7日間隔で3回の連続防除を実施する。
- ③ アザミウマの種類により効果のある薬剤が異なるため、ほ場内に発生するアザミウマの種類を確認し、効果のある薬剤を選定する。
- ④ ヒラズハナアザミウマは花を中心に生息するので、花の少ない時期に薬剤をすべての花に散布すると防除効果が高い。
- ⑤ 抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努めるとともに、天敵等による生物的防除を組み入れるなど総合的な対策をとることが必要である。
- ⑥ 天敵等を利用しているほ場では、天敵に影響の少ない薬剤を選定することが望ましい。

発生が少ない時期には IGR 剤などが天敵に影響が少なく効果的であるが、他の薬剤に比べ効果発現に時間を要するため、防除後一定期間は経過観察をし、効果を確認する。

- ⑦ アザミウマ類に効果の高い薬剤（ヒラズハナアザミウマではスピノサドなど）は天敵に対して影響が大きいのが、激発しているほ場では天敵による防除効果には限界があるので、必要に応じて防除効果の高い薬剤を散布する。
- ⑧ 被害の激しい茎葉・果実のハウス外への持ち出し、マルチの導入（本虫の土中や地表面での蛹化を防止）により密度低下をはかる。

5. その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

◎ 防除情報第 11 号（発令月日：平成 24 年 12 月 26 日）

- 1 病害虫名 灰色かび病
- 2 作物名 トマト
- 3 発生状況

12 月中旬の巡回調査では発生未確認であったが、近年、12 月から 3 月にかけて灰色かび病の発生が多くなっている（図 1～4）ことから、今後の発生に注意が必要である。

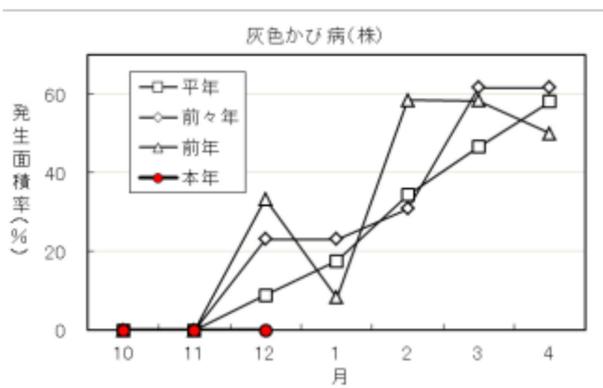


図 1 茎葉での発生面積率の推移

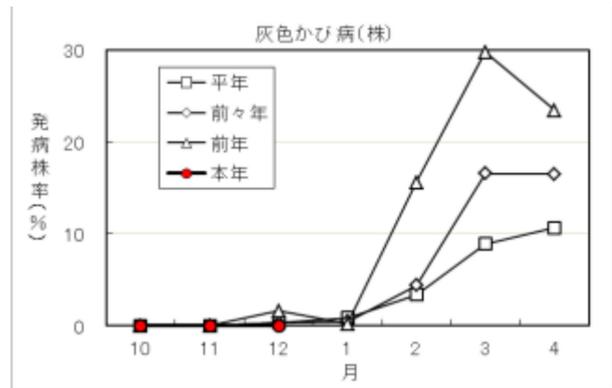


図 2 発病株率の推移

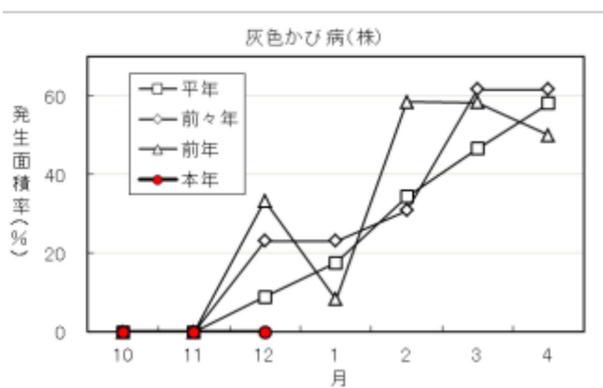


図 3 果実での発生面積率の推移

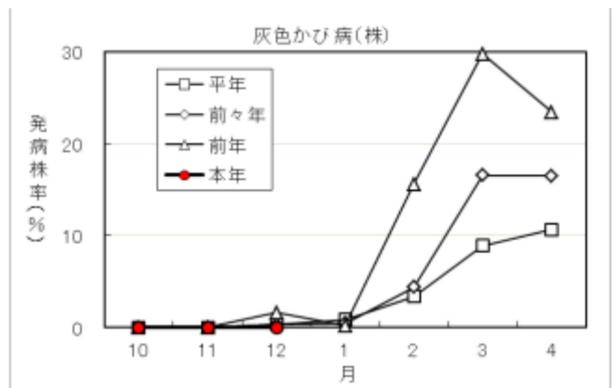


図 4 発病果率の推移

4 防除上の注意

- 1) 灰色かび病菌の侵入及び発病は最適温度が 15～23℃と比較的低温で、多湿条件で多くなることから、ハウス内の温度および湿度管理に注意する。
- 2) 雨の日など最低夜温が高く、暖房機の稼働時間が短い日などは、果実等が結露しやすく

なるので、送風機を作動させるなどの管理を行う。

- 3) カリウム欠乏による葉先枯れは、本病の発生源となりやすい。また、窒素過多等で軟弱徒長気味になると本病の発生が助長されることから、適切な肥培管理に努める。
- 4) 発病した果実や花卉、茎葉等は本病の発生源となり、以後の発生が助長されるため、こまめに取り除いては場外に持ち出し、適切に処分する。
- 5) 果実では、かびが発生しなくても、果実表面に黄白色の小斑点（ゴーストスポット）が生じることがあり、商品価値を著しく落とすので注意が必要である。
- 6) 病勢が進行すると防除が困難となるため、早期発見・早期防除に努める。
- 7) 微生物農薬の効果は保護的な予防効果が主体であるので、発生後は速やかに化学農薬等による防除を行う。
- 8) 薬剤耐性菌を生じる恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第12号（発令月日：平成25年1月18日）

- 1 作物名 施設きゅうり
- 2 病虫害名 アザミウマ類、コナジラミ類
- 3 発生状況（経過）

1) 平成24年12月の巡回調査におけるミナミキイロアザミウマの発生状況は、発生面積率が25.0%（平成23年27.9%）で平成23年並、100葉当たり虫数が1.4頭（平成23年6.0頭）で平成23年よりやや少となっている。

2) ミナミキイロアザミウマは、キュウリ黄化えそ病の原因ウイルスの媒介虫であり、巡回調査における黄化えそ病の発生状況は、発生面積率が5.0%（平成23年10.0%、平成22年0.0%）、発病株率が0.0%（平成23年0.3%、平成22年0.0%）で、平成23年より少ないものの平成22年より多くなっている。

3) コナジラミ類の発生状況は、発生面積率が15.0%（平成23年32.1%）、100葉当たり虫数が0.5頭（平成23年3.6頭）で、いずれも平成23年よりやや少である。

4) タバココナジラミは、キュウリ退緑黄化病の原因ウイルスの媒介虫であり、巡回調査における退緑黄化病の発生状況は、発生面積率が15.0%（平成23年15.0%、平成22年30.0%）で、平成23年と同程度、発病株数が0.6%（平成23年2.2%、平成22年0.5%）で、平成22年と同程度となっている。

5) ウイルスの保毒虫が少しでも施設内に残っていると、次期作付のきゅうりでウイルス病が発生することが懸念される。

4 防除上の注意

1) 栽培終了時の注意点

- ① ウイルス保毒虫が拡散しないように栽培終了時には防除と蒸し込みを必ず行う。
- ② 防除にあたっては、アザミウマ類やコナジラミ類の密度が高い場合は卵～成虫までの各ステージが混在し、1回の薬剤散布では防除が困難であるので、7日間隔で3回の連続防除を実施する等、施設内の害虫根絶に努める。
- ③ 防除後に植物及び雑草を株ごと抜き取り、すぐに施設を密閉する。内部の植物が枯死して

から 20 日間以上の蒸し込みを行い、薬剤散布後に生き残っている害虫を完全に死滅させる。特に冬期は施設内の温度が上がりにくいいため、蒸し込み期間は十分にとる必要がある。

④ 蒸し込み期間中は施設内に有色粘着板を設置し、成虫を捕殺する。

2) 次作定植時の注意点

① 次期作付に当たっては、育苗期から防除（粒剤施用等含む）を徹底し、害虫の苗からの持ち込みを防止する。

② 購入苗を使用する場合は、苗の購入時に、病虫害の発生状況を十分確認する。特にミナミキイロアザミウマが寄生していたり被害痕が多い苗は定植を避けるとともに、ウイルス病の発生が疑われるときは直ちに株を廃棄する。また、農薬の散布履歴を確認し、育苗期に粒剤の使用がない場合は直ちに施用する。

③ 前作に褐斑病などの発生があった場合には特に注意し、定植後直ちに予防散布し感染を防ぐ。

◎ 防除情報第 13 号（発令月日：平成 25 年 1 月 25 日）

1 作物名 施設野菜全般

2 病虫害名 アブラムシ類（主にワタアブラムシ）

3 発生状況（経過）

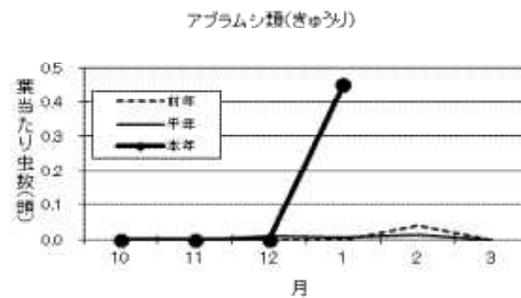
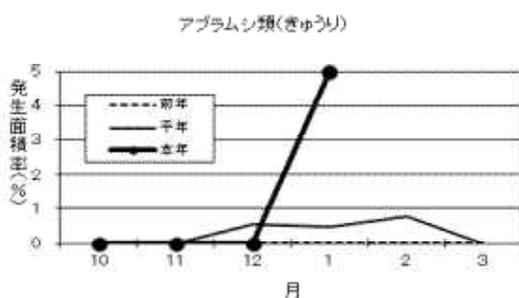
1) 1 月の巡回調査における冬春きゅうりでの発生状況は、発生面積率が 5.0 %（平年 0.5 %）、葉当たり虫数が 0.5 頭（平年 0.01 頭）で、いずれも平年より多である。

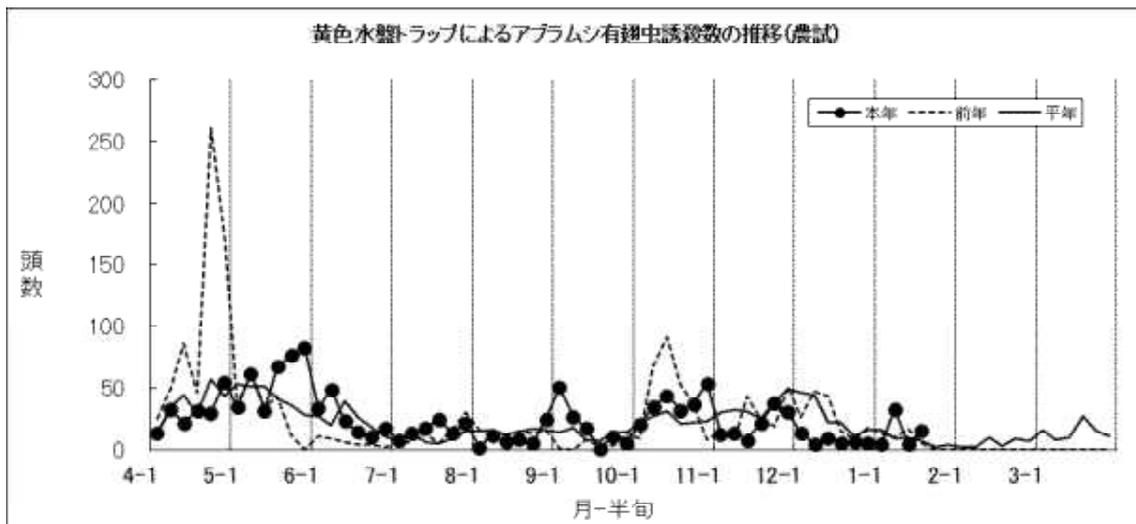
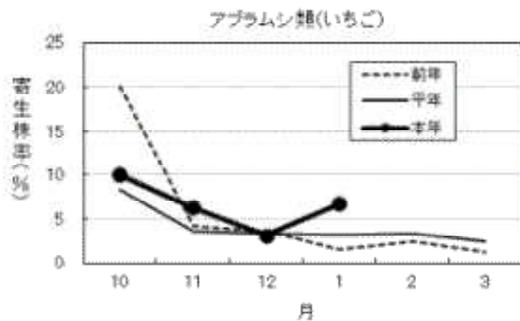
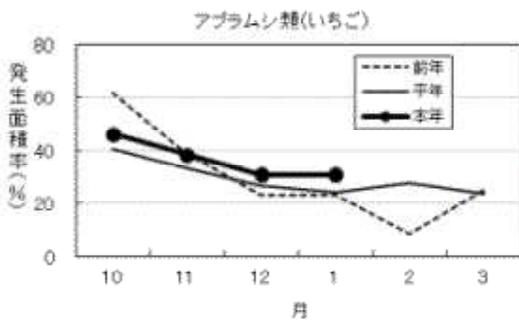
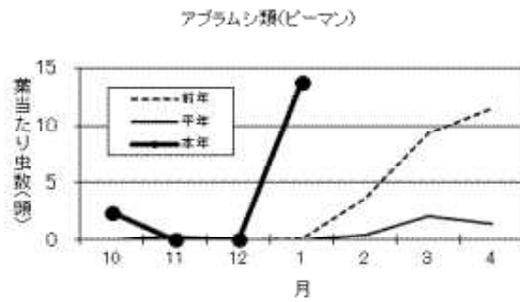
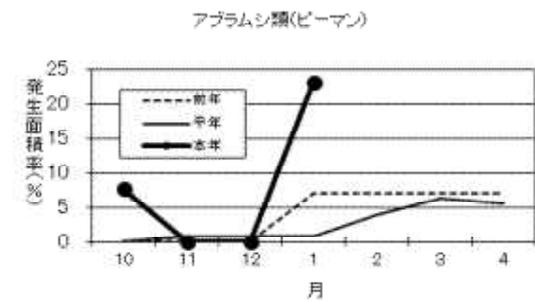
2) 冬春ピーマンでの発生状況は、発生面積率が 23.1 %（平年 0.7 %）、50 芯当たり虫数が 13.8 頭（平年 0.01 頭）で、いずれも平年より多である。

3) 冬春いちごでの発生状況は、発生面積率が 30.8 %（平年 24.3 %）で平年並、寄生株率が 6.8 %（平年 3.2 %）で平年より多である。

4) 宮崎市佐土原町に設置した黄色水盤では、1 月第 2 半旬に 33 頭（平年 9.7 頭）の誘殺が確認されている。

5) アブラムシ類は植物体への直接的な被害やスス病発生の要因になるとともに、各種ウイルス病の媒介により更に被害を拡大させるため、適切な対応が必要である。





◎ 防除情報第14号（発令月日：平成25年1月25日）

1. 作物名 園芸作物全般
 2. 病害虫名 ワタアブラムシ
 3. 内 容

1) 県内のきゅうり及びピーマンから採取したワタアブラムシの薬剤感受性検定を実施した結果、一部のネオニコチノイド系薬剤において感受性の低下が確認された。（平成24年7月15日付け病害虫防除情報第6号）

さらに、総合農業試験場生物環境部及び病害虫防除・肥料検査センターで、新たに日南市の2個体群を用い、ネオニコチノイド系薬剤7剤について薬剤感受性検定を実施した結果、同様に感受性の低下が確認された。（表1）

2) 最も感受性の低かったきゅうり系統Ⅱ個体群を用い、ネオニコチノイド系以外の各種系統18薬剤に対する薬剤感受性検定を実施した結果、11薬剤で補正死虫率が100%と高い感受性を示した。（表3）

表1 県内各地から採取したワタアブラムシの感受性検定結果

供試薬剤名	補正死虫率（%）					
	きゅうり	きゅうり	ピーマン	ピーマン	ピーマン	対 照
	系統Ⅰ (宮崎市)	系統Ⅱ (串間市)	系統Ⅰ (都城市)	系統Ⅱ (日南市)	系統Ⅲ (日南市)	個体群 (総合農試)
1 アドマイヤー水和剤	45.5	26.7	65.5	43.3	57.1	100.0
2 ベストガード水溶剤	13.6	22.4	20.7	6.7	32.1	100.0
3 スタークル顆粒水溶剤	27.3	6.7	3.4	0.0	0.0	96.4
4 ダントツ水溶剤	27.3	23.3	34.5	20.0	35.7	100.0
5 アクタラ顆粒水溶剤	27.3	26.2	13.8	42.3	12.0	96.4
6 モスピラン水溶剤	100.0	96.7	86.2	100.0	100.0	100.0
7 バリアード顆粒水和剤	100.0	90.2	100.0	92.3	100.0	100.0

1) 検定は幼苗検定法（熊本県、2000）に準じて行い、ワタアブラムシ無翅成虫（10頭×3反復）の72時間後の補正死虫率を算出した。

2) 供試薬剤の希釈倍率は表3のとおり。

3) 斜字体は防除情報第6号で発表。対照個体群は、総合農試で2008年に採取し累代飼育した個体群。

表2 表1に示した供試薬剤の希釈倍数

	商 品 名	成 分 名	成分含有量	希釈倍率
1	アドマイヤー-水和剤	イミダクロプリド水和剤	10.0%	2,000
2	ベストガード水溶剤	ニテンピラム水溶剤	10.0%	2,000
3	スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	20.0%	2,000
4	ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	16.0%	2,000
5	アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム水溶剤	10.0%	3,000
6	モスピラン水溶剤	アセタミプリド水溶剤	20.0%	2,000
7	バリアード顆粒水和剤	チアクロプリド水和剤	30.0%	2,000

表3 きゅうり系統Ⅱ 個体群ワタアブラムシに対する各種薬剤の検定結果

供試薬剤名	補正死虫率 (%)		(参考) アブラムシ類での農薬登録のある 主な施設野菜
	きゅうり系統Ⅱ (きゅうり)	対照個体群 (きゅうり)	
1 トレボン乳剤	69.8	89.7	きゅうり、ピーマン、なす、メロン、すいか、トマト
2 アディオン乳剤	77.4	100.0	きゅうり、ピーマン、いちご、なす、メロン、すいか、トマト、ミニトマト
3 アグロスリン乳剤	66.0	96.6	きゅうり、ピーマン、いちご、なす、メロン、すいか、トマト
4 ロディー乳剤	100.0	79.3	きゅうり、ピーマン、いちご、なす、メロン、すいか、トマト
5 テルスターフロアブル	100.0	100.0	きゅうり、なす
6 アーデント水和剤	100.0	100.0	きゅうり、ピーマン、いちご、なす、メロン、すいか
7 スカウトフロアブル	88.7	100.0	きゅうり、なす、メロン、すいか
8 サイハロン乳剤	89.3	100.0	きゅうり、なす、メロン、すいか、トマト、ミニトマト
9 スミチオン乳剤	88.7	100.0	きゅうり、なす、メロン、すいか、トマト、ミニトマト
10 アクテリック乳剤	100.0	100.0	なす
11 オルトラン水和剤	100.0	96.4	なす、トマト、ミニトマト
12 ダイアジノン乳剤 40	100.0	100.0	きゅうり、メロン、すいか、トマト
13 オリオン水和剤 40	100.0	100.0	メロン、すいか
14 ピラニカ EW	35.8	89.3	きゅうり、いちご
15 ハチハチ乳剤	100.0	100.0	きゅうり、なす、すいか、トマト、ミニトマト
16 チェス顆粒水和剤	100.0	96.6	きゅうり、ピーマン、いちご、なす、メロン、すいか、トマト、ミニトマト
17 コルト顆粒水和剤	100.0	100.0	きゅうり、ピーマン、いちご、なす、トマト、ミニトマト
18 ウララ DF	100.0	89.7	きゅうり、いちご、なす、メロン、すいか、トマト、ミニトマト

- 1) 検定は幼苗検定法（熊本県、2000）に準じて行い、ワタアブラムシ無翅成虫（10頭×3反復）の72時間後の補正死虫率を算出した。チェス顆粒水和剤、コルト顆粒水和剤、ウララDFについては、96時間後に生死を判定した。
- 2) 供試薬剤の希釈倍率は表4のとおり。
- 3) 対照個体群は、総合農試で2008年に採取し、累代飼育した個体群。

表4 表3に示した供試薬剤の希釈倍率と薬剤の系統

	商品名	成分名	成分含有量	希釈倍率	備考
1	トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	20.0 %	1,000	合成ピレスロイド系
2	アディオン乳剤	ペルメトリン乳剤	20.0 %	2,000	合成ピレスロイド系
3	アグロスリン乳剤	シペルメトリン乳剤	6.0 %	2,000	合成ピレスロイド系
4	ロディー乳剤	フェンプロパトリン乳剤	10.0 %	1,000	合成ピレスロイド系
5	テルスターフロアブル	ビフェントリン水和剤	7.2 %	4,000	合成ピレスロイド系
6	アーデント水和剤	アクリナトリン水和剤	3.0 %	1,000	合成ピレスロイド系
7	スカウトフロアブル	トラロメトリン水和剤	1.4 %	2,000	合成ピレスロイド系
8	サイハロン乳剤	シハロトリン乳剤	5.0 %	2,000	合成ピレスロイド系
9	スミチオン乳剤	MEP乳剤	50.0 %	1,000	合成ピレスロイド系
10	アクテリック乳剤	ピリミホスメチル乳剤	45.0 %	500	有機リン系
11	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	50.0 %	1,000	有機リン系

12	ダイアジノン乳剤 40	ダイアジノン乳剤	40.0 %	1,000	有機リン系
13	オリオン水和剤 40	アラニカルブ乳剤	40.0 %	1,000	カーバメート系
14	ピラニカ EW	テブフェンピラド乳剤	10.0 %	2,000	殺ダニ
15	ハチハチ乳剤	トルフェンピラド乳剤	15.0 %	1,000	その他
16	チェス顆粒水和剤	ピメトロジン水和剤	50.0 %	5,000	その他
17	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン水和剤	20.0 %	4,000	その他
18	ウララ DF	フロニカミド水和剤	10.0 %	2,000	その他

防除上の注意

- 1) 県内各地で薬剤感受性が低下したワタアブラムシが確認されたことから、薬剤散布後に防除効果の確認を十分に行い、地域・ほ場ごとに適切な薬剤の選定を行う。
- 2) 有効な薬剤に対する抵抗性発達を回避する観点から、同一系統薬剤の連用は避け、系統異なる薬剤のローテーション散布に努める。
- 3) ほ場内をこまめに見回り、早期発見に努め速やかに防除を実施する。
- 4) 作期全体の防除体系の検討を行い、微生物農薬や気門封鎖型薬剤等を使用するなど、効の高い薬剤の温存に努める。
- 5) ワタアブラムシは多くの植物に寄生するため、きゅうり・ピーマン以外の野菜や花き類等園芸作物全般で注意が必要である。
- 6) 表1、表3に示した防除効果は、アブラムシが発生したほ場の農薬散布履歴等により防価が変化する事があるので留意すること。

病虫害発生予察情報高度化事業

ニカメイガの発生活長の変化と普通期水稲における粒剤の箱施薬による防除効果の検討

1 背景・ねらい

本県中部におけるニカメイガの発生は、1960年代までは多数確認されていたが、1970年代後半からほとんど見られなくなっていた。しかし近年、早期水稲および普通期水稲や飼料用稲の混耕地帯でニカメイガが散見されるようになっており、増加傾向にあると推定される。そこで、乾式予察灯とフェロモントラップを用いて発生活長を調査するとともに、普通期水稲における箱施薬による防除効果についても検討した。

2 試験方法

(1) 発生活長の調査

1) 調査地点

- ① 乾式予察灯：宮崎市、国富町、都城市、延岡市の4地点
- ② フェロモン（SE）トラップ：宮崎市、国富町、木城町の3地点

2) 調査期間

- ① 4月第1半旬（宮崎市は第4半旬）～10月第6半旬
- ② 4月第4半旬（国富は第5半旬、木城は第6半旬）～10月第6半旬

(2) 箱粒剤による防除効果の検討

1) 供試薬剤

フィプロニル粒剤（A剤、B剤）、ジノテフラン粒剤、クロアニジン粒剤、クロラントラニプロール粒剤の5剤

2) 試験圃場：農試内水田 普通期水稲（品種：ヒノヒカリ）

3) 区制・面積・耕種概要：1区140㎡ 2反復

播種：平成24年5月18日、移植：6月11日、出穂：8月27日

栽植距離：条間30cm×株間18cm、施肥等一般管理：慣行

4) 調査方法

試験区毎に100株（50株×2箇所）中の葉鞘変色茎と心枯茎の見取り調査を実施。

3 結果の要約

(1) 発生活長の調査

- ① 宮崎市と国富町に設置してある予察灯とフェロモントラップでは、年3回以上の発生が推測された。
- ② 宮崎市、国富町、木城町に設置したフェロモントラップの誘殺頭数では、越冬世代が4月中に羽化のピークであった。
- ③ 宮崎市に設置してある予察灯の誘殺頭数は、40年前よりも1ヶ月程度早く越冬世代が羽化のピークを迎えていた。

(2) 箱粒剤による防除効果の検討

- ① フィプロニル粒剤、ジノテフラン粒剤及びクロラントラニプロール粒剤は、6月中旬移植の普通期水稲ヒノヒカリにおいて第2世代の初期発生までは防除効果が認められた。
- ② 第2世代の発生ピーク以降は、上記薬剤の防除効果は持続しなかった。

5 今後の課題

- ① ニカメイガの発生活長についてはまだ不明な点が多いことから、来年度以降も引き続き混耕（早期）地帯を中心に調査の継続が必要。
- ② 箱施薬の防除効果についても、試験の継続が必要。

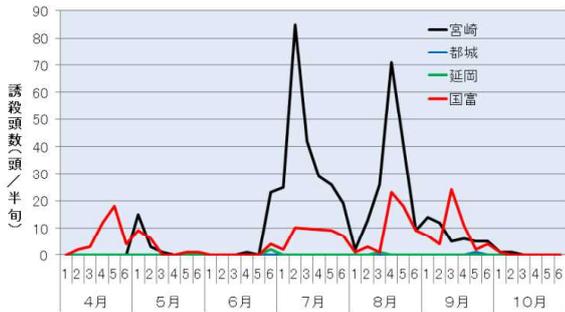


図1 予察灯によるニカメイガの誘殺状況

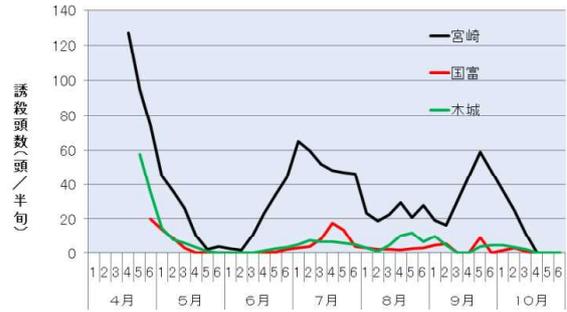


図2 フェロモントラップによる誘殺状況



図3 1960年代頃と2012年の誘殺状況の比較

表1 被害株率でみた箱粒剤による防除効果の持続期間の比較

試験区	被害株(%)	
	8月8日(+58)	8月23日(+73)
①フィプロニル粒剤(A剤)	1.0 (9.1) *	12.0 (57.1)
②フィプロニル粒剤(A剤)	0.0 (0.0) *	14.0 (66.6)
③ジノテフラン粒剤	2.0 (18.2) *	7.0 (33.3)
④フィプロニル粒剤(B剤)	3.0 (27.3) *	19.0 (90.5)
⑤クロラントラニプロール粒剤	1.0 (9.1) *	27.0 (128.6)
⑥クロチアニジン粒剤	13.0 (118.2)	28.0 (133.3)
無処理区	11.0 (-)	21.0

※()内は無処理比

※*は無処理区と試験区の間についてDunnett検定の結果5%水準で有意差あり

※分散分析結果の結果、8月8日(p値:0.0025)、8月23日(p値:0.0173)

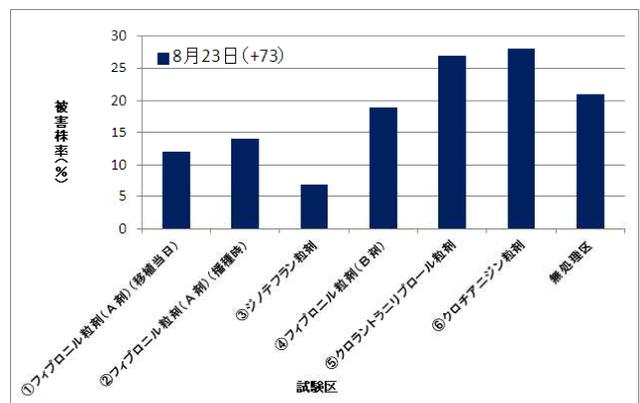
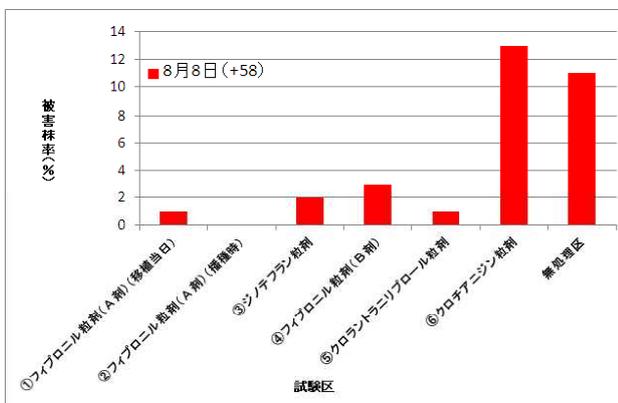


図4、5 被害株率でみた箱粒剤別の防除効果の比較

3 特殊病害虫侵入警戒調査事業

1) ミバエ類侵入警戒調査

ミバエ類の侵入の危険性の高い地域において、ミバエ類の早期発見体制の整備及び侵入警戒調査を実施した。またミカンコミバエ、ウリミバエについては、関係農林振興局の協力のもとで実施した。

(1) 誘殺状況

ト ラ ッ プ 設 置 場 所	調査期間	誘 殺 数			調査機関
		チチュウカイ イミバエ	ミカンコ ミバエ	ウリミ バエ	
宮崎市 中部港湾事務所敷地内	4～12,3月	0	—	—	防除・肥料センター
〃 赤江宮崎空港付近	〃	0	—	—	〃
〃 芳土のミカン園	〃	0	—	—	〃
都農町 立野のミカン園	〃	0	—	—	〃
南郷町 谷之口のミカン園	〃	0	—	—	〃
日向市 高森山のミカン園	〃	0	—	—	〃
門川町 牧山のミカン園	〃	0	—	—	〃
宮崎市 赤江 宮崎空港付近	〃	—	0	0	中部農林振興局
〃 折生迫 水産試験場内	〃	—	0	0	〃
〃 内海 内海神社付近	〃	—	0	0	〃
〃 内海 野島神社付近	〃	—	0	0	〃
〃 折生迫 青島小学校付近	〃	—	0	0	〃
日南市 油津港東岸壁手前公園	〃	—	0	0	南那珂農林振興局
〃 大堂津ユースホテル駐車場	〃	—	0	0	〃
南郷町 虚空蔵島入口	〃	—	0	0	〃
〃 贄波神社境内	〃	—	0	0	〃
〃 亜熱帯作物支場入口	〃	—	0	0	〃
串間市 市木 石波海岸（幸島入口）	〃	—	0	0	〃
〃 宮の浦（漁港公園）	〃	—	0	0	〃
〃 都井港	〃	—	0	0	〃
〃 崎田（道路沿い雑木）	〃	—	0	0	〃
〃 新福島港	〃	—	0	0	〃
川南町 通浜（川南魚港周辺）	〃	—	0	0	児湯農林振興局
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃
門川町 庵川 庵川神社	〃	—	0	0	東臼杵農林振興局
〃 曾根 新川橋	〃	—	0	0	〃
〃 庵川西 庵川漁協（唐船バエ）	〃	—	0	0	〃
〃 尾末 上納屋公民館	〃	—	0	0	〃
〃 尾末 尾末神社	〃	—	0	0	〃
延岡市 浦城町浦城養魚場付近旧道	〃	—	0	0	東臼杵農林振興局
〃 浦城町浦城海水浴場付近	〃	—	0	0	〃
〃 須美江町須美江キャンプ場内	〃	—	0	0	〃
〃 熊野江集落センター敷地内	〃	—	0	0	〃
北浦町 下阿蘇オートキャンプ場付近	〃	—	0	0	〃

(2) 調査結果

ミバエ類の本県への侵入は認めなかった。

2) アリモドキゾウムシ侵入警戒調査

6月～10月にかけて、アリモドキゾウムシの侵入危険性の高い地域（30地点）にトラップ（アリモドキコール）を設置し、本虫の侵入警戒調査を実施した。また、中部・南那珂・北諸県・児湯の各農林振興局においては、気温が高い7～9月に計45地点で警戒調査を実施した。

(1) 誘殺状況

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査機関
宮崎市 新別府町前浜	阿波岐原森林公園付近	6～10月 10回	0	防除・肥料センター
〃 港	中部港湾事務所敷地内	〃	0	〃
〃 山崎町上ノ原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 田野町白砂坂上	甘藷畑	〃	0	〃
〃 田野町乙	甘藷畑	〃	0	〃
〃 佐土原町下那珂	甘藷畑	〃	0	〃
〃 佐土原町下田島	甘藷畑	〃	0	〃
都城市 上長飯町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 横市町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 横市町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 丸谷町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 五十町	ローソン五十町店付近	〃	0	〃
〃 山之口町五反田	甘藷畑	〃	0	〃
〃 山田町菓子野	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃 牧原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃 山田	甘藷畑	〃	0	〃
三股町 宮村	甘藷畑	〃	0	〃
西都市 茶臼原児屋根	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃	甘藷畑	〃	0	〃
新富町 日置池田	ヒルガオ自生地	〃	0	〃
〃 日置上日置	甘藷畑	〃	0	〃
〃 日置五丁野地	甘藷畑	〃	0	〃
高鍋町 南高鍋蚊口浦	酒造工場付近	〃	0	〃
高鍋町 持田	甘藷畑	〃	0	〃
宮崎市 有田	有田橋東詰付近	7～9月 6回	0	中部農林振興局
〃 新別府町	人工ビーチ入り口付近	〃	0	〃
〃 本郷北方	宮崎空港付近	〃	0	〃

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査機関
宮崎市 青島	青島港付近	〃	0	中部農林振興局
〃 佐土原町下那珂	市営プール付近潮害林	〃	0	〃
〃 田野町合又	南原壺園前	〃	0	〃
〃 田野町七野	宮崎国際カントリークラブ [®] 付近	〃	0	〃
〃 高岡町花見	花見橋付近	〃	0	〃
綾町 麓	小田常橋付近	〃	0	〃
日南市 大堂津	大堂津港付近	7～9月 6回	0	南那珂農林振興局
〃 油津	油津港付近	〃	0	〃
〃 平山	風田浜付近	〃	0	〃
〃 目井津	目井津港付近公園内	〃	0	〃
串間市 奈留	J A大東集荷場	〃	0	〃
〃 奈留	大東原忠壺塔内	〃	0	〃
〃 北方	酒造会社付近	〃	0	〃
〃 東今町	福島港付近雑木林内	〃	0	〃
〃 金谷	福島港付近港公園内	〃	0	〃
〃 西浜	酒造会社付近公園内	〃	0	〃
〃 中千野	雑木林内	〃	0	〃
〃 毛久保	毛久保港付近	〃	0	〃
〃 奈留仲別府	地区公園内	〃	0	〃
〃 西方穂佐ヶ原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 西方	JA はまゆう 串間集荷場内	〃	0	〃
都城市 高城町	J A都城甘藷貯蔵庫入口	7～10月 6回	0	北諸県農林振興局
〃 丸谷町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 山田町	J A都城甘藷育苗ハウス	〃	0	〃
〃 山田町	J A都城甘藷育苗ハウス	〃	0	〃
〃 横市町	畑作園芸支場ほ場	〃	0	〃
〃 梅北町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 安久町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 高木町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 高木町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 高木町	甘藷畑	〃	0	〃
えびの市杉水流	甘藷畑	7～10月 6回	0	西諸県農林振興局
小林市北西方	甘藷畑	〃	0	〃

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査機関
小林市堤	甘藷畑	7～9月 6回	0	西諸県農林振興局
〃 野尻町三ヶ野山	甘藷畑	〃	0	〃
高原町広原	甘藷畑	〃	0	〃
西都市 茶臼原緑ヶ丘	甘藷畑	7～10月 6回	0	児湯農林振興局
〃 三宅寺原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 上三財	三財中学校付近	〃	0	〃
高鍋町 上江境谷	甘藷畑	〃	0	〃
新富町 新田十文字	甘藷畑	〃	0	〃
〃 新田三財原	甘藷畑	〃	0	〃
木城町 椎木牧ノ内	甘藷畑	〃	0	〃

(2) 調査結果

アリモドキゾウムシの本県への侵入は認められなかった。

3) イモゾウムシ侵入警戒調査

9月28日に串間市(24ほ場)、10月2日に都城市(12ほ場)、10月30日に都城市(18ほ場)、10月31日に串間市(21ほ場)について収穫終了後の甘藷畑において調査を実施した。

1ほ場当たり50本程度の収穫残渣を切開及び目視により食害痕等を調査した。いずれの地域においてもイモゾウムシの本県への侵入は認められなかった。

4) ミカンキジラミ侵入警戒調査

4月～12月、3月において、県内のかんきつ園地18ほ場及び4か所のゲッキツ植栽地を調査したが、発生は確認されなかった。

5) ウメ輪紋ウイルス発生調査

平成21年4月東京都青梅市において、ウメ輪紋ウイルスが国内で初めて確認された。このため、本県においても平成21年度から実施している。

平成24年度については、門司植物防疫所細島出張所、関係市町村・JA、農林振興局の協力を得て、4月24日～5月9日に現地ほ場調査及びサンプルの採取を行った。

(1) 調査場所、対象作物、ほ場数等

調査市町村	調査ほ場数			サンプル 採取樹数	検定結果
	うめ	もも	すもも		
宮崎市	3			15	—
日南市	3			15	—
都城市	2			10	—
小林市	2			10	—
西都市	1			5	—
都農町	2			10	—
西米良村	2			10	—
美郷町	3			20	—
椎葉村	1			10	—
延岡市	1		1	10	—
日之影町	4			10	—
合計	28	3	4	171	

(2) 調査結果

現地調査における目視による当該ウイルスの症状は、すべてのほ場で確認されなかった。また、採取したサンプルの門司植物防疫所における検定の結果は、すべて陰性であった。

4 発生予察の手法検討委託事業（発生予察調査実施基準の新規手法策定事業）

コナジラミ類 西南暖地キュウリにおける発生調査基準の検討

生頼 由喜男, 壹岐 透, 中村 正和, 邊見 博子, 斎藤 伸弘

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター

[〒880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5805]

1. 調査背景と目的

キュウリの害虫であるコナジラミ類は、微小なため発生初期の確認が困難な害虫であり、大量発生すると葉にすす病が発生し、同化作用や呼吸が妨げられ、植物体の生育を阻害する要因の一つとなっている。

コナジラミ類については、調査実施基準が未策定であるため、生産現場での発生動向を的確に把握する調査を実施し、その調査結果に基づく発生予察手法と新たな調査基準を策定する。

2. 調査方法

1) 施設内分布状況調査

2010 年に場内施設において、コナジラミ類の植物体上の分布状況及び施設内の分散状況の調査を行い、コナジラミ類の分散及び調査部位の検討を行った。

- ① 栽培 ポット栽培(ワグネルポット)
- ② 定植 2010 年 11 月 9 日
- ③ コナジラミ放飼日 2010 年 12 月 6 日
- ④ 放飼頭数 200 頭×2 箇所
- ⑤ 調査間隔 分散調査：放飼後 7 日間
分布調査：1 週間
- ⑥ 調査項目 コナジラミ類 成・幼虫数

2) 生産現場での発生状況調査

2010～2011 年に県内キュウリ生産農家の施設において見取り及び黄色粘着板によるコナジラミ類の発生量及び分布状況の調査を行い、調査部位の検討を行った。

- ① 栽培 2010 年：つる下ろし栽培 2011 年：摘心栽培
- ② 定植 2010 年 10 月 15 日 2011 年 10 月 18 日
- ③ 調査期間 2010 年：11 月～4 月 2011 年：11 月～3 月

④ 調査間隔 1 週間

⑤ 調査項目

見取り調査：調査区 上位葉区(100cm 以上)、中位葉区(50～100cm)、下位葉区(50cm 以下)

調査葉数 各区 100 葉(株当たり 2 葉×連続 5 株×10 箇所)

調査項目 コナジラミ類 成・幼虫数

粘着板調査：施設内 10 箇所のコナジラミ類 成虫数

3) コナジラミ類の発生量とすす病の発生についての検討

2012 年に場内施設において、コナジラミ類を放飼し、次世代以降のコナジラミ類の寄生頭数とすす病の発生状況の調査を行った。なお、老化葉等は適宜除去し、コナジラミ類の増殖を促進するため定期的に苗の更新を行った。

① 栽培 ポット栽培 (ルートラップ)

② 定植 2012 年 7 月 23 日 補植 9 月 20 日、10 月 19 日

③ コナジラミ放飼日 2012 年 8 月 2 日

④ 放飼頭数 200 頭

⑤ 調査日 1 回目 10 月 1 日、2 回目 11 月 14 日

⑥ 調査項目 コナジラミ類 成・幼虫数

4) 生産現場での発生予察調査手法の適応性の検討

過去 2 年間の調査結果に基づき策定したコナジラミ類の発生予察調査手法案を検証するため、2012 年に、県内キュウリ生産農家の施設においてコナジラミ類の調査手法案に基づく調査を実施し、現場での調査手法の検討を行った。

(1) 巡回調査(見取り調査)

① 調査株数 50 株

② 調査部位 各株上位葉 1 枚、中位葉 1 枚の合計 2 葉調査

③ 調査期間 2012 年 11 月～2013 年 3 月

④ 調査間隔 1 週間

⑤ 調査項目 調査葉のコナジラミ類成虫頭数を計数し、葉当たり頭数を算出

(2) 定点調査(黄色粘着板による調査)

施設内及び施設周囲に黄色粘着板を設置し、コナジラミ類の発生量を把握する。

① 設置箇所数 施設内 6 箇所、施設周囲 4 箇所

② 設置位置 施設内：黄色粘着板を畝中央に吊り下げ(高さ 150cm)

施設周囲：南側を含む施設周囲に粘着板上端を地上高 50cm に設置

③ 調査期間 2012 年 11 月～2013 年 3 月

④ 調査間隔 1 週間

⑤ 調査項目 コナジラミ類成虫誘殺数を計数し、粘着板 1 枚当たり頭数を算出

3. 調査結果

1) 施設内分布状況調査

タバココナジラミの分散状況を図1~2に示した。

放飼4時間後の垂直への分散は、放飼場所直上の葉を中心に上下4~6葉程度、水平分散は、少数ではあるが隣接した株で確認された。放飼1日後には、放飼株の上位葉への分散が進み、同時に別畝へも分散を始めていた。放飼4日後には、6割以上の株で定着が確認された。株上の分布については、放飼位置直上の3葉程度に多い傾向はあったが、それ以外の葉でも定着が確認された。

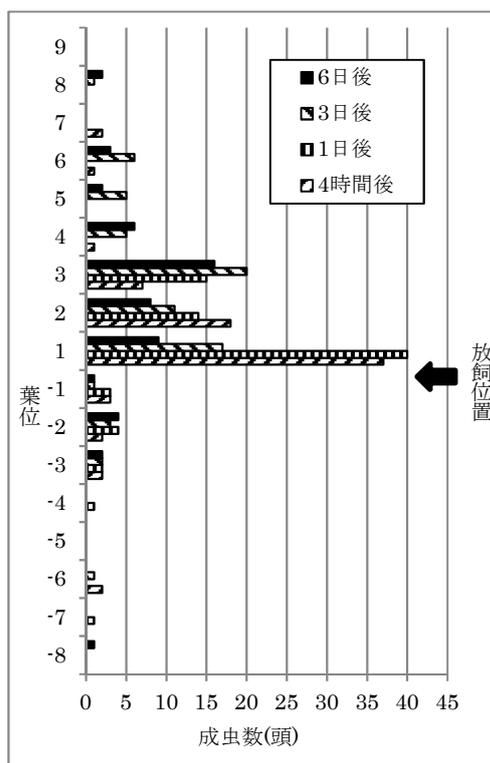


図1 放飼株上の分散状況

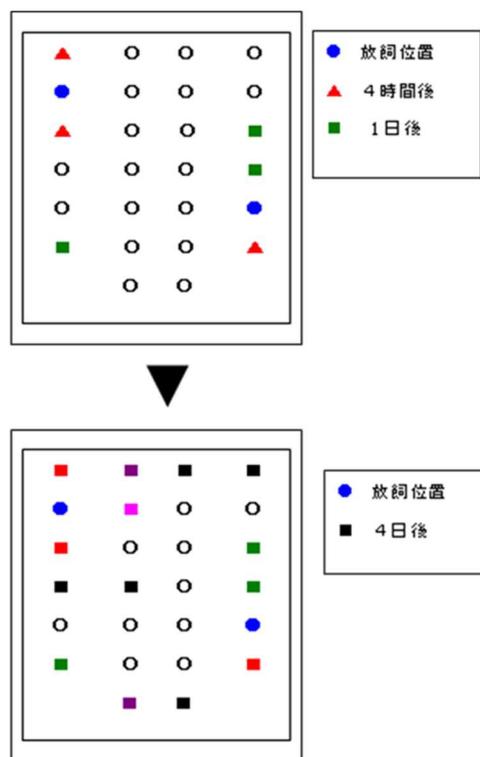


図2 施設内での分散状況

2) 生産現場での発生状況調査

(1) 見取り調査

2010年、2011年の調査結果を図3~10に示した。コナジラミ類は、タバココナジラミのみの発生であった。

タバココナジラミ成虫の発生は、2010年調査ほ場ではコナジラミ類の発生が少なく、年内のみの発生であった。葉位別では、調査開始時は上・中位葉で、その後は概ね中位葉で多く確認された。2011年調査では、調査開始時点では上位葉で多く確認され、年明け以降は中位葉で、次いで上位葉で確認されるようになった。

幼虫の発生についても2010年は成虫と同様の傾向を示している。2010年調査では、12月中旬に下位葉で多く確認されているが、2010年調査ほ場はつる下ろし栽培であり、上・中位葉に

産卵されたコナジラミがつる下ろし作業により下位葉に位置したのではないかと推測される。摘心栽培で調査を実施した2011年の幼虫の発生状況は、時期的に変動が大きく、一定の傾向は認められなかった。

寄生頭数と寄生葉率を比較してみると、2010年の成虫、幼虫とも寄生頭数が多い区ほど寄生葉率が高い傾向であることは変わらないが、幼虫では、成虫に比べ明らかに寄生葉一葉当たりの寄生頭数が多かった。コナジラミ類幼虫は産卵された葉で生活し、幼虫期間に他の葉に移動しないために特定の葉で寄生頭数が多くなると思われる。2011年調査結果では、成虫では、寄生頭数が高い区では寄生葉率も高くなっており、両者の間で一定の傾向が認められるが、幼虫では、寄生頭数と寄生葉率の間には一定の傾向は認められなかった。また、その発生は2010年と同様特定の葉に集中して確認されている。

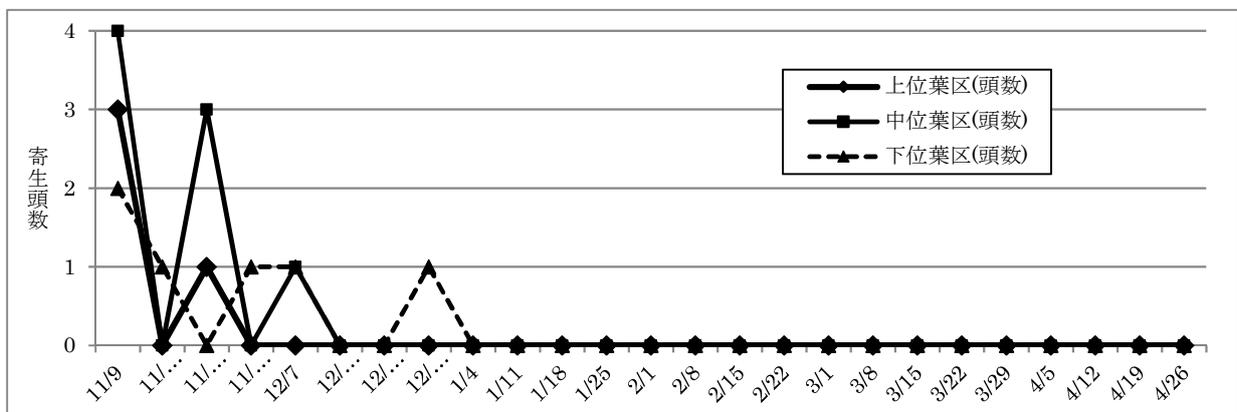


図3 成虫の100葉当たり寄生頭数(2010年)

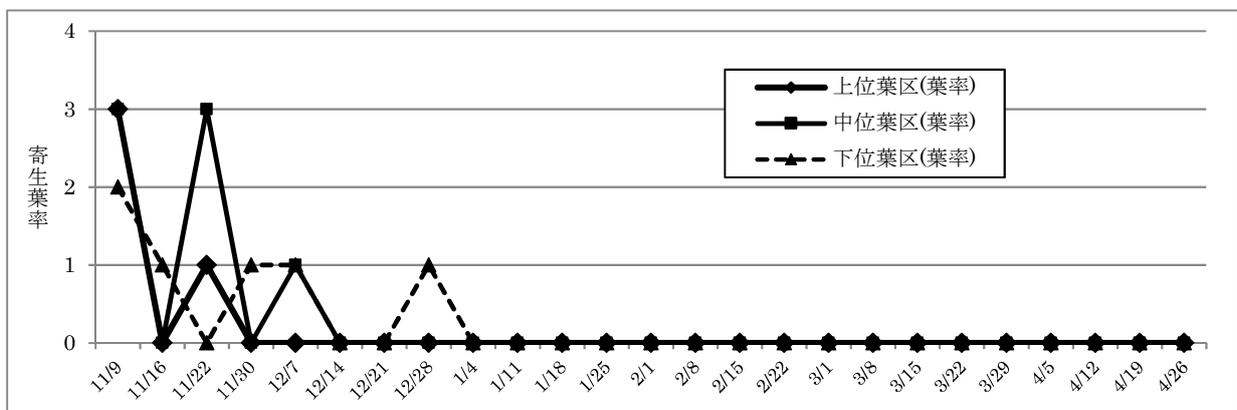


図4 成虫の寄生葉率(2010年)

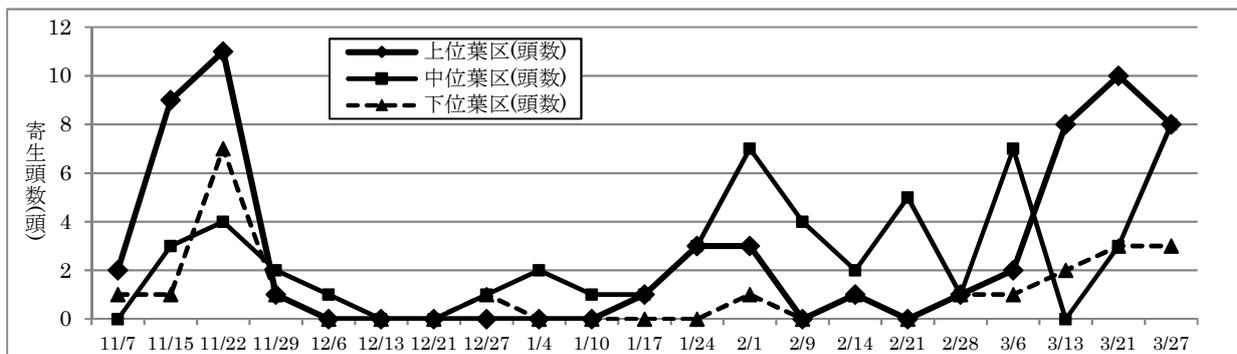


図5 成虫の100葉当たり寄生頭数(2011年)

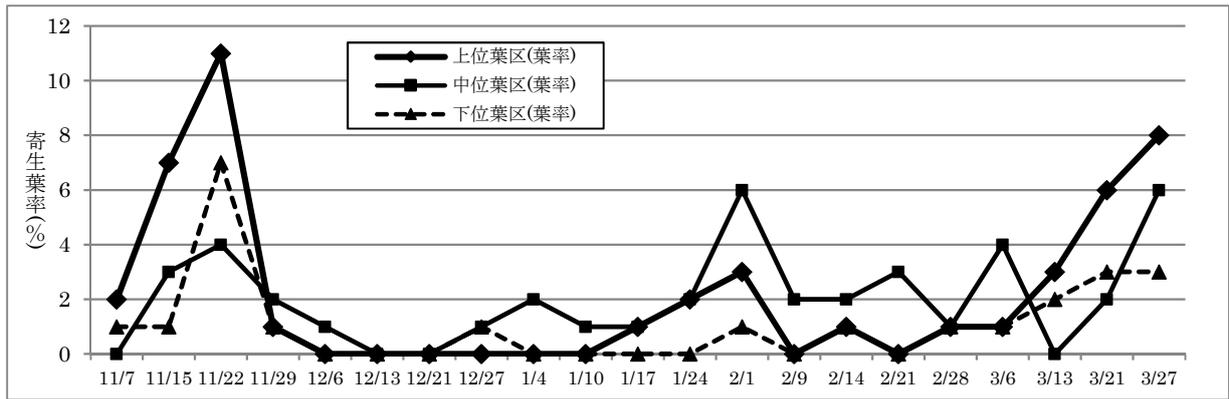


図6 成虫の寄生葉率(2011年)

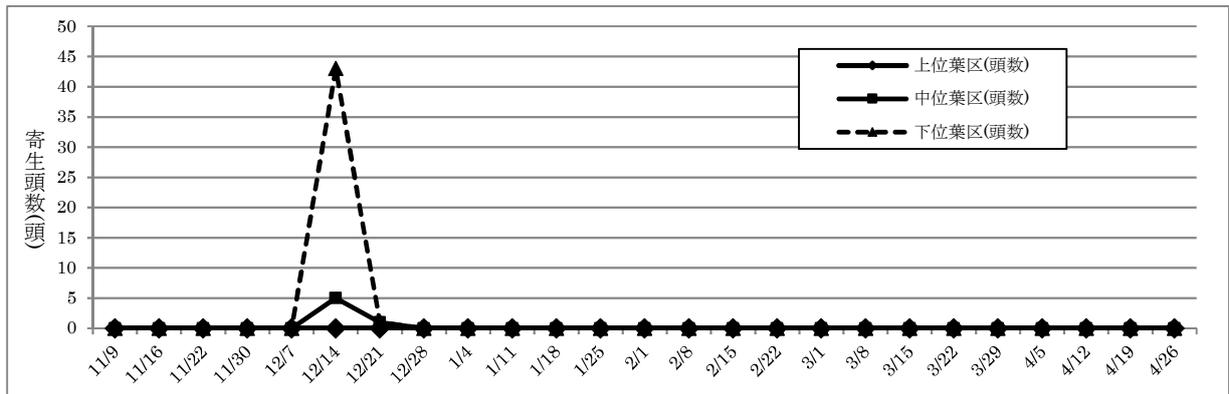


図7 幼虫の100葉当たり寄生頭数(2010年)

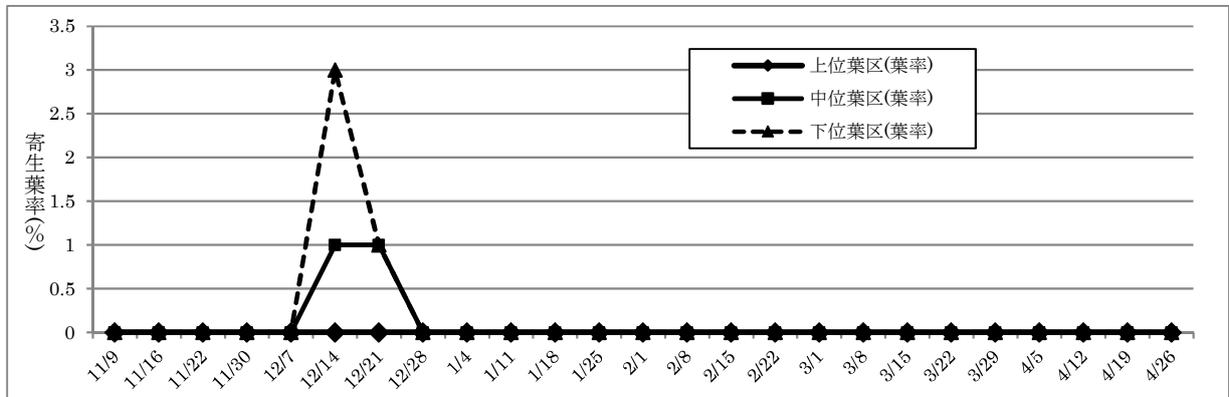


図8 幼虫の寄生葉率(2010年)

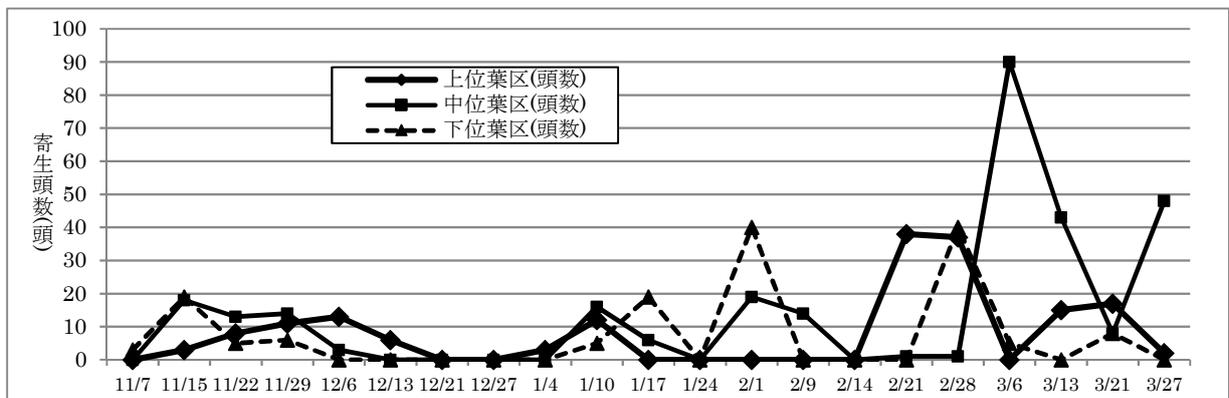


図9 幼虫の100葉当たり寄生頭数(2011年)

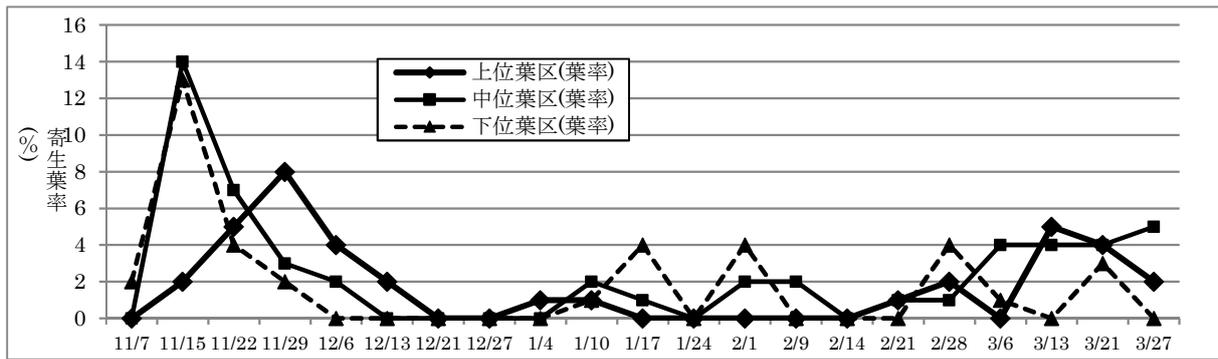


図10 幼虫の寄生葉率(2011年)

(2) 黄色粘着板による調査

2010年、2011年の結果を図11～12に示した。黄色粘着板でのコナジラミ類の誘殺状況は、いずれの年も見取り調査では発生が確認されていない時期にも誘殺が確認されている。2010年には調査開始当初は開口部周りで多く誘殺され、その後防除等により数が減少していった。春先には谷下など特定の場所で誘殺があり、その後全体で確認されるようになった。2011年調査では、調査開始当初は、設置場所での誘殺数の差は確認されなかったが、年明け以降加温機周辺に設置した粘着板で多く確認されるようになった。

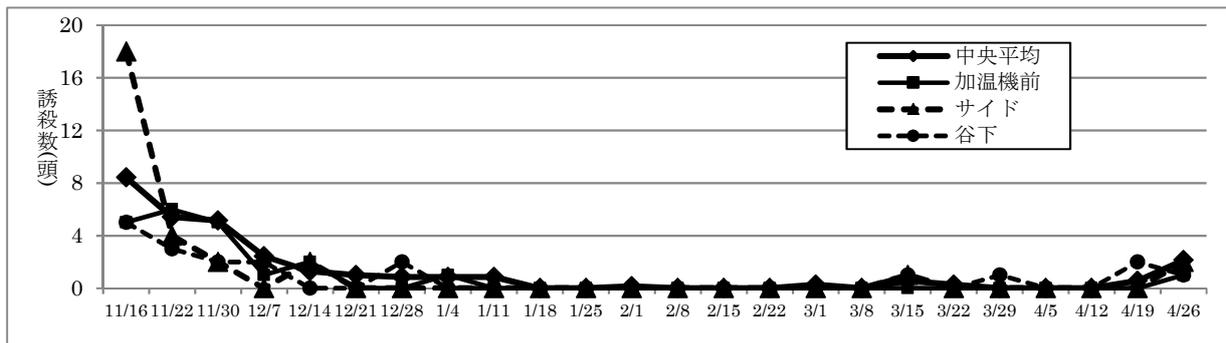


図11 黄色粘着板によるコナジラミ類誘殺状況(2010年)

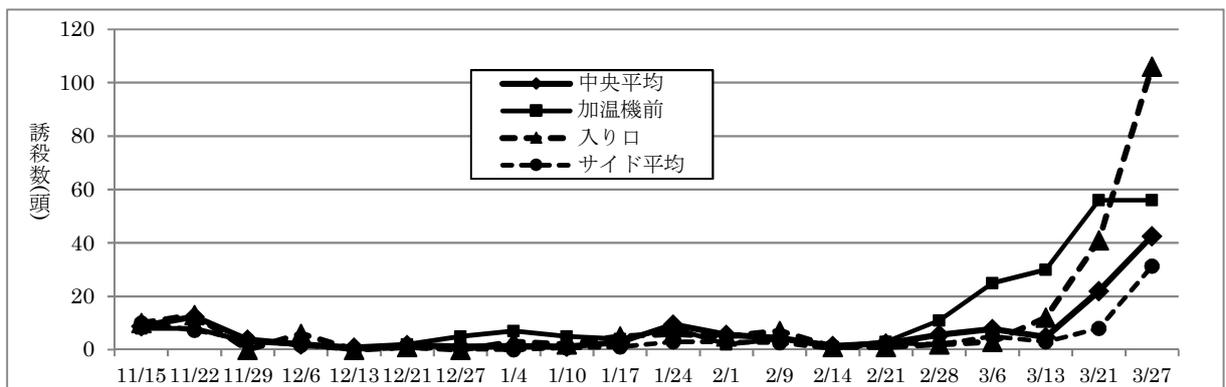


図12 黄色粘着板によるコナジラミ類誘殺状況(2011年)

3) コナジラミ類の発生量とすす病の発生についての検討

2012年の調査結果を表1に示した。2回の調査の結果、平均で葉当たり130頭、最大で葉当

たり 450 頭以上のタバココナジラミ成・幼虫の寄生が確認された。1 回目の調査は 4 齢幼虫が中心に、2 回目の調査は成虫が中心に寄生が確認されたが、いずれの葉でもすす病の発生は見られなかった。

表 1 タバココナジラミの葉当たり寄生頭数

区分		調査 葉数 (葉)	葉当たり寄生頭数 (頭)		寄生頭数別割合 (%)				
			最大	平均	400 頭 以上	300 ~ 399 頭	200 ~ 299 頭	100 ~ 199 頭	100 頭 未満
1 回目 (10/1)	幼虫	105	501	125.4	1.9	3.8	14.3	33.3	46.7
	成・幼虫	133	538	128.2	3.8	4.5	15.0	27.1	49.6
2 回目 (11/19)	幼虫	37	28	12.2	0	0	0	0	100
	成・幼虫	50	464	142.4	2.0	4.0	12.0	56.0	26.0

4) 生産現場での発生予察調査手法の適応性の検討

(1) 巡回調査(見取り調査)及び定点調査(黄色粘着板)

見取り調査及び粘着板調査の結果を図 13 に示した。各調査の比較を容易にするため、見取り調査は 50 葉当たり頭数、粘着板は粘着板 1 枚当たりの調査期間の平均誘殺頭数を用いている。

コナジラミ類の発生は、タバココナジラミのみであった。誘殺数が少なく明確な発生傾向の確認には至らなかったが、施設周辺の誘殺が確認された後施設内の見取り調査頭数が増加しており、施設内への侵入が起こったことも考えられる。

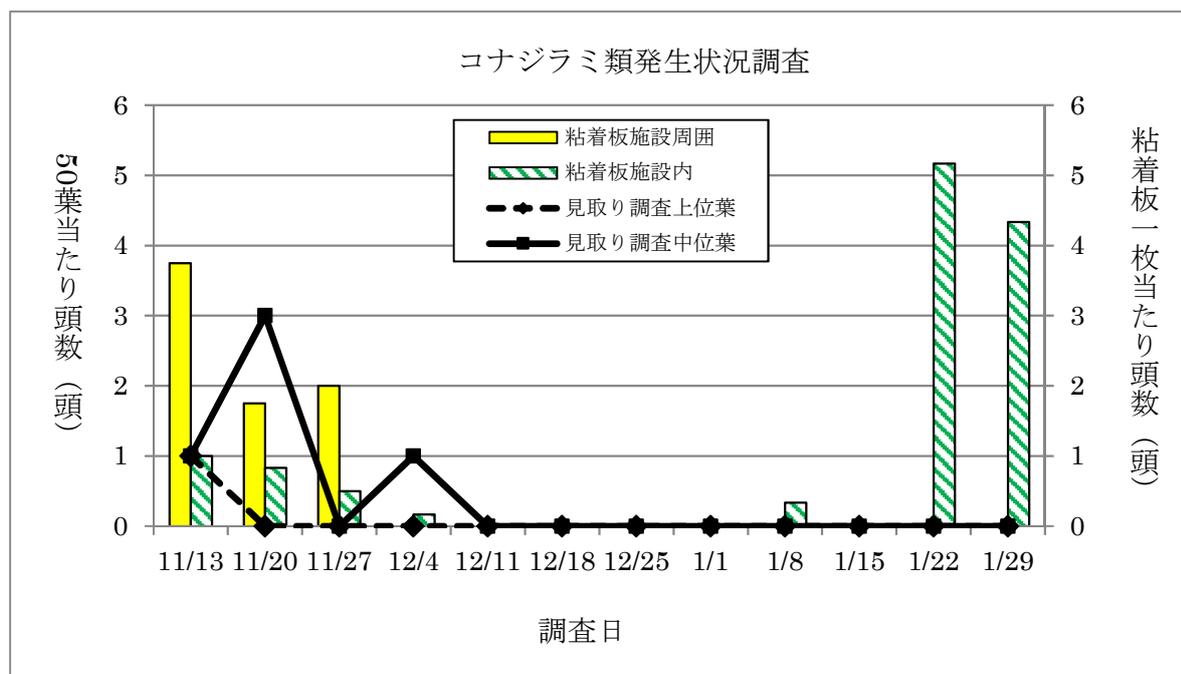


図 13 発生予察調査手法に基づく調査結果

4. 考察

コナジラミ類の株上分布は、成虫の分布では栽培当初から栽培期間を通して上・中位葉で、比較的多く確認されるため、成虫の発生状況を把握するためには上・中位葉の確認が適していると考えられる。コナジラミ類の発生は、開口部周辺や加温機周辺等多いことなどから、これらの場所を含めて調査することにより効果的に発生量の把握ができると考えられる。

幼虫については、2年間の調査の結果、一定の傾向が確認されなかったことや、幼虫の生息は産卵された葉に限られ、調査葉の選定で発生量が大きく左右されることから、調査対象とするのは不適であると考えられる。このため、コナジラミ類の調査は成虫のみで行うこととする。

黄色粘着板による調査は見取り調査で確認されない場合でも捕殺されていることから、コナジラミ類の発生を確認する上では有効な手段であると認められる。ただし、設置・回収等に労力を要するため、定点調査での活用に適していると考えられる。

また、施設周囲に設置することにより、野外での発生状況の把握ができ、施設への侵入時期等を予測する目安になると考えられる。

コナジラミ類の発生量とすす病の発生に関する調査では、大量発生した状態でもすす病が発生せず、その相関について明確な知見を得ることはできなかったが、大量発生すると管理作業等の作業性に影響を与えることから、すす病の発生の有無にかかわらず一定の基準で予察を行う必要があると考えられる。

5. 今後の課題

今後は、策定した予察調査実施基準案について、全国各地のキュウリ産地で適合性を検証する必要がある。

6. 要約

コナジラミ類の発生量については、株の上・中位葉の成虫数を調査することにより安定して予察することが可能である。開口部や加温機前等、例年コナジラミ類の発生が多い場所を含めて調査することにより、効果的に発生量の把握ができる。

黄色粘着板による調査は、定点調査で活用する上で有効な手段である。また、施設周囲に黄色粘着板を設置することにより、野外のコナジラミ類の発生量や施設への侵入時期等の予測が可能になる。

7. 成果の公表及び特許

なし

8. 引用文献

なし

5 その他の調査、検定等

1) BLASTAMによる葉いもちの発生好適条件の判定と現地の発生状況

(早期水稲)

	宮崎	串間	高鍋	西都	青島	日向
5月1日	—	—	4	—	—	—
5月2日	—	—	—	—	—	—
5月3日	—	1	—	1	1	1
5月20日	—	—	4	4	4	4
5月26日	1	—	—	—	1	1
6月1日	—	—	4	—	—	4
6月2日	—	—	—	4	—	—
6月3日	●	4	4	●	—	—
6月4日	●	●	●	●	●	4
6月5日	—	—	4	—	●	●
6月6日	—	—	—	—	—	—
6月7日	—	—	—	—	—	—
6月8日	●	—	●	●	●	●
6月12日	—	—	●	●	—	—
6月13日	—	—	—	—	—	●
6月14日	—	●	—	—	—	—
6月15日	—	—	—	●	—	●
6月16日	—	—	—	—	—	—
6月17日	—	—	—	—	●	—
6月18日	—	●	—	—	●	—
6月19日	—	3	—	—	—	—
6月26日	—	●	—	—	—	—
6月30日	●	●	●	—	—	—
7月1日	—	—	—	—	—	●
7月2日	—	—	—	—	—	●
7月3日	—	—	—	—	—	—
7月4日	—	—	—	?	2	●
7月5日	—	—	—	—	—	—
7月6日	—	—	—	—	—	—
7月7日	—	—	—	—	—	2
7月12日	—	—	—	—	3	—
7月13日	—	—	—	—	—	●
7月17日	—	—	3	—	—	3
7月18日	—	—	—	—	—	—
7月19日	—	—	—	—	—	—
7月20日	—	—	—	2	—	—
7月21日	—	—	—	—	—	—
7月22日	—	—	—	—	—	—
7月23日	—	—	2	2	—	—
7月31日	—	—	—	—	—	2

調査地点の発病株率の推移(7月中旬は発病穂率)

	宮崎	串間	高鍋	西都	青島	日向
5月中旬	0	/	/	0	/	0
6月中旬	0			0		0
6月下旬	0			3		8
7月中旬	0.1			0.1		0

(普通期水稻)

	高千穂	鞍岡	延岡	神門	加久藤	小林2	宮崎	都城
6月1日	—	—	4	—	—	—	—	—
6月2日	—	—	—	—	—	4	—	—
6月3日	1	3	—	—	—	4	●	—
6月4日	—	—	—	1	—	—	●	—
6月5日	1	4	●	1	—	—	—	●
6月6日	—	4	—	—	—	—	—	—
6月7日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月8日	—	—	—	4	●	●	●	4
6月9日	—	—	●	—	—	—	—	—
6月12日	●	1	—	—	—	—	—	—
6月13日	●	—	●	4	—	—	—	—
6月14日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月15日	—	—	●	●	—	—	—	—
6月16日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月17日	—	—	●	—	●	—	—	—
6月18日	—	—	—	—	●	4	—	●
6月19日	—	●	—	—	—	—	—	—
6月20日	—	●	—	—	—	—	—	—
6月23日	4	4	—	—	—	—	—	—
6月24日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月25日	4	—	—	4	—	—	—	●
6月26日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月27日	4	1	—	—	—	—	—	—
6月30日	●	1	—	●	—	—	●	—
7月1日	—	●	●	—	—	—	—	—
7月2日	●	—	●	●	—	—	—	—
7月3日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月4日	—	●	●	●	—	—	—	—
7月5日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月6日	●	●	—	—	—	3	—	—
7月7日	—	—	2	—	—	—	—	—
7月11日	—	—	—	—	—	●	—	—
7月12日	●	●	—	—	—	●	—	—
7月17日	—	—	—	2	—	—	—	—
7月18日	—	●	—	—	—	—	—	3
7月19日	●	—	—	—	3	—	—	—
7月20日	—	—	—	—	2	—	—	—
7月21日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月22日	—	—	—	—	—	2	—	—
7月23日	—	—	2	—	—	—	—	—
7月27日	—	—	—	—	3	—	—	—
7月28日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月29日	—	—	—	—	2	—	—	—
7月30日	—	—	—	2	2	—	—	—

調査地点の発病株率の推移(9月中旬は発病穂率)

	高千穂	五ヶ瀬	延岡	東郷	えびの	小林	国富	都城
6月中旬	2	0	0	0	0	1	0	0
7月中旬	0	0	0	0	0	0	0	0
7月下旬	2	18	0	8	0	0	0	2
8月中旬	3	10	0	4	6	0	2	21
9月中旬	0.2	2.8	0.1	0.1	0.6	0.7	0	3.1

2) 斑点米カメムシ類の発生状況調査

イタリアンライグラスでの斑点米カメムシ類の発生状況(6月)

※20回振り/1地点

地域名	地点数	ミナミアオカメムシ①			クモヘリカメムシ②			ホソハリカメムシ③		
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計
中部	69	0.3	1.1	1.4	8.0	0.0	8.0	1.1	0.2	1.4
南那珂	31	0.0	0.8	0.8	9.3	0.0	9.3	5.1	3.7	8.8
児湯	55	0.1	0.4	0.4	10.9	0.1	11.0	1.7	0.1	1.7
東臼杵	20	0.2	0.3	0.5	6.1	0.0	6.1	2.1	0.1	2.2
全 県	175	0.1	0.7	0.9	8.9	0.0	8.9	2.1	0.8	2.9

地域名	地点数	シラホシカメムシ④			アカスジカスミカメ⑤			4種合計(①+②+③+④)	4種平年値
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計		
中部	69	0.5	0.2	0.7	16.3	29.1	45.4	11.5	8.3
南那珂	34	0.5	0.6	1.2	5.5	22.5	28.0	20.1	20.5
児湯	43	0.5	1.4	1.8	8.5	10.1	18.6	15.0	11.3
東臼杵	13	0.0	0.2	0.2	11.1	95.0	106.1	8.9	11.3
全 県	159	0.4	0.7	1.1	11.3	29.5	40.8	13.8	12.8

数値を小数点第2位で四捨五入しているため、合計数値が一致しない場合があります。

平成24年

3) ヒノキ毬果口針鞘数による果樹カメムシ類離脱予測

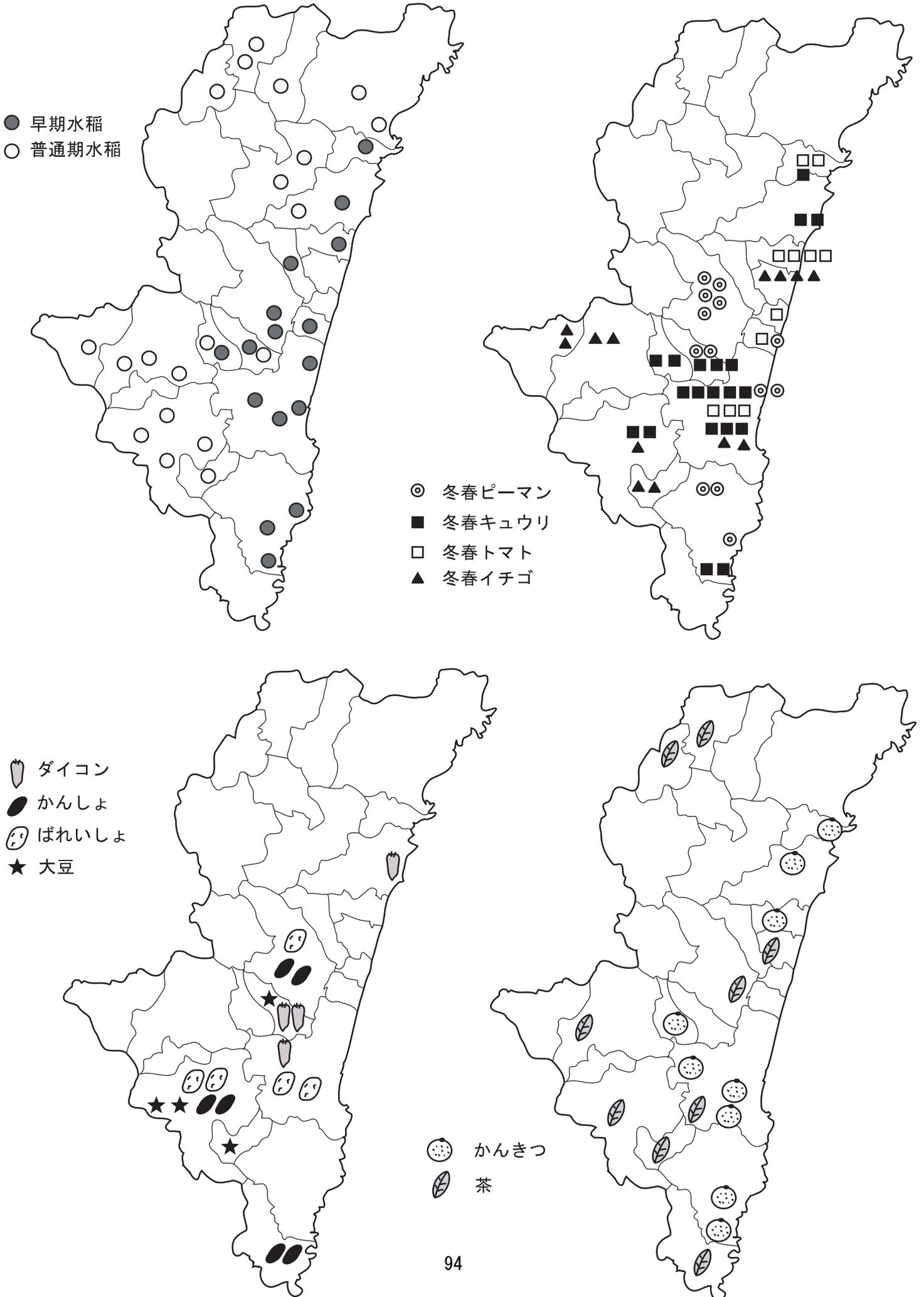
番号	普及センター名	採取場所	採取日	平均口針鞘数	離脱予想日	飛来日	備考
1	中部	高岡町高浜	7月25日	1.9	9月6日	9月8日	
2	中部	国富町靱木	7月25日	0.0	9月9日	飛来なし	
3	南那珂	日南市大窪	7月23日	1.1	9月5日	9月10日	
4	南那珂	日南市飢肥	7月24日	0.0	9月8日	飛来なし	
5	南那珂	日南市南郷町札野尾	7月23日	0.0	9月7日	9月5日	
6	西諸	小林市坂下	7月24日	0.3	9月8日	9月1日	
7	西諸	小林市須木	7月24日	0.0	9月8日	飛来なし	
8	児湯	西都市宝財原	7月24日	0.0	9月8日	9月4日	
9	児湯	都農町立野	7月24日	0.1	9月8日	飛来なし	
10	南部	日向市高森山	7月25日	3.0	9月4日	9月1日	
11	北部	延岡市川島	7月25日	0.3	9月8日	飛来なし	
12	北部	北方町上崎	7月24日	0.0	9月8日	飛来なし	
13	防除センター	新富町	7月31日	0.0	9月15日		
14	防除センター	川南町	7月31日	1.1	9月13日		

Ⅲ その他

1 病害虫防除員の設置状況

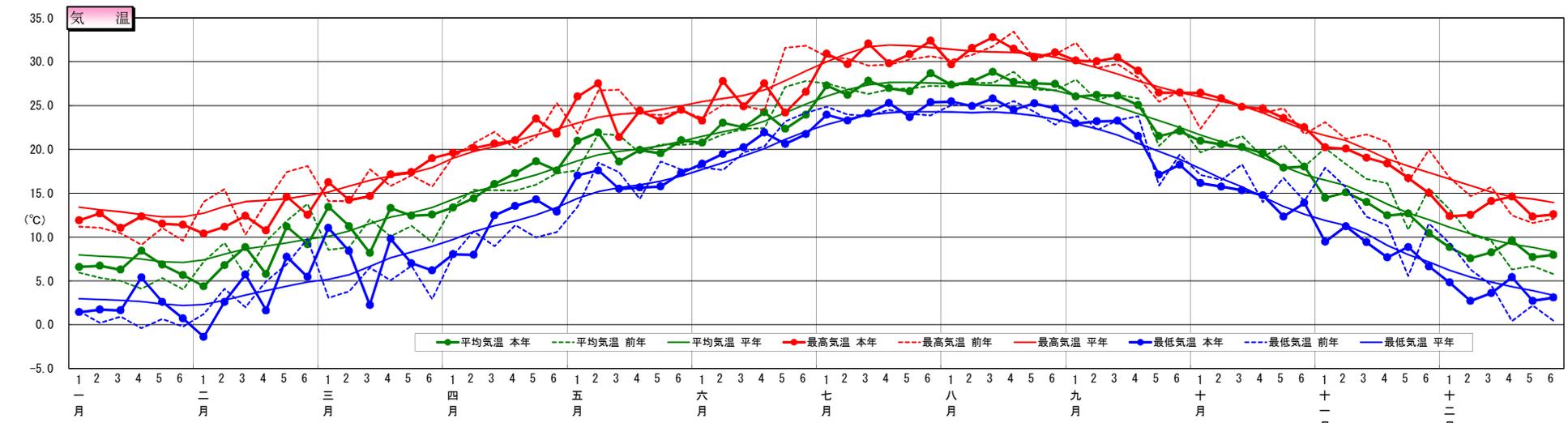
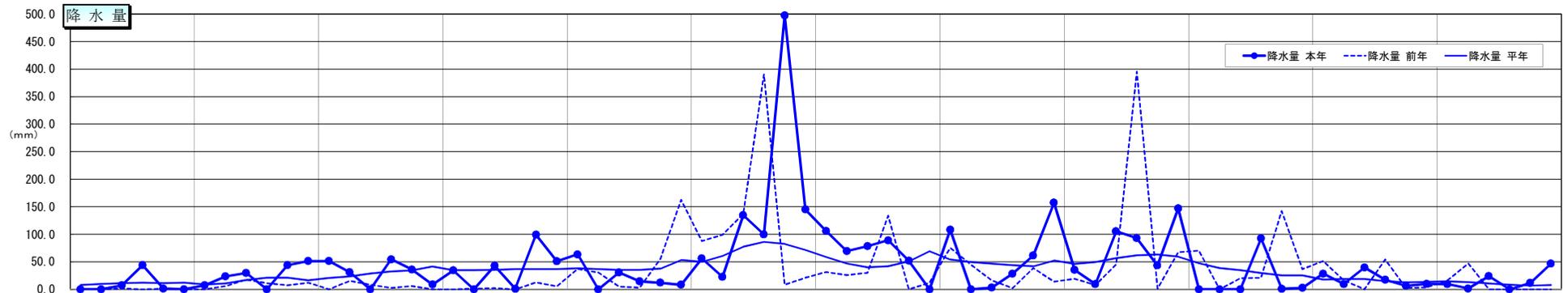
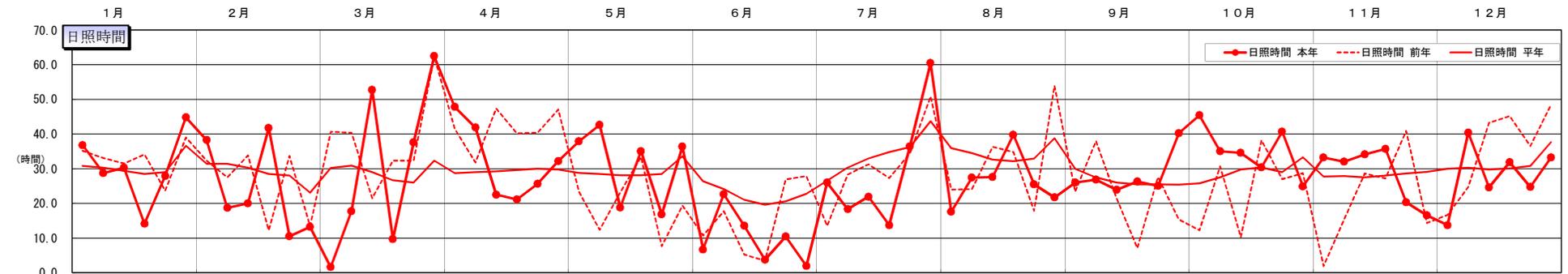
市町村	定数	水稻	果樹	茶	野菜	市町村	定数	水稻	果樹	茶	野菜
宮崎市	7	2	1		4	西米良村	1	1			
国富町	2	1			1	木城町	1				1
綾町	1				1	川南町	1		1		
小計	10	3	1		6	都農町	2		1		1
日南市	4	2	2			小計	10	3	2		5
串間市	1				1	延岡市	4	4			
小計	5	2	2		1	日向市	2	2			
都城市	6	5		1		門川町	1		1		
三股町	1	1				美郷町	3	3			
小計	7	6		1		諸塚村	1	1			
小林市	4	3		1		椎葉村	1	1			
えびの市	1				1	小計	12	11	1		
高原町	1	1				高千穂町	2	1		1	
小計	6	4		1	1	日之影町	1	1			
西都市	3	1			2	五ヶ瀬町	1			1	
高鍋町	1	1				小計	4	2		2	
新富町	1				1	合計	54	31	6	4	13

2 巡回調査ほ場の分布図



3 平成24年気象表 (アメダス日時統計データより)

(平年値1981~2010年)



宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課
(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)

880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5805 番地

TEL 0985-73-6670

FAX 0985-73-2127

E-mail : [byogaichu-hiryo @ pref.miyazaki.lg.jp](mailto:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)